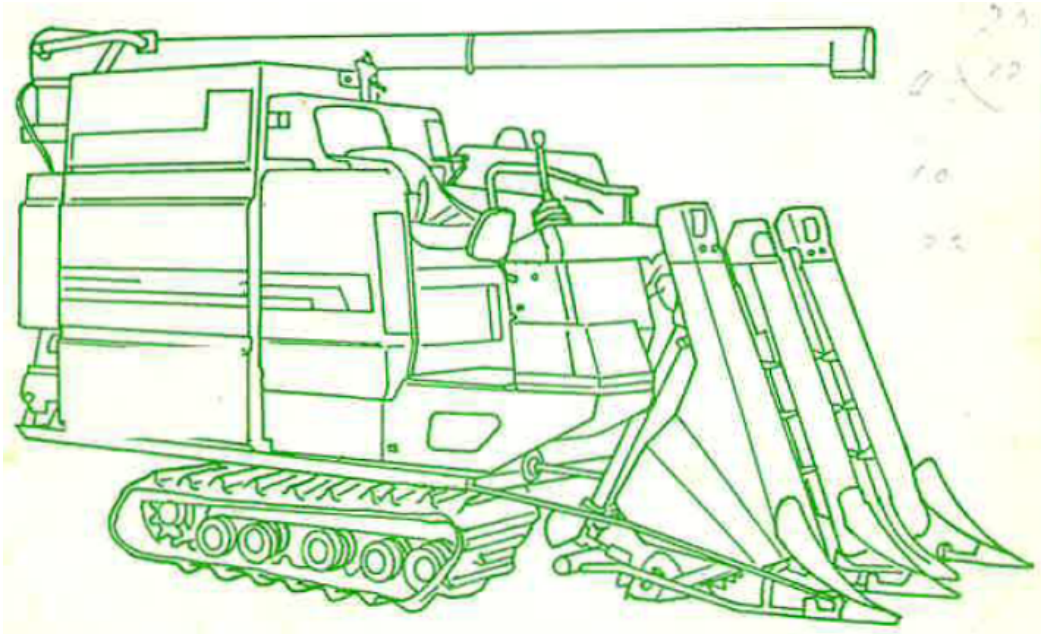
コンバイン

取扱説明書

MC26G



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

もくじ

主な名称 …… 1

ご使用まえに …… 2

＋安全のポイント …… 4

1 安全作業をするために …… 4
2 道路を走行するときは …… 8
3 電装関係の点検をするときは
- [1] 電気配線点検時の注意 …… 10
- [2] 電気配線の点検 …… 10
- [3] ヒューズ及びヒュージブルリンクの取り扱い …… 10
- [4] 電気配線の清掃 …… 12
- [5] バッテリ着脱時の注意 …… 12
- [6] バッテリの点検 …… 13
- [7] バッテリチャージャの使いかた … 14
- [8] 一般の充電器で充電するときの注意 …… 15

上手な運転のしかた …… 17

1 各部の取扱い
- [1] スイッチ・計器関係 …… 17
- [2] ペダル・レバー関係 …… 21

2 運転まえの準備
- [1] 梱包部品の取付け …… 27
- [2] 給油・注油・給水 …… 28

3 エンジンの始動と停止
- [1] 始動のしかた …… 38
- [2] 停止のしかた …… 39
- [3] 駐車のしかた …… 41

4 走行のしかた …… 40
5 トラックへの積込み・積降ろし
- [1] トラック・ブリッジについて …… 41
- [2] コンバインについて …… 42

もくじ

上手な作業のしかた …… 43

1 刈取りできる作物とほ場の条件…… 43
2 作業まえの準備……1 ほ場の準備…… 44
2 機械の準備…… 45
3 刈取り作業のしかた……1 刈取り操作の手順…… 47
2 ほ場の刈取り手順…… 50
3 こく粒の排出操作方法…… 53
4 タンク補助樋口の取扱い…… 55
5 トルクリミッタの取扱い…… 56
6 エンジン自動停止の取扱い…… 57
7 夜間作業…… 57
8 手こぎ作業…… 57
9 シャトルスイッチの取扱い…… 58
9 刈取り作業終了後の操作手順…… 59
4 ワラ処理部の取扱い……1 カッタ作業…… 60
2 排ワラ作業…… 61
5 こぎ深さ自動制御の取扱い……1 運転装置…… 62
2 こぎ深さセンサの調節のしかた… 63
3 こぎ深さ自動制御が使えない条件
…… 63
6 方向自動制御の取扱い……1 運転装置…… 64
2 作業しかた…… 65
3 方向自動制御の使えない条件…… 66
7 刈高さポジションコントロールの取扱い…1 運転装置…… 67
2 作業しかた…… 68
8 スーパースライドクローラ装置の取扱い…1 運転装置…… 70
（デラックス仕様）
2 操作のしかた…… 70
9 機体水平自動制御の取扱い……1 運転装置…… 72
（機体水平制御仕様）
2 作業のしかた…… 73
10 マイコン（マイクロコンピュータ）の取扱い…… 74
11 麦刈り作業のしかた…… 75

もくじ

手入れのしかた …… 77

1 定期点検整備表…… 77

2 点検と清掃……
- 1 エンジンオイル・フィルタの交換 …… 81
- 2 エアクリーナの清掃…… 82
- 3 ラジエータ防じんフィルタの清掃 …… 82
- 4 燃料の補給…… 83
- 5 燃料フィルタの清掃…… 83
- 6 ラジエータ冷却水の取扱い…… 84
- 7 油圧作動油・油圧オイルフィルタの交換 …… 85
- 8 ソレノイドバルブのフィルタの清掃 …… 86
- 9 グレンタンクの倒しかた…… 88
- 10 こぎ室内部の掃除…… 89
- 11 揺動流板部の掃除…… 90
- 12 2番ラセンの掃除…… 91
- 13 揚こくラセンの掃除…… 91
- 14 第2こぎ室の掃除…… 91
- 15 1番ラセン底板, 2番ラセン底板の掃除…… 92
- 16 排じん室の掃除…… 92
- 17 グレンタンク部の掃除のしかた… 93
- 18 カッタのオープンのしかた…… 94
- 19 カッタ刃の交換と分解…… 95
- 20 引起こしカバーの取外しかた…… 99
- 21 掻込み爪の交換のしかた…… 99

3 調整のしかた……
- 1 レバーとペダルの点検・調整…… 100
- 2 ベルトの点検・調整…… 105
- 3 チェンの点検・調整…… 109
- 4 クローラの点検・調整…… 111

4 長期格納のしかた……
- 1 機体の清掃と洗浄…… 112
- 2 サビ止めと注油…… 112
- 3 エンジンの手入れ…… 112

もくじ

4 点検・整備…… 112
5 格　納…… 113

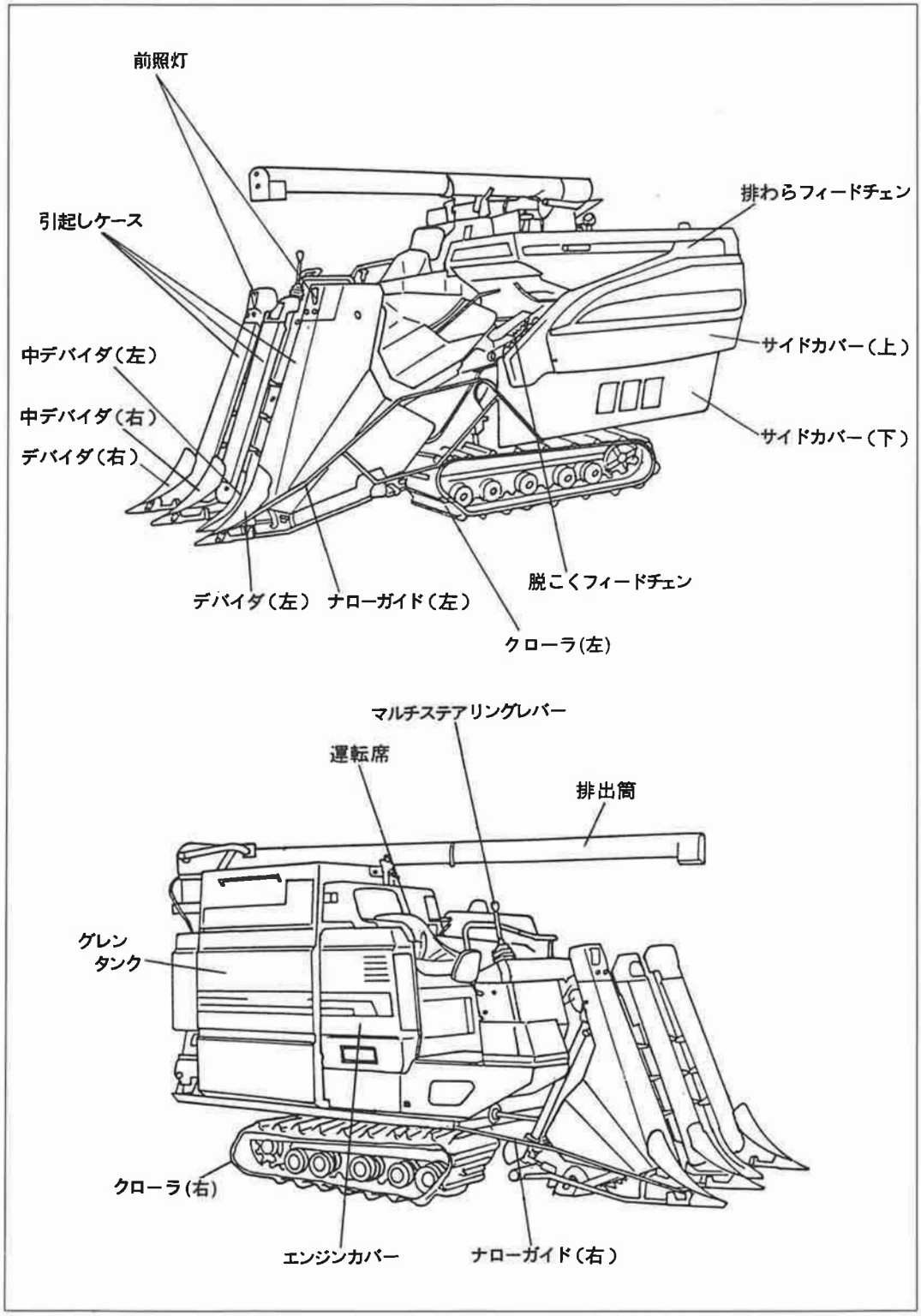
不調の発見と処置（トラブルシューチング）……114

1 エンジン部関係…… 114
2 走行・運転操作部関係…… 116
3 電気・自動制御部関係…… 120
4 刈取部関係…… 121
5 脱こく部関係…… 123
6 グレンタンク部関係…… 127
7 ワラ処理部関係…… 128

付　　表……129

1 主要諸元…… 129
2 電気配線図…… 131
3 ベルト一覧表…… 135
4 主な消耗部品一覧表…… 136
5 潤滑油…… 139
6 コンバイン関連商品…… 141

主な名称


前照灯
引起しケース
中デバイダ(左)
中デバイダ(右)
デバイダ(右)
排わらフィードチェン
サイドカバー(上)
サイドカバー(下)
デバイダ(左)
ナローガイド(左)
脱こくフィードチェン
クローラ(左)
マルチステアリングレバー
運転席
排出筒
グレン
タンク
クローラ(右)
エンジンカバー
ナローガイド(右)

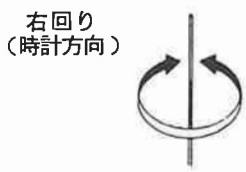
ご使用まえに

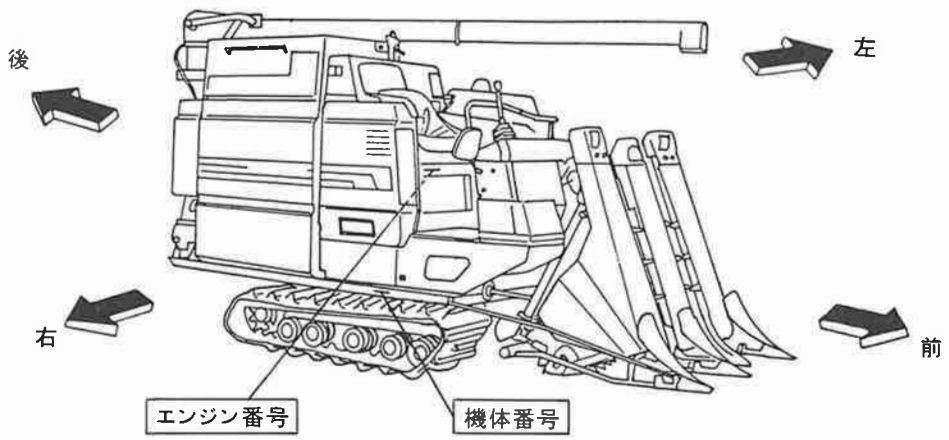
このたびは，コンバインをお買いあげいただき，まことにありがとうございます。

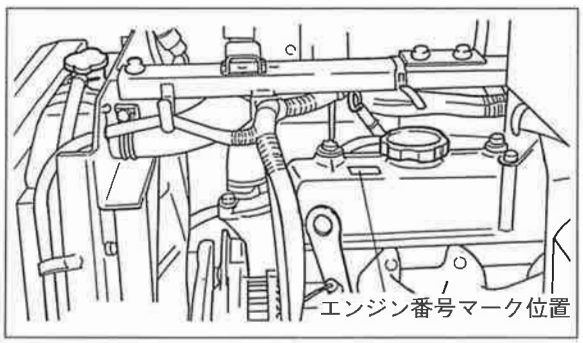
このコンバインの性能を十分に発揮させ，より安全で快適な農作業をしていただくためにも，ご使用のまえに《**取扱説明書**》をよくお読みいただき，正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

1 「機械番号」と「エンジン番号」について

このコンバインには《**機械番号**》と《**エンジン番号**》がそれぞれ図示のところに表示されています。サービスについてのお問いあわせや部品などご用命のときには，《**お買いあげ先**》に必ず《**機械番号**》と《**エンジン番号**》をお知らせください。







2「用語」と「マーク」について

この《**取扱説明書**》で使用している“**前後**”“**左右**”“**左回り**”“**右回り**”などの《**用語**》は，図示のように決めております。またこの《**取扱説明書**》では特に注意していただくところに下記《**マーク**》を使用しております。


……不具合防止と作業ポイント


……安全作業

注記 ……補足説明

3「装備仕様」について

この取扱説明書は《**共通仕様**》を基本に編集してあります。そのほかの仕様は異なる点についてのみ説明しています。

装備 ＼ 主な型式	バッテリチャージャ	スーパースライドクローラ	マルチステアリング	クローラ 湿田(380)	クローラ 湿田広幅(450)	シャトルスイッチ	可動転輪	刈幅調節	刈高ポジション	こぎ深自動	方向自動	機体水平制御	グレンタンク	カッタ15枚刃
26GAKC	○		○	○		○			○	○	○		○	○
26GUYAKC	○		○		○	○		○	○	○	○		○	○
26DGAKC	○	○	○	○		○			○	○	○		○	○
26DGUYAKC	○	○	○		○	○		○	○	○	○		○	○
26GLUYAKC	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

G…グレンタンク仕様　D…デラックス仕様
UY…超湿田仕様　L…機体水平制御仕様

注）カッタは他に22枚刃仕様があります。

・なお，これらのコンバインは工場から出荷のときは《稲作業セット》にしてあります。麦作業のときは，《取扱説明書》の75～76ページ《麦刈り作業》の項を参考に調整してご使用ください。

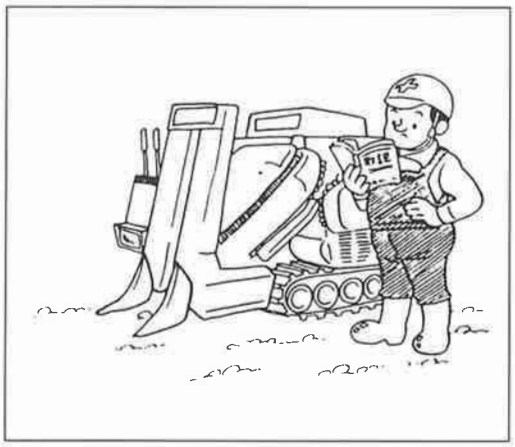
安全のポイント

安全な作業をしていただくためには，まず機械の性能を十分に理解し，正しい取扱いをすることが基本となります。この《**取扱説明書**》のなかで，そのつど ✚ マークで表示の《**安全作業**》のポイントをまもっていただき，さらにつぎの《**安全作業をするために**》をよくお読みいただいて，事故のない楽しい作業をしてください。

1 安全作業をするために

1 運転者の条件

❶ この《**取扱説明書**》をくりかえし読んで，機械の取扱いを十分に理解し，《**正しい運転操作**》をしてください。



❷ 《**酒気おびの人**》，《**妊娠中の人**》，そのほか《**体の調子が悪い**》などで，正常な取扱いができない人，および《**16歳未満の人**》は，機械の運転をしないでください。



❸ 服装は，作業に適したものを着てください。特に《**だぶついた服装**》は，回転部に巻き込まれやすく危険です。
《**ヘルメット・保護具**》などを着け，キチンとした《**すべらない靴**》をはいてください。



2 人に機械を貸すときは

貸し出すまえに《**取扱いかた**》や《**安全のポイント**》をよく説明し，さらにこの《**取扱説明書**》を十分に読むように指導してください。

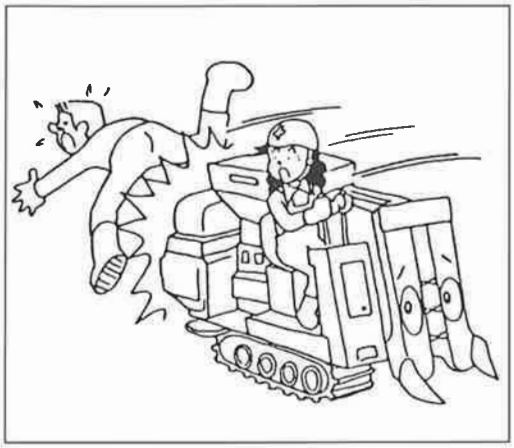
3 エンジンの始動・発進

❶ エンジンを始動するときは，必ず作業機クラッチレバーを《**切**》り，主変速レバーも《**中立(N)**》にしてください。

❷ 屋内など，換気の悪い場所でエンジンを運転するときは，《**排ガス中毒**》の危険があります。
《**窓や戸**》を開け，換気には十分注意しましょう。

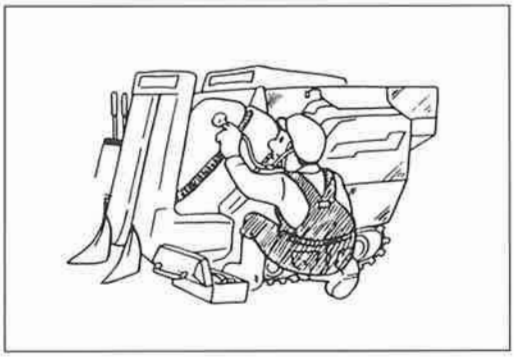


❸ エンジンを始動し発進するときは，まわりに人がいないか確かめ，《**ホーンボタン**》を押して必ず《**あいず**》をしてからスタートしてください。

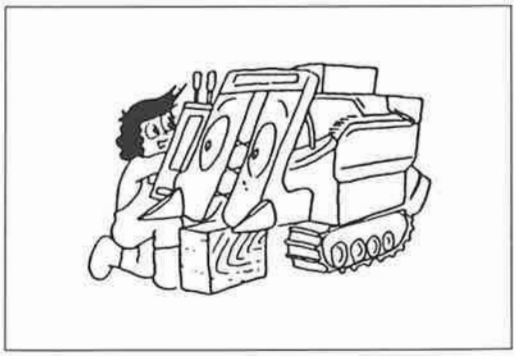


4 点検・整備

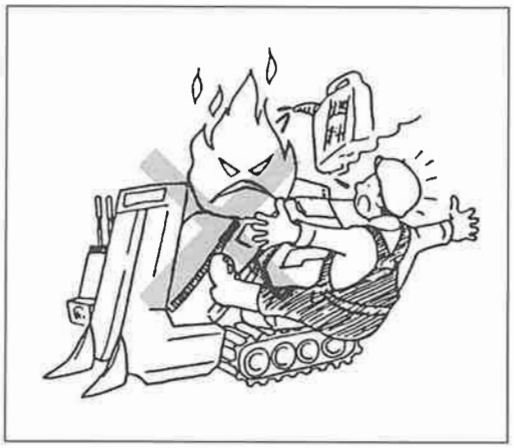
❶ 正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように，《**定期点検整備表**》を参考に点検・整備をしてください。



❷ 刈取部をあげてその下で点検作業をするときは，平坦な場所で，必ず《**エンジンを停止**》し，《**油圧固定**》をし，さらに刈取部の下に《**固定脚**》をおいてください。



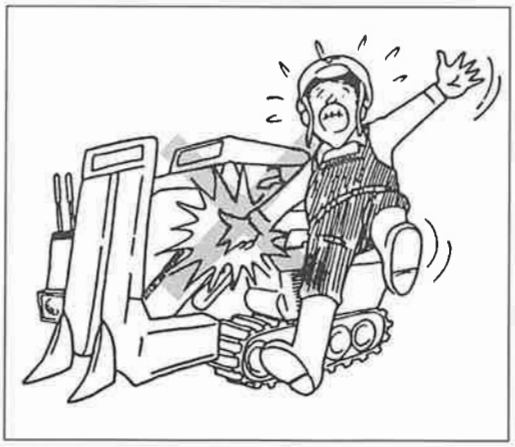
❸ 燃料の補給は《**火気厳禁**》を心がけ，エンジン運転中，または停止直後の《**過熱した状態**》で，給油しないでください。



❹ エンジン運転中，および停止直後は，絶対にラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し，《**ヤケド**》をすることがあります。運転停止後，エンジンがよく冷えてから，注意して開けてください。

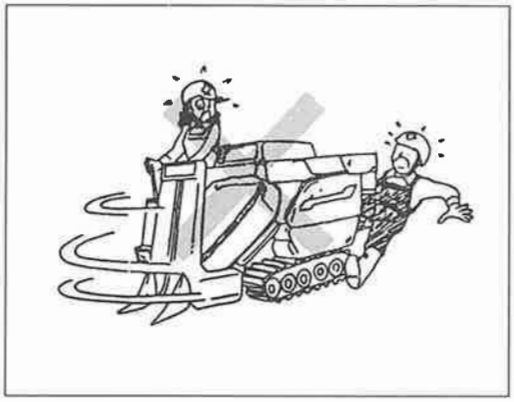
5 安全な作業

❶ 回転部や作業部・マフラなど，《**危険な個所**》には手を触れないよう注意してください。



❷ 高速で走行するときは，マルチステアリングレバーを強く操作すると，《**急旋回**》し危険です。《**安全な速度**》で操作してください。

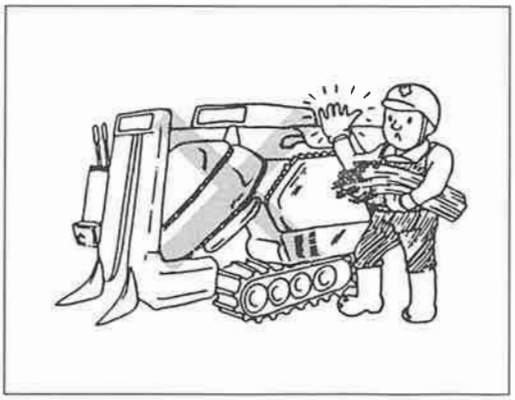
・後進・旋回，または移動するときは，必ずまわりの安全を確かめましょう。



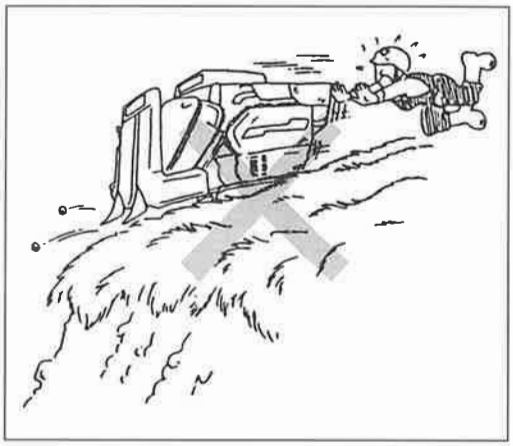
❸ ２人以上で作業をするときは，回転部を動かす前に，《**声を掛けあい**》安全を確かめましょう。

・作業に関係ない人は，機械に近づけないようにしてください。

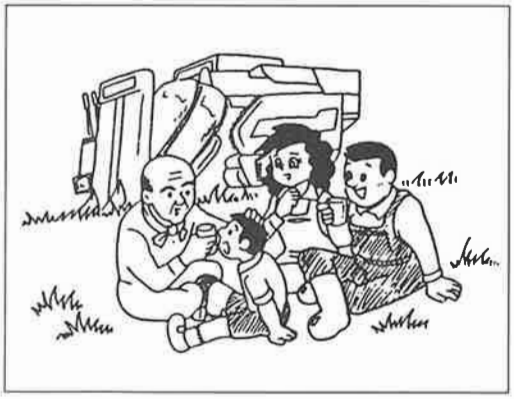
❹ 手こぎ作業をするときは，フィードチェンに手を触れないように注意し，危険ですから《**手袋**》を使用しないでください。



❺ 機械を離れるときは，《**平坦な場所**》を選びエンジンを止め，駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げておいてください。



❻ 過労にならないよう，《**適度**》の休息をとりながら，楽しい作業をしてください。



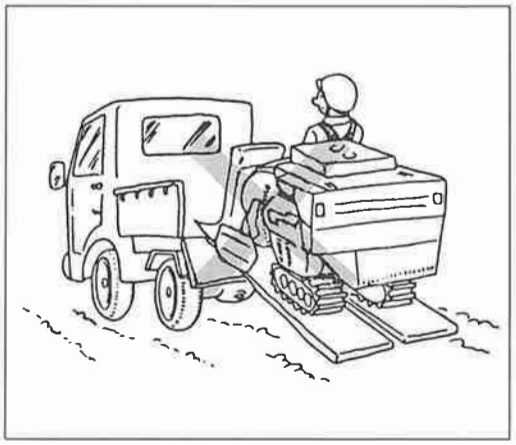
6 積込み・積降ろし

❶ 《**平坦な場所**》を選び，トラックには駐車ブレーキをかけ，タイヤにも《**ハドメ**》をしてください。

❷ ブリッジは，《**トラックの荷台高さ**》の４倍以上の長さがあり，《**丈夫**》で《**滑り止め**》をしたものを，確実に固定して使用してください。

❸ 積込み積降ろしは，エンジンを，《**低速回転(Ｌ)**》にし，速度は《**最低速**》で行い，絶対にコンバインに乗らないでください。。

・ブリッジの上での進路変更が絶対にないように，**左右のクローラをブリッジの中央にまっすぐにセット**してください。もし危険と判断できる場合は，再度，セットし直して行ってください。



❹ 高低差の大きいほ場への出し入れは，必ず《**ブリッジ**》を使用してください。

2 道路を走行するときは

1 小型特殊自動車

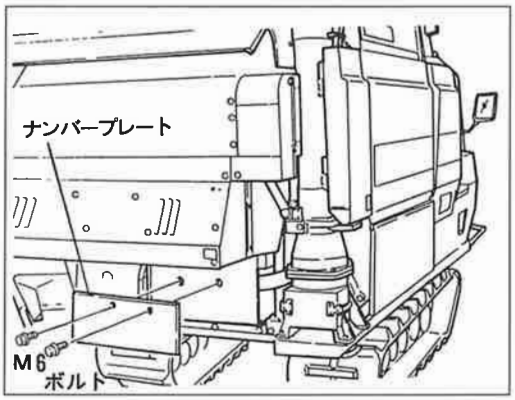
このコンバインは，法令に規定する《**小型特殊自動車**》です。

❶ 小型特殊自動車の届出とナンバプレートの取付け

・手続きは，市（町・村）の条例により，市（町・村）に届出し，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により，多少異なる場合がありますので，詳しいことは《**お買い上げ先**》にご相談ください。

小型特殊自動車の取得証明書（《**お買い上げ先**》で準備します）をそえて，市役所（町・村役場）に提出し，ナンバプレートの交付を受けたら，機体の指定された位置に取付けます。



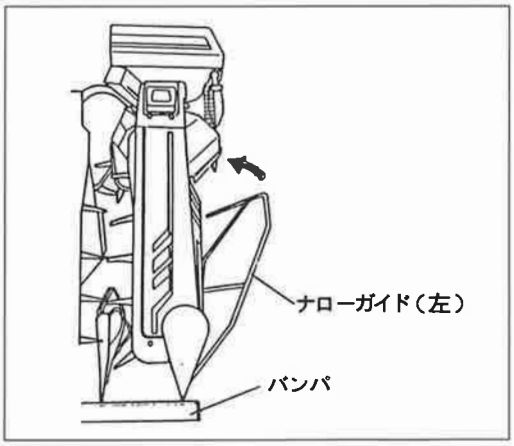
道路を走行するときは，《**法の規制**》を受けますので，《**小型特殊自動車**》の運転ができる免許証が必要です。必ず運転免許証を携帯してください。



2 道路走行

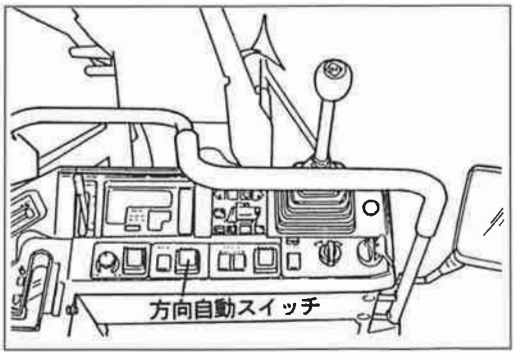
道路を走行するときは，法（小型特殊自動車の基準）に従って，つぎのことを守り，《**安全な速度**》で運転をしてください。

❶ デバイダ先端に《**バンパ**》を取付け，《**ナローガイド(左)**》を収納します。



❷ カッタ以外のわら処理装置を取外します。

❸ 方向自動スイッチを《**OFF**》にします。

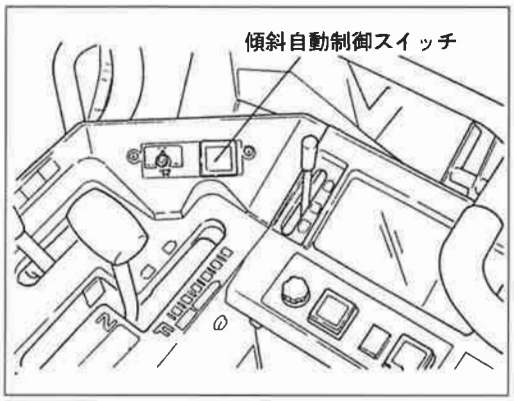


《スーパースライドクローラ装備機》

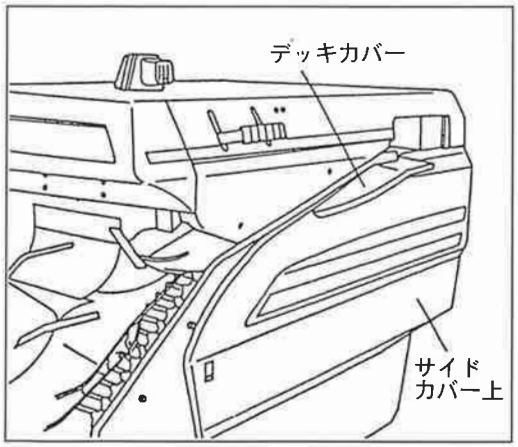
❹ クローラ(右)を《ＯＵＴ》位置に移動し，クローラ間隔を広くします。
（70～71ページ参照）

《機体水平制御仕様機》

❺ 傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にし，機体が一番下まで下がっていることを確認してください。機体が下がっていない場合は手動操作で下げてください。



❻ デッキカバーを付けている場合は，デッキカバーを取り外します。



◆公道走行時はナンバープレートを装着し，必要な免許証を携帯して規則を守って安全運転してください。

◆作業中および移動時は安全のためヘルメットをかぶってください。

◆コンバインを離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を降ろしてエンジンを停止し，駐車ブレーキを掛けてください。

◆後進および旋回する時は周囲の安全を確認し低速で行ってください。

◆狭い農道や傾斜地，路肩の草が生い茂っている所は，十分注意し，低速で走行してください。

◆運転者の他に人を乗せないでください。

3 電装関係の点検をするときは

1 電気配線点検時の注意

❶ 電気配線の点検時には，危険ですので《エンジンを停止》してください。

❷ 接続部の点検時には，危険ですので必ずスタータスイッチを《ＯＦＦ》にし，バッテリターミナルコードのアース側㊀端子を外してください。

2 電気配線の点検

配線のターミナル（端子）部の《緩み》は《接続不良》になり，また，配線が《損傷》していると電気部品の性能を損うだけでなく，《ショート（短絡）》《漏電》または《焼損》など，思わぬ事故になることもあります。

傷んだ配線は，早めに交換，修理してください。

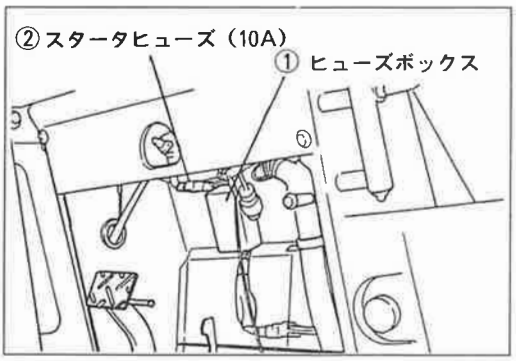
3 ヒューズ及びヒュージブルリンクの取扱い

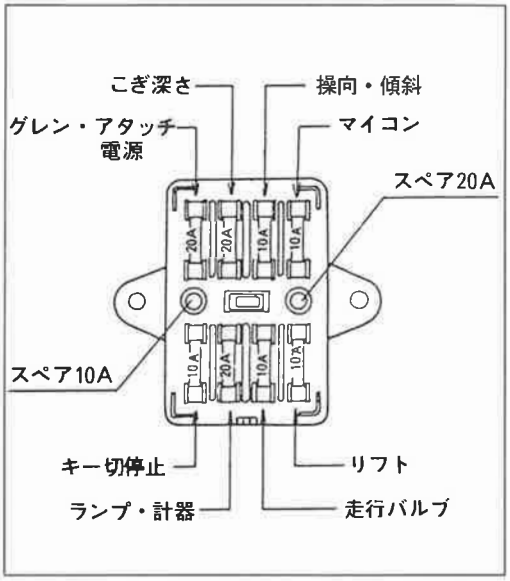
配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズ及びヒュージブルリンクが設けてあります。

運転中，電気系統に異常を確認したときは，ヒューズ及びヒュージブルリンクの状態をチェックします。

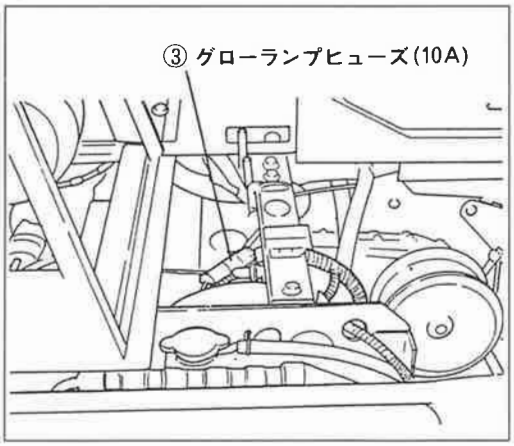
❶ ヒューズボックス

❷ スタータヒューズ

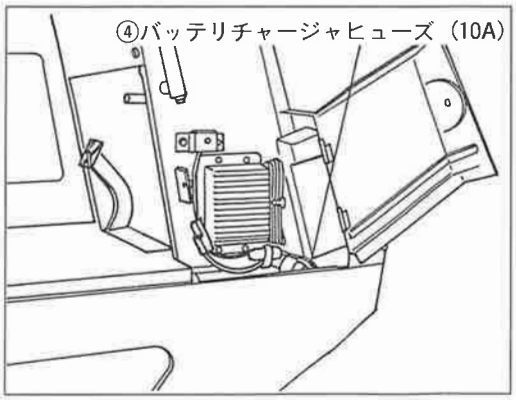




❸ グローランプヒューズ



❹ バッテリチャージャヒューズ

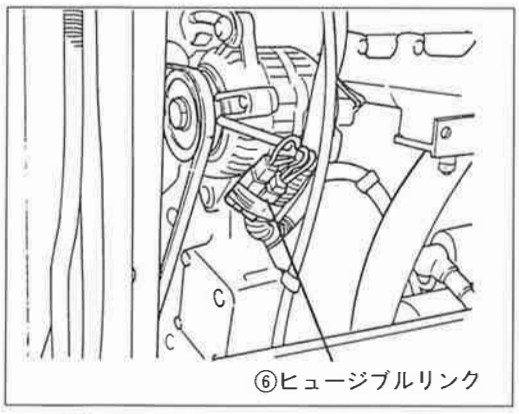


◆ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不良となります。

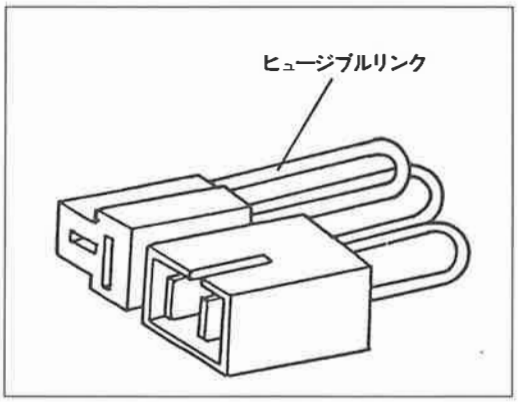
ヒューズの種類 ＼ 影響の出る機能	エンジン始動	オートグロー	計器類のモニタランプ	前照灯・ウインカ	主変速レバー	燃料ポンプ	排出筒旋回	こぎ深さ調節	こぎ深さ自動	マルチステアリング	方向自動制御	機体水平制御(OP)	傾斜手動レバー(OP)	刈高さポジション	ホーン	排ワラエンジン停止	シャトルスイッチ	バッテリチャージャ
キー切停止	×																	
ランプ・計器	×	×	×	×		×									×			
走行バルブ					×												×	
グレン・アタッチ電源							×											
こぎ深さ								×	×									
操向・傾斜										×	×	×	×					
リフト										×				×				
マイコン					×				×	×	×	×	×	×	×	×	×	
スタータ	×																	
グローランプ			×															
バッテリチャージャ																		×

注）OP……オプション

❺ ヒュージブルリンク



⑥ヒュージブルリンク

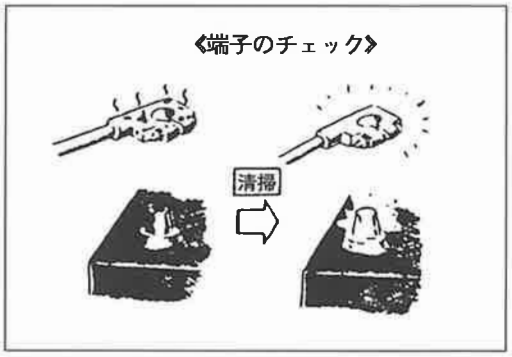


◆ヒュージブルリンクが切れているときは
すべての電気系統が作動しません。
切れた原因を調べ修理後，純正部品のヒュージブルリンクと交換してください。

4 電気配線の清掃

❶ 電気配線部に溜っている《ワラやゴミ》などは取除いてください。

❷ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が《腐食》することがあります。端子が腐食すると，《接触抵抗》が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，《定期的》に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除いてください。



◆⊕端子と機体が接触しないように注意してください。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないように注意してください。（逆接すると，電装部品が破損します。）

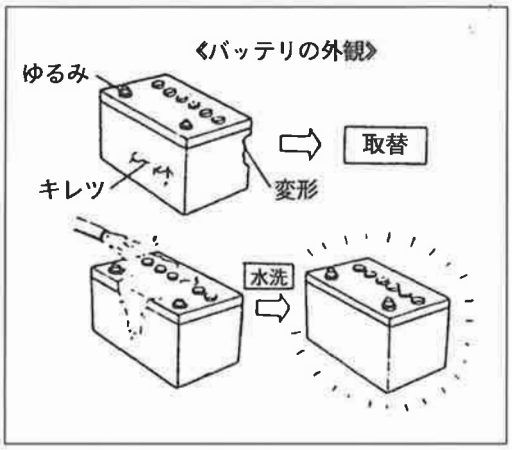
◆各端子は《ゆるみ》がないように確実に締付けてください。

❸ 取付金具のチェック

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，電そうやフタが摩耗したりキレツを生ずることがあります。

取付金具でしっかり固定します。腐食していれば修理または取替えます。

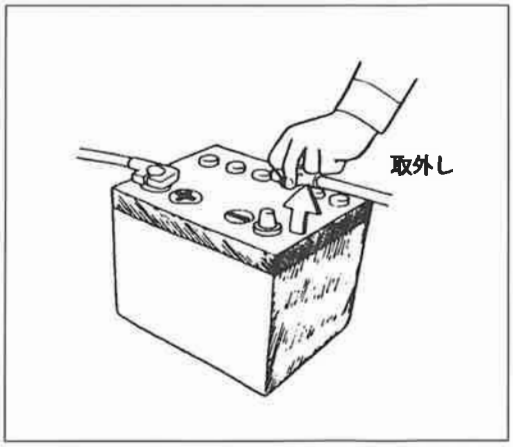
キレツや変形のあるバッテリは新品と取替えます。汚れていれば清水で洗浄します。洗浄後は水分を完全に拭きとってください。（化繊布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。）



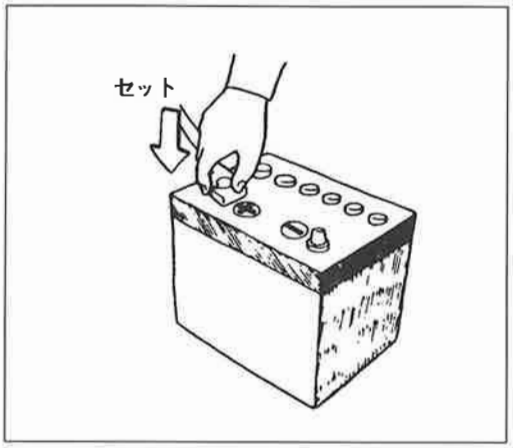
5 バッテリ着脱時の注意事項

❶ バッテリを《着脱》したり一般の充電器で《充電》するときは，必ずエンジンを止め，《キー》を抜き取り，すべての電気スイッチを《ＯＦＦ》にしてください。

❷ ターミナルコード（端子）を《取外すときは，アース側⊖端子を先に》外します。



❸ ターミナルコードを《セットするときは，プラス側⊕端子を先に》取付けます。
その時⊕端子と機体が接触しないよう注意してください。



❹ セットするとき⊕端子と⊖を間違えないよう十分に注意してください。
《逆接》すると，電装部品が《破損》します。

❺ 各端子は《緩み》がないように《確実に締付》けてください。

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い《水素ガス》を多量に発生し，《引火爆発》の危険があります。絶対に《火気》を近づけたり，《スパーク》による電気火花が発生しないよう注意してください。

◆バッテリ液（電解液）は，稀硫酸で劇毒物です。取扱いには十分注意してください。

◆バッテリを《着脱》したり一般の充電器で《充電》するときは，必ずエンジンを止め，スタータスイッチを《ＯＦＦ》にしてください。

6 バッテリの点検

バッテリの電気量と液量を確認します。

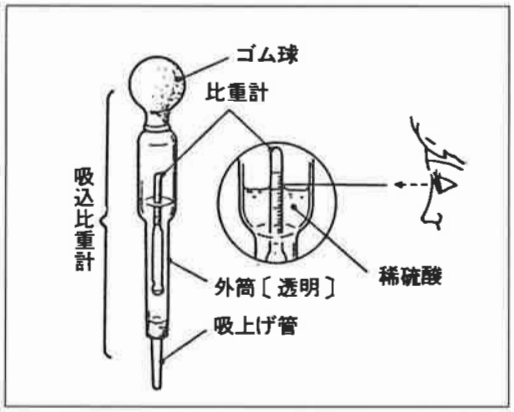
❶ 残存容量の確認

バッテリ液の《比重》を測定する方法と，《バッテリテスタ》で測定する方法があります。

残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

㋐ バッテリ液の比重が《1.220（20℃）》以下であれば補充電をします。

バッテリ液比重は大気温20℃を標準とし，１℃変化するごとに比重値を0.0007だけ増減して温度補正します。



比　重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

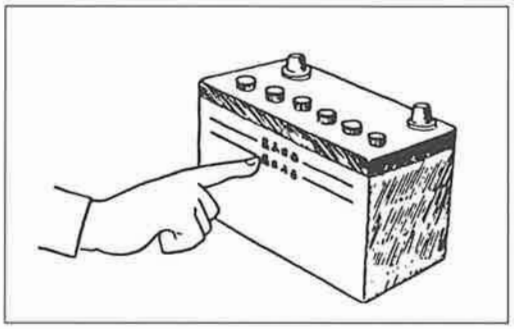
㋑ バッテリテスタで測定し，メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば装備のバッテリチャージャで補充電をします。

《緑ゾーン》……正常
《黄ゾーン》……やや放電
《赤ゾーン》……かなり放電

❷ バッテリ液量の確認

使用状態での充電電流によりバッテリ液が電気分解され，しだいに液面が低下します。

減っていれば，精製水を《最高液面》まで注水補給します。

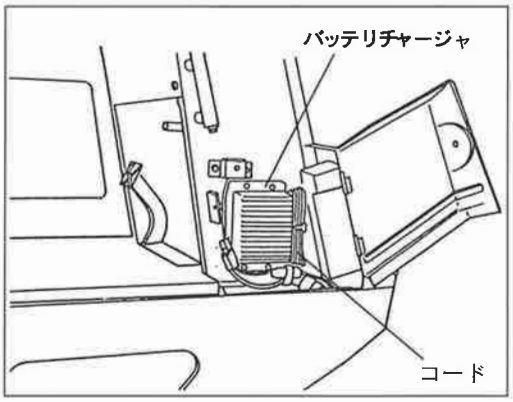


8 バッテリチャージャの使いかた

❶ 長期保管時の補充電

エンジンがかかりにくくなった場合には，バッテリチャージャで補充電を行ってください。

◆バッテリチャージャ使用時は必ずスタータスイッチを《ＯＦＦ》にしてください。



❷ 充電手順

㋐ コードをフックより取外します。

㋑ バッテリチャージャの交流プラグを近くの交流100Ｖのコンセントに挿入します。挿入するだけで充電を開始します。

（橙色ランプ点灯）

㋒ バッテリが満充電状態になると充電は自動的に停止します。

（緑色ランプ点灯）

㋓ 充電終了後は速やかに交流プラグを抜いて，コードをフックにしっかり巻き付けて，クランプを確実にしておいてください。

◆次の場合はバッテリチャージャで充電できません。

・赤色ランプ点灯時

点灯後，交流プラグを一度抜いてやり直してください。

・バッテリが逆接されているとき。

・充電中にエンジンを始動したとき。

・バッテリチャージャのヒューズが溶損しているとき。

◆次の場合は橙色ランプが点灯しても，充電に長い日数を要しますので，一般の充電器で充電するか，バッテリを交換してください。（次のページ参照）

・バッテリの放電状態がひどいとき。

（比重　1.19以下）

・寿命が経過したバッテリ。

◆放電状態がひどい場合には，満充電状態に達しなくても，充電開始４日（約96時間）後には充電を自動的に停止して，緑色ランプが点灯します。

・この場合交流プラグを一度抜いて差し込めば，再び充電を開始します。

◆バッテリを良好な状態に保つため，少なくとも２カ月に一回，バッテリチャージャによる補充電を行ってください。

8 一般の充電器で充電するときの注意

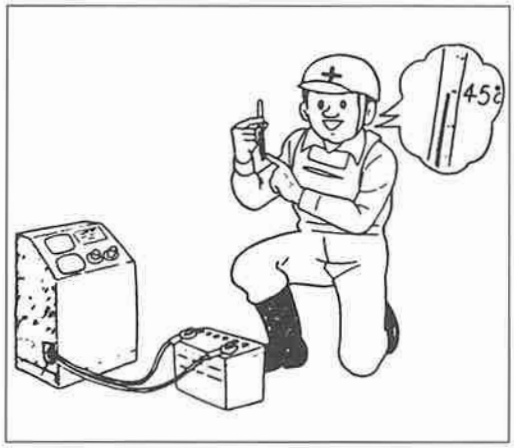
❶ 充電作業にとりかかるまえに必ずエンジンを止め《キー》を抜きとります。



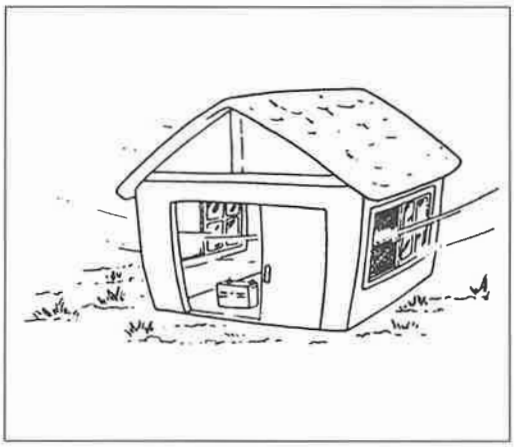
❷ 充電するときは《液口栓》をすべて取外します。



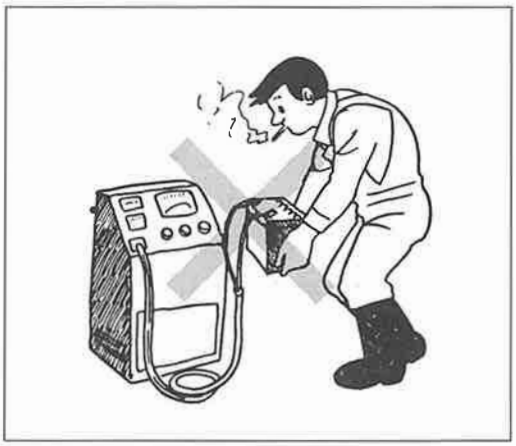
❸ 急速充電はできるだけ避け，普通充電により液温が《45℃》を超えないように注意します。



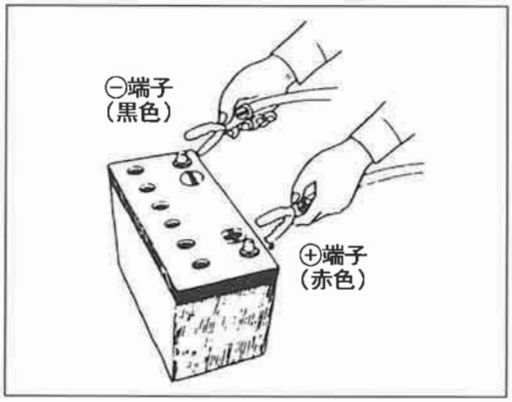
❹ 《水素ガス》が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。



❺ 《火気》を近づけたり《スパーク》により電気火花が発生しないよう注意をします。

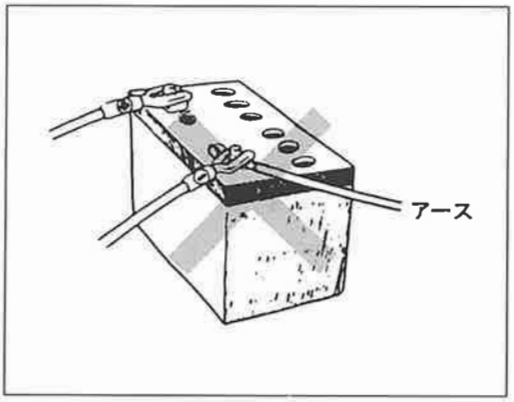


❻ 充電器のクリップを着脱するときは，必ず充電器のスイッチを《ＯＦＦ》にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）をそれぞれ正しく確実に取付けます。



❼ バッテリを搭載したまま充電するときは，バッテリの《アース側（⊖端子）》を必ず取外します。

・⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器やハーネスを焼損することがあります。



❽ 充電のとき《バッテリ液》が飛散することがあるので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないよう注意します。

・バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，ただちに水洗いをし，医師の手当を受けます。

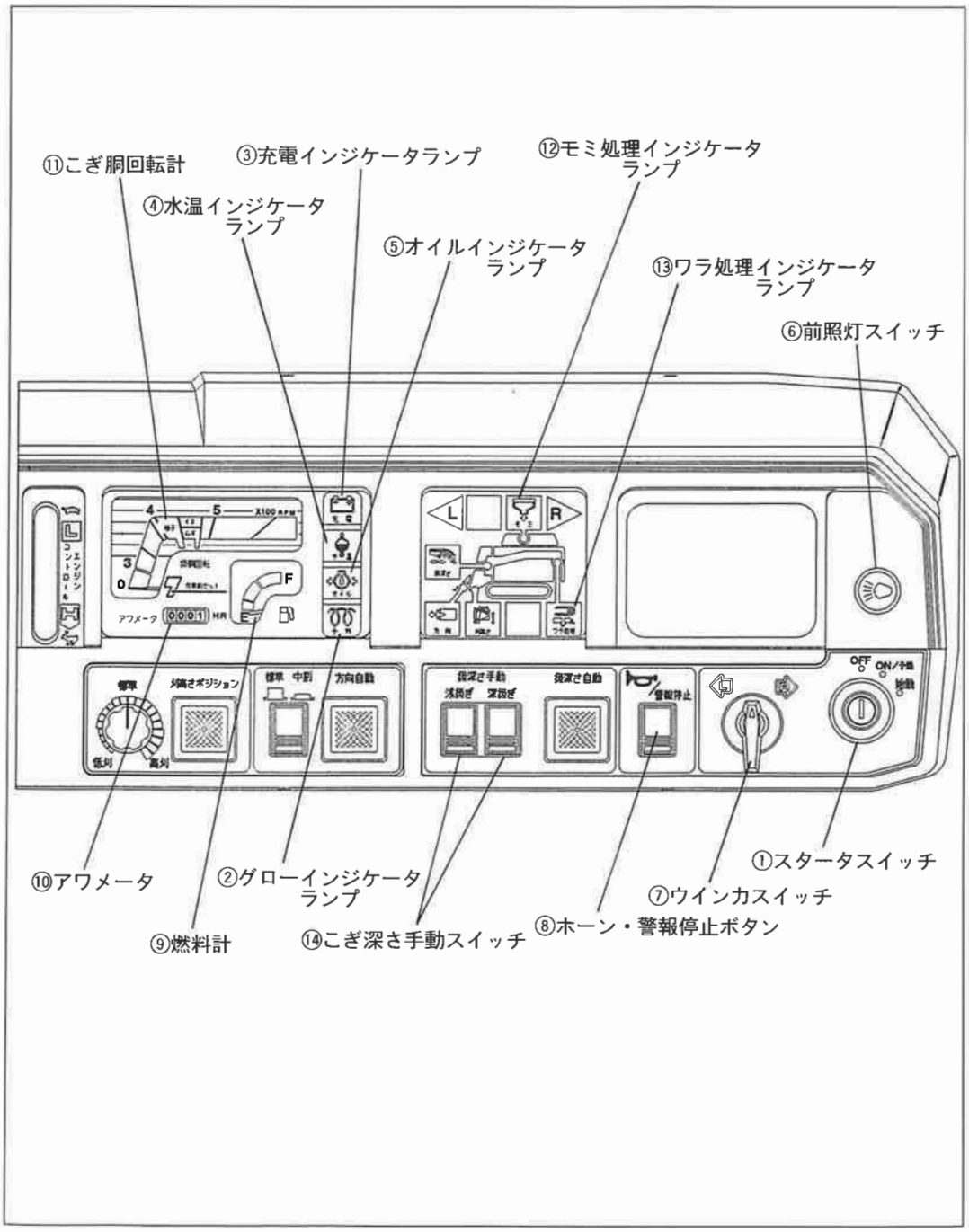


・衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ石けんで硫酸分を洗い流します。

上手な運転のしかた

1 各部の取扱い

1 スイッチ・計器関係



❶ スータタスイッチ



《ＯＦＦ》……電源切
（エンジン停止）

キーをＯＦＦにするとエンジンが停止します。

《ＯＮ(予熱)》……電源入（運転中）

キーをＯＮにするとメータ内のグローインジケータランプが点灯し，グローに通電します。
約６秒後に消灯してグローが完了しますので始動操作をしてください。

《始動》……エンジン始動

手を放せば自動的に《ＯＮ》位置にもどります。



◆走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。

❷ グローインジケータランプ



スータタスイッチを《ＯＮ》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約６秒後に消灯し予熱が完了します。

❸ 充電インジケータランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンが停止しているとき，スータタスイッチを《ＯＮ》位置にすると点灯しエンジンを始動すると《消灯》するのが正常です。

◆エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトを張ってください。

◆エンジンファンベルトが正常であればほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

❹ 水温インジケータランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバヒート）すると《点灯》し，ホーンが鳴ります。

・スータタスイッチを《ＯＦＦ》にすると鳴りやみます。

◆運転中にランプが点灯したらすぐに作業を中止し，温度がさがるまでエンジンを《低速運転》してください。

◆エンジンを停止し，防じんフィルタ，エンジンファンベルトの張り，ラジエータおよび補助タンクの水量などを点検してください。

❺ オイルインジケータランプ



エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば《点灯》します。

エンジンを始動後，回転があがれば《消灯》するのが正常です。



◆運転中に点灯したときは，エンジンオイル量を点検してください。
オイル量が正規であれば，ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

❻ 前照灯スイッチ



スタータスイッチを《ＯＮ》位置にし，スイッチを１段引くと前照灯が点灯します。

❼ ウインカスイッチ



スタータスイッチを《ＯＮ》位置にして，Ⓛの位置を回すと左側のウインカが点滅します。Ⓡの位置に回すと右側のウインカが点滅します。

❽ ホーン・警報停止ボタン



スタータスイッチを《ＯＮ》位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報・作業のあいずに使用します。

警報停止の場合

・《モミ》インジケータランプの点灯およびホーンが鳴ったとき，このボタンを押すとホーンが鳴りやみます。



◆警報停止ボタンを押してもつぎの場合は鳴りやみません。

・エンジンがオーバヒートしたときは，すぐに作業を中止し，温度がさがるまでエンジンを低速運転してください
・ノッタ作業時，ひもが切れたとき，またはひもがなくなったときは，ただちにエンジンを停止し，点検してください。

◆警報は，スタータスイッチを《ＯＦＦ》にすると鳴りやみます。

❾ 燃料計



スタータスイッチが《ＯＮ》位置のとき作動し，燃料タンク内の燃料の量を示します。
《Ｆ》は満量（約25ℓ），《Ｅ》は残量なしを示します。



◆燃料は《Ｅ》になる前に早めに補給してください。

❿ アワメータ

刈取り作業時間を表示します。

刈取り作業時間により定期点検整備を行います。

⓫ こぎ胴回転計



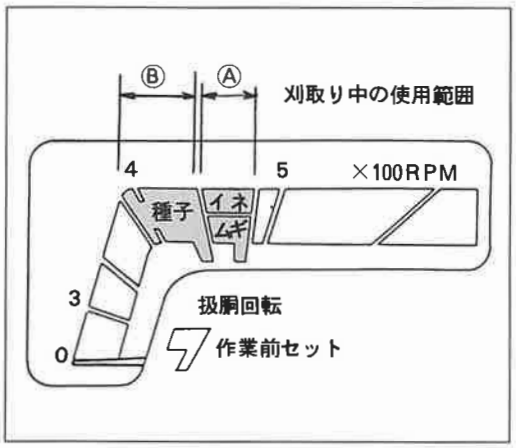
こぎ胴回転数は，イネ，ムギ（大麦・小麦・裸麦），ビール麦・種子等，刈取る作物によって異なります。

・こぎ胴回転数はエンジンを始動し，作業機クラッチレバーを《入》の位置にしてコントロールレバーで色別マークの上限にセットします。

・作業中は回転計の針が常時《色別マーク》の範囲内に位置するようにして使用します。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲

・種子の場合……Ⓑの場合



⓬ モミインジケータランプ



グレンタンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，《赤点灯》とホーンの《断続音》で知らせます。

そのまま作業を続けると，ホーンが《連続音》に変わり，エンジンが停止します。



◆最初の警報が鳴ったら，刈取り作業を中止し，タンク内のこく粒を排出してください。

◆最初の警報はパネルの警報停止ボタンを押すと鳴りやみます。

◆エンジンが停止したら，作業機クラッチを切ればエンジンを始動することができます。

⓭ ワラ処理インジケータランプ



㋐ 排ワラ詰まり時にインジケータランプが《点灯》し，ホーンの《連続音》が鳴りエンジンが停止します。



◆詰まり時にエンジンが停止したら，スタータスイッチを《ＯＦＦ》にし，詰まりを取除きます。

◆作業機クラッチレバーを切ればエンジンの始動はできます。

◆警報は作業機クラッチレバーを切れば止まります。

㋑ ノッタ作業中，ひもが切れた時や，ひもがなくなったときにランプが《点灯》し，ホーンの《連続音》で知らせます。ただちに作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから点検します。



◆ 警報は作業機クラッチレバーを切れば止まります。

⓮ こぎ深さ手動スイッチ



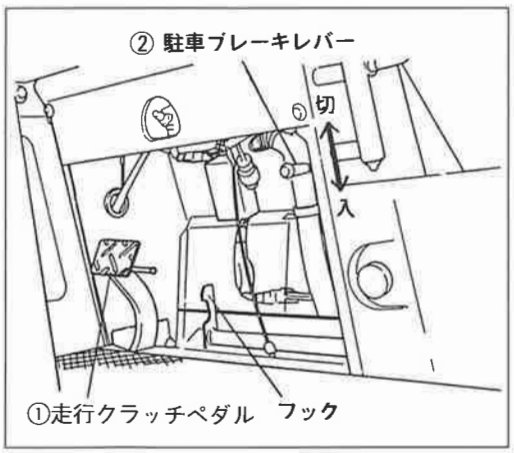
作物の長さにあわせて，こぎ深さを調節するスイッチです。

脱こく入口の《穂先マーク》位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調節します。

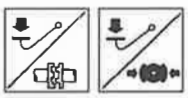
《深こぎ》……こぎ深さが深い位置に移動します。

《浅こぎ》……こぎ深さが浅い位置に移動します。

2 ペダル・レバー関係



❶ 走行クラッチペダル



ペダルを踏込むとトランスミッションへの動力を伝達するクラッチが切れ，更にいっぱい踏込むと，ブレーキがかかります。

・つぎの操作を行うときに必ずペダルを踏込みます。

㋐ エンジンを始動するとき。

《始動安全装置》にもなっていますので，ペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。

㋑ 機械を緊急停止するとき。

㋒ 傾斜地での作業で機械を停止するとき。

㋓ 走行中に副変速レバーまたは刈取変速レバーを操作するとき。



◆主変速レバーはノンクラッチ操作できますので，前・後進の際に，走行クラッチペダルを踏込む必要はありません。

❷ 駐車ブレーキレバー



・ 駐車するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，駐車ブレーキレバーを下げペダル横の丸棒にフックを引掛け，ペダルから足をはなします。

・解除するときはペダルを踏込むと自動的にフックがはずれます。



◆坂道等傾斜のあるところで駐車するときは，木片などで《ハドメ》をします。

◆長期保管のときは，必ず走行クラッチペダルに，駐車ブレーキレバーを下げてフックを掛けてください。
フックを掛けないで長期間格納するとメインクラッチが固着することがあります。



❸ コントロールレバー



エンジンを加速・減速するレバーです。

- 《始動のとき》…手前にレバーを引き，《始動》の位置にセットして，スタータスイッチで，エンジンを始動します。
- 《作業のとき》…脱こく部のこぎ胴回転数が適正回転数になるよう，レバーで調整します。

❹ 主変速レバー



ノンクラッチで走行の変速ができます。前進(F)・後進(R)いずれも任意の位置に操作するだけで，《作業に適した速度》がえられます。

◆主変速レバーを《前進》から《後進》，または《後進》から《前進》に入れるときは，必ず機体が完全に停止してから行ってください。

- もし主変速レバーを操作しても，前後進の切替えができないときは，副変速レバーを，低速(L)または高速(H)への変速操作をしてください。

◆刈取変速《H》での作業時は，主変速レバーの操作位置をF 8～12にしても，走行速度はF 7の速度に制限されます。

❺ 副変速レバー

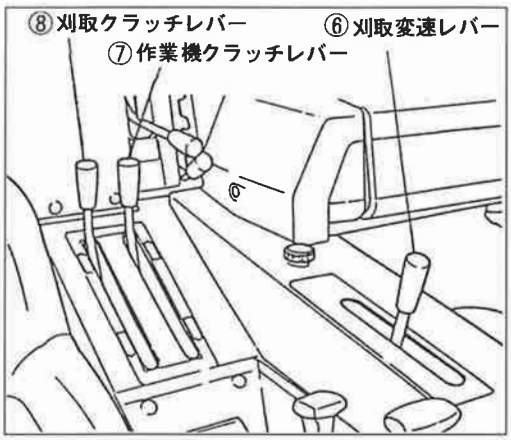


低速(L)，高速(H)の2段変速ができます。操作はクラッチペダルを踏込み，走行を停止してから行います。

主変速レバー，刈取変速レバーとの組合わせで，作業条件にあった適正な速度を選択します。

《刈取速度の選択》

副変速	刈取変速	作業状態	作物条件	
			立毛材	倒伏材
L(低速)	L(低速)	標準刈取	○	△
	H(高速)	倒伏刈取	△	○
H(高速)	L(低速)	使用禁止	×	×
	H(高速)	高能率刈取	○	△
▶刈取変速が(H)の場合，主変速はF 8以上の速度になりません。				



❻ 刈取変速レバー

作物の条件により，刈取部全体の速度を低速(L)，高速(H)の２段変速ができます。操作はクラッチペダルを踏込み，走行を停止してから行います。

❼ 作業機クラッチレバー



脱こく部の運転・停止をするクラッチレバーです。

◆刈取作業中，作業機クラッチレバーは，エンジン低回転では《入》れないでください。詰まりの原因となります。

◆作業機クラッチレバーを《入》に操作するときは，周囲に人がいないか安全を確かめてから行ってください。

❽ 刈取クラッチレバー

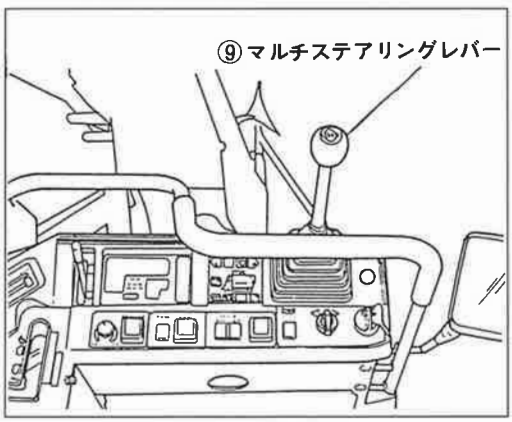


刈取部の運転・停止をするクラッチレバーです。

◆刈取クラッチレバーを《入》にすると，作業機クラッチレバーも連動して《入》となります。また，作業機クラッチレバーを《切》ると，刈取クラッチレバーも連動して《切》となります。

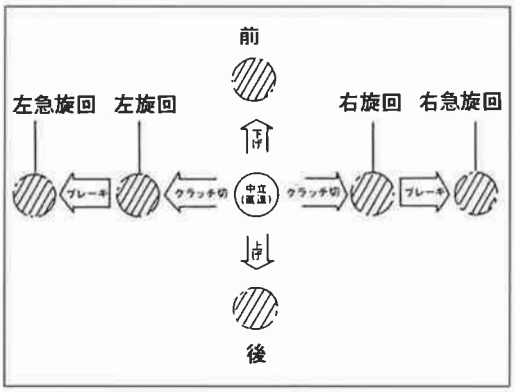
◆刈取クラッチレバーを《入》にしても主変速レバーが《中立(N)》位置にあるときは，刈取部は停止したままです。

❾ マルチステアリングレバー

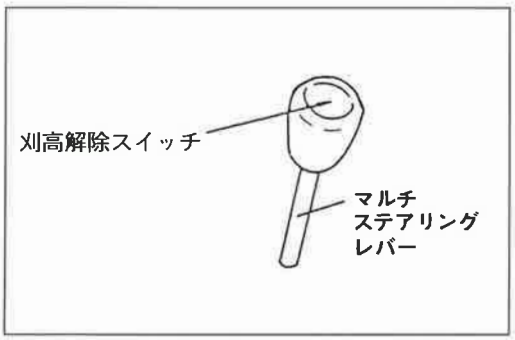


・１本のレバー操作により，左右操作で《旋回》，前後操作で刈取部の《上げ》《下げ》をします。

・左右に軽く倒すと機体は徐々に旋回し，強く倒すと急旋回します。



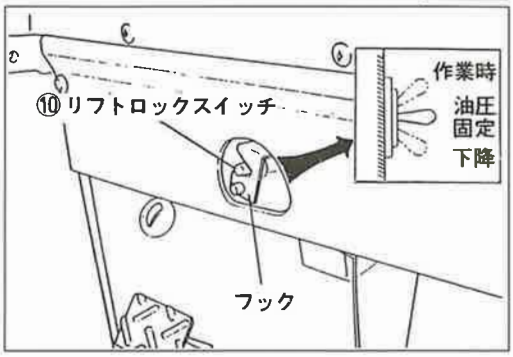
◆レバーの刈高さ解除スイッチの操作については，《刈高さポジションコントロールの取扱い（67～69ページ）》を参考に取扱いしてください。



◆高速で走行（副変速Hで主変速Ｆ８以上）するときはマルチステアリングレバーを強く倒すと，急旋回し危険ですので注意してください。

◆マルチステアリングレバーは，車両への積込み積降ろし時，ブリッジのうえでの操作は危険ですから絶対にしてはいけません。

⑩ リフトロックスイッチ



刈取部の《上げ》《下げ》をロックします。

・刈取部の《上げ》《下げ》はマルチステアリングレバーで行いますが，リフトロックスイッチを《油圧固定》の位置にするとマルチステアリングレバーを操作しても，刈取部は上下しません。尚このときは安全上必ず，フックを掛けてください。

・刈取部全体を取外すときにはスイッチを《下降》の位置にセットします。

・通常の作業時には，スイッチを《作業時》の位置で使用してください。

◆刈取部を上げて，その下で整備等するときは，必ずエンジン停止後，リフトロックスイッチを《油圧固定》の位置にセットし，フックを掛け，刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。

◆リフトロックスイッチを《下降》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく，刈取部は下がります。通常は危険ですからスイッチを《下降》の位置にしないでください。

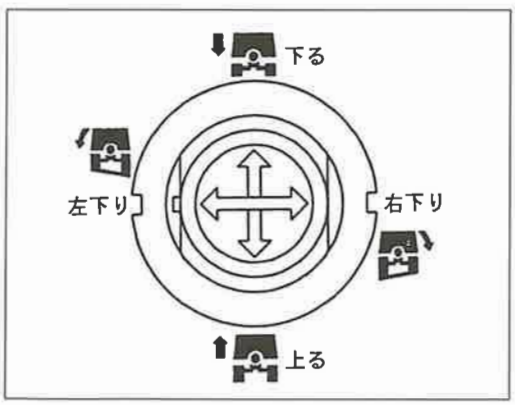
⓫ 傾斜手動レバー

《機体水平制御仕様機》

機体の《上げ》《下げ》《右下げ》《左下げ》をします。

- レバーを《上る》の方向に倒すと，機体が上がります。
- レバーを《下る》の方向に倒すと，機体が下がります。
- レバーを《右下り》の方向に倒すと，まず右側が下がり，次に左側が上がります。
- レバーを《左下り》の方向に倒すと，まず左側が下がり，次に右側が上がります。

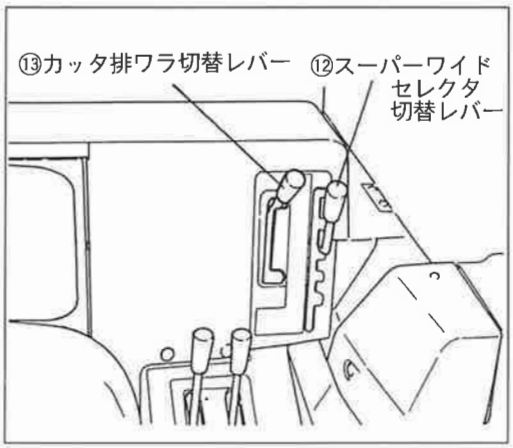


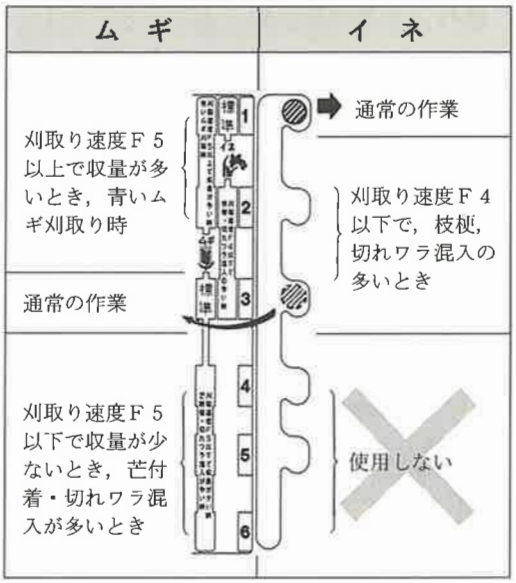


◆傾斜自動制御スイッチが《ON》でも手動操作をすると手動操作が優先になります。

⓬ スーパーワイドセレクタ切替レバー（選別調節）

- 作物の種類や刈取り条件により揺動流板のセット位置を切替えるレバーです。レバーをセットすると，脱こくされる稈量に応じて自動的に選別自動制御されます。





◆切替えレバーの操作は，脱こく内部のワラ屑等がきれいに排出されるまで脱こく部を十分カラ運転し，揺動流板上のワラ屑などが排出された後に行います。

◆また，シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，時々上記の要領でレバーを操作してください。
ワラ屑等が揺動流板上に溜まっていると，切替レバーが確実にセットできない場合があります。

⓭ カッタ排ワラ切替レバー

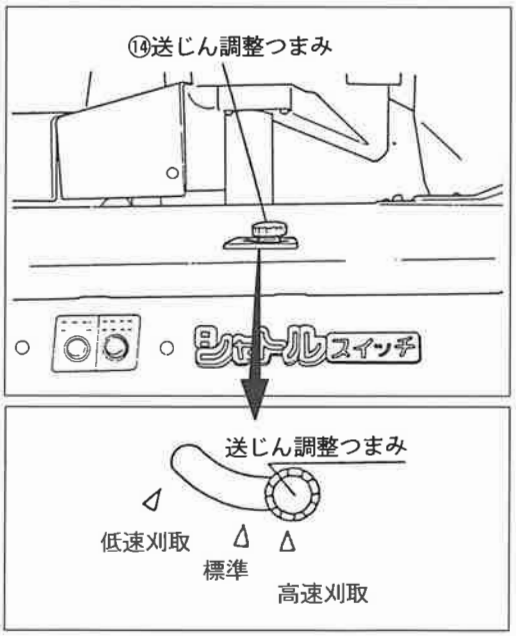
カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・操作は必ず作物が搬送途中にないことを確認してから行います。

⓮ 送じん調整つまみ

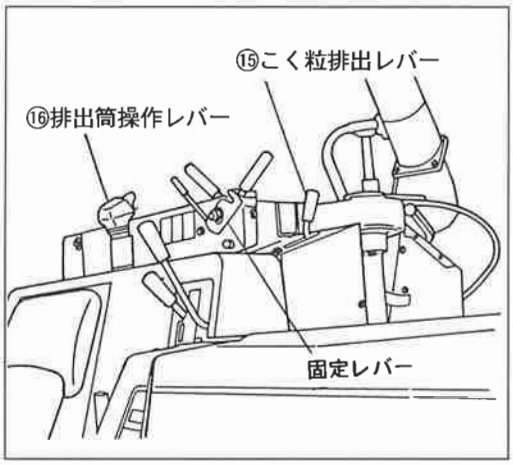
こぎ室内の送じん量を調整するつまみです。

・こぎ室内の送じんがスムースでないときは，つまみを《高速刈取》位置にします。



⓯ こく粒排出レバー

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。



◆こく粒を排出する場合は，作業機クラッチレバーを《入》にし，必ずエンジン回転を《高速(H)》にしてから行います。

⓰ 排出筒操作レバー

グレンタンク排出筒を《上・下》または《旋回》するレバーです。

・排出筒の操作は，《固定レバー》を解除してから行います。

・排出筒を旋回するときは，必ず排出筒を《上げ》てから行います。

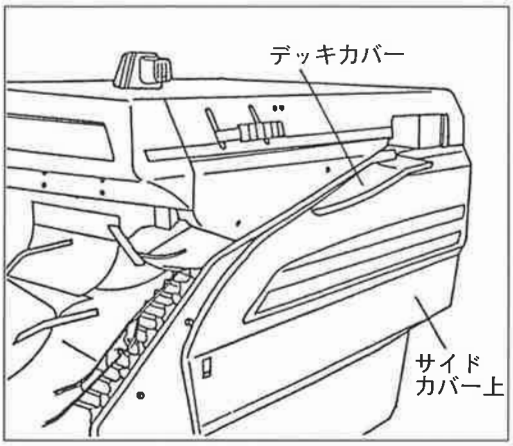
◆排出筒を上げたままでの移動および刈取り作業は，故障の原因となり，また危険ですので絶対行わないでください。
（固定レバーで排出筒を確実に固定します。）

2 運転まえの準備

1 梱包部品の取付け

・つぎの部品は荷造りの関係で取付けてない場合があります。そのときは説明図の位置に取付けてください。

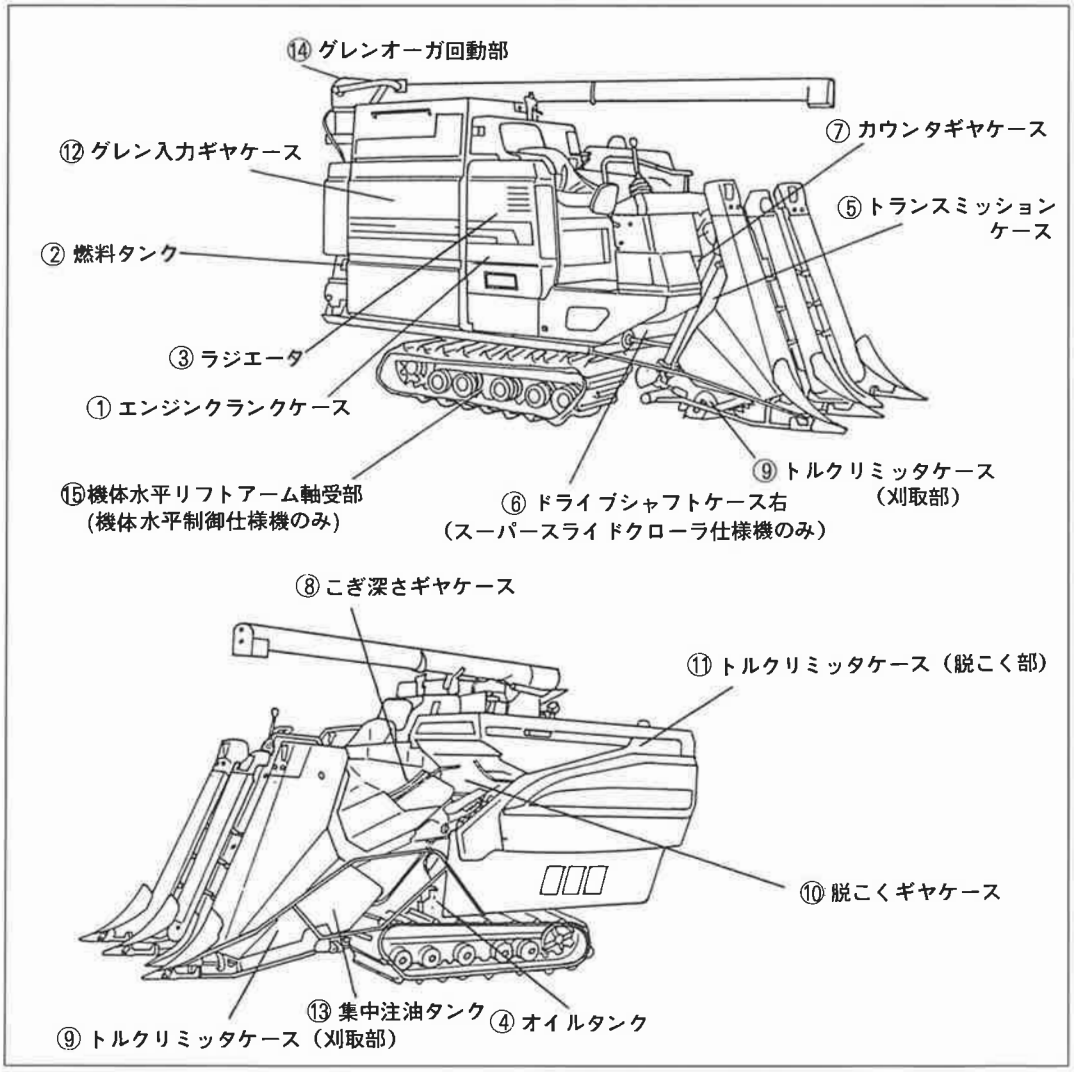
部品名称	数量	取付け部品と数量
デッキカバー	1	フランジナットM6・4ケ



・長稈材で株元が下がり，搬送姿勢が悪くなる場合に取付けてください。

2 給油・注油・給水

・工場から出荷のときは，各給油・給脂個所ともオイル・グリスは入っていますが，使用するまえに必ず点検をしてください。



◆給油・点検するときには，機体を水平な場所に置いて行ってください。
◆各給油個所には，必ず指定オイルを規定量，給油してください。
◆オイル交換は，作業後オイルが暖かいうちに行うと容易にできます。
◆廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となるので使用しないでください。

◆エンジン運転中，またはエンジン停止直後，過熱しているときの燃料補給は厳禁です。
◆給油・注油するときには，必ずエンジンを停止してから，行ってください。

《給油・給脂・給水表》

No.	個所	種類	分類 APIサービス分類	分類 SAE粘度番号	容量	備考
1	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CD級以上	10W－30	3.7ℓ	
2	燃料タンク	ディーゼル軽油			25ℓ	
3	ラジエータ（補助タンク含む）	冷却水			5.45ℓ	
4	オイルタンク	油圧作動油	GL－4級	80W	11.0ℓ	
					12.0ℓ	・スーパースライドクローラ仕様機 ・機体水平制御仕様機
5	トランスミッションケース	※1 ギヤオイル	GL－4級	80W	4.2ℓ	・機体水平制御仕様機
					3.7ℓ	スーパースライドクローラ仕様機
6	ドライブシャフトケース右	※2 ギヤオイル	GL－5級	#90	0.4ℓ	スーパースライドクローラ仕様機
7	カウンタギヤケース	※1 ギヤオイル	GL－4級	80W	2.8ℓ	
8	こぎ深さギヤケース	※3 ギヤオイル	GL－4級	#140	1.1ℓ	
9	トルクリミッタケース（刈取部） 右左	※3 ギヤオイル	GL－4級	#140	3.3ℓ	右1.6ℓ，左1.7ℓ
10	脱こくギヤケース	※2 ギヤオイル	GL－5級	#90	0.35ℓ	
11	トルクリミッタケース（脱こく部）	※2 ギヤオイル	GL－5級	#90	0.35ℓ	
12	グレン入力ギヤケース	※3 ギヤオイル	GL－4級	80W	0.4ℓ	
13	集中注油タンク	エンジンオイル			1.5ℓ	
14	グレンオーガ回動部	リチウムグリス				
15	機体水平リフトアーム軸受部	リチウムグリス				機体水平制御仕様機

ディーゼルエンジンオイル……（純正油）または，ディーゼルエンジン用オイル
API分類CD級以上，SAE粘度10W－30

油圧作動油……（純正油）または，使用オイル表（139ページ）中の指定オイル

※1ギヤオイル……（純正油）または，API分類GL－4級，SAE80W

※2ギヤオイル……API分類GL－5級，SAE90

※3ギヤオイル……API分類GL－4級，SAE140

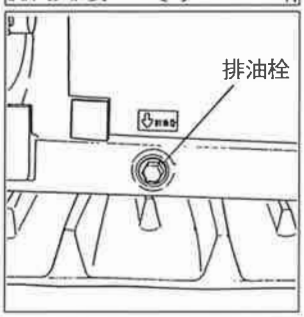
♣容量は燃料タンク・集中注油タンクを除き，そのほかの個所は工場出荷時の容量です。交換するときは，残量があるので，レベルゲージまたは検油栓により容量を管理してください。

♣使用オイルは，139ページのオイル表を参照してください。

❶ エンジンクランクケース

・純正油またはディーゼルエンジン用オイル
API・CD級以上，SAE・10W－30
・オイル量……3.7ℓ（レベルゲージの欠取り位置まで給油）







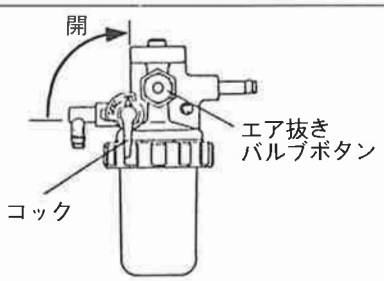
❷ 燃料タンク

・燃料……ディーゼル軽油
JIS 2 号または 3 号
・タンク容量……25ℓ



燃料の供給は必ずこし網を使用し，ゴミや水が混入しないように注意します。

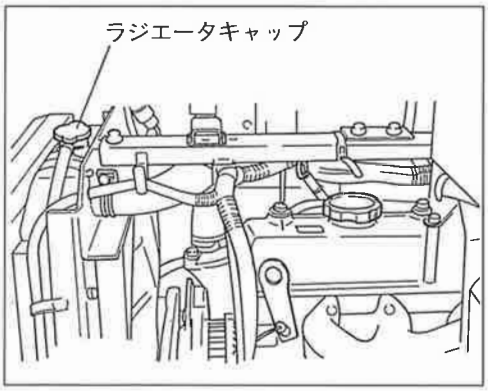
・エア抜きのしかた

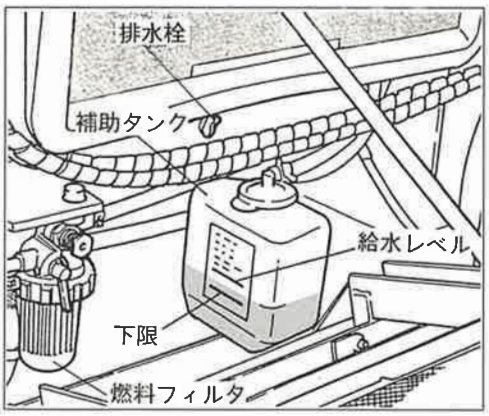


① エンジンカバーを開きます。（座席シートの下に，ロックハンドルがあります。）
② 燃料フィルタのコックを《開の位置》になっているか確認します。
③ スタータスイッチを《ＯＮの位置》にして，エア抜きバルブボタンを約30～40秒間押し続けます。
④ スタータスイッチを《ＯＦＦの位置》にします。
⑤ エンジンカバーを閉じます。（カバーのロックハンドルを，確実にロックしてください。）

❸ ラジエータ《補助タンク含む》

- ラジエータキャップを外し，冷却水を口元まで注入します。
- 補助タンクへの給水……タンク浮出し線(給水レベル)位置まで注入します。





冷却水容量

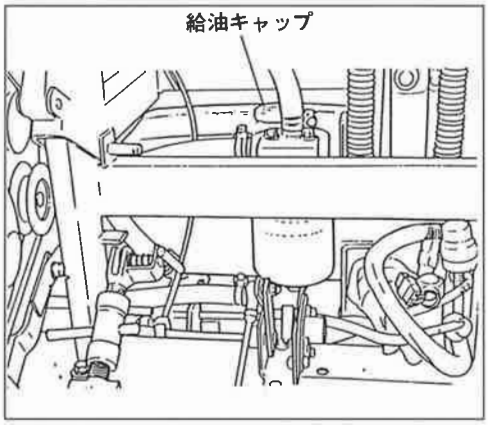
- エンジン本体及びラジエータ：5.15ℓ
- 補助タンク(給水レベル)まで…0.3ℓ

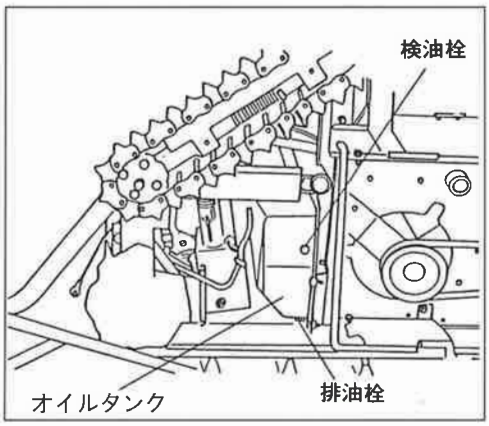
日常点検は，エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が《**給水レベル**》と《**下限**》の間にあることを確認します。

❹ オイルタンク

- 油圧作動油……(純正油)または，使用オイル表（139ページ）中の指定オイル
- オイル量……11.0ℓ

12.0ℓ
（スーパースライドクローラ仕様機）
（機体水平制御仕様機）
検油栓からあふれるまで給油

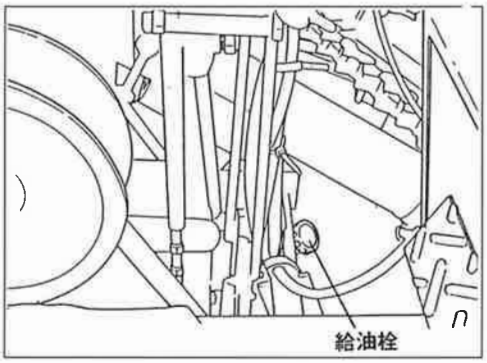


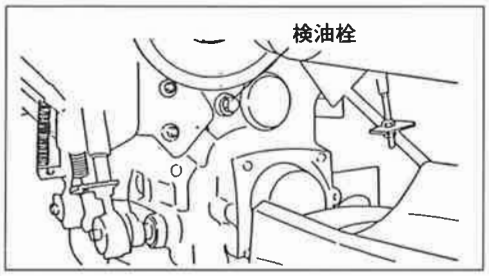


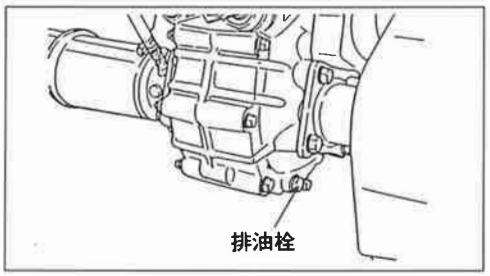
❺ トランスミッションケース

- ギヤオイル…（純正油）または
  API・GL－4級，SAE80W
- オイル量……4.2ℓ
  （機体水平制御仕様機）
  3.7ℓ
  （スーパースライドクローラ仕様機）

検油栓からあふれるまで給油。

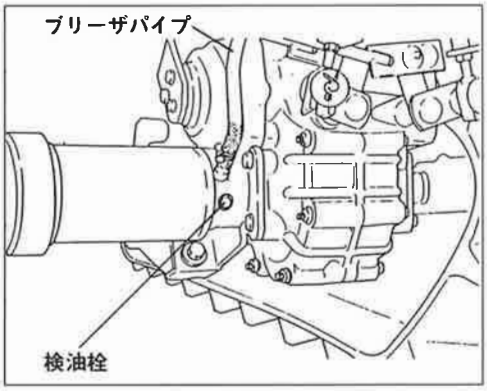






❻ ドライブシャフトケース右《スーパースライドクローラ仕様機》

- ギヤオイル……API・GL－5級
  SAE90
- オイル量……0.4ℓ



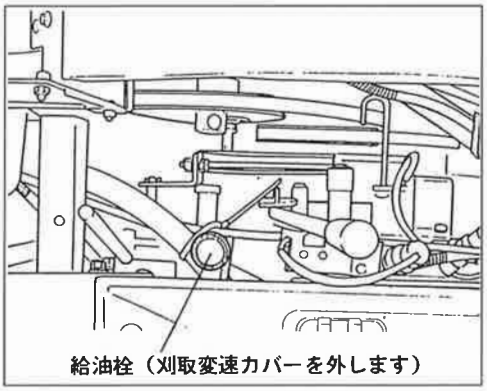
《オイル量の点検と補給方法》

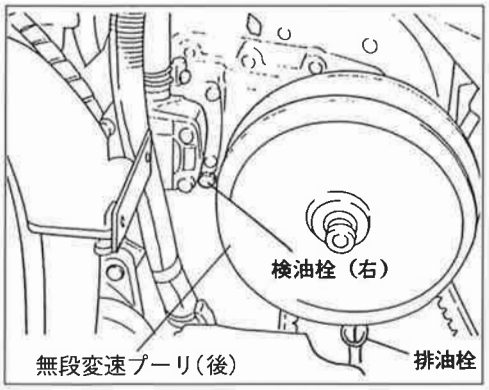
(1) クローラ(右)をＩＮ状態にし，検油栓でオイル量を点検します。(検油栓からオイルが出れば，オイルを補給する必要はありません。)

(2) 検油栓からオイルが出ない場合は，検油栓をとじて，ブリーザパイプ取付口から《**油さし**》で約0.1ℓ補給し，クローラ(右)を２～３回スライドさせ，10分程度放置し，再度オイル量を点検します。(検油栓からオイルが出るまで，繰返して補給します。)

❼ カウンタギヤケース

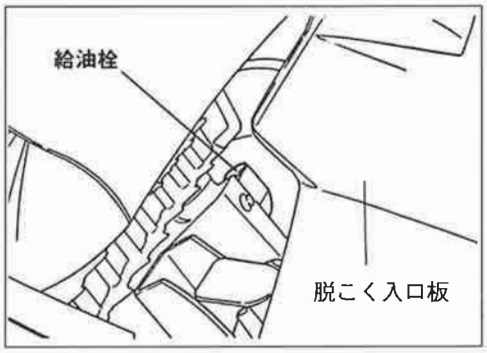
・ギヤオイル…（純正油）または，
API・GL－4級，SAE80W
・オイル量……2.8ℓ
検油栓からあふれるまで給油（検油栓は左側にもあります）





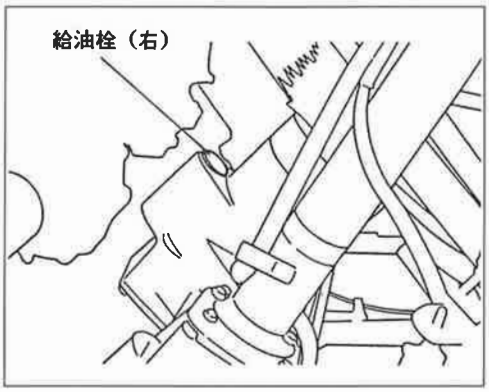
❽ こぎ深さギヤケース

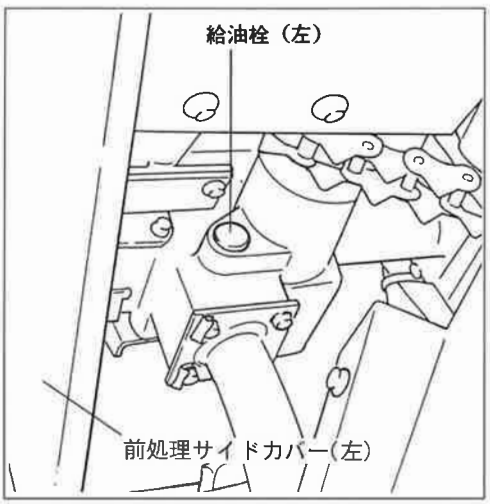
・ギヤオイル…API・GL－4級，
SAE140
・オイル量……1.1ℓ



⑨ トルクリミッタケース（刈取部）

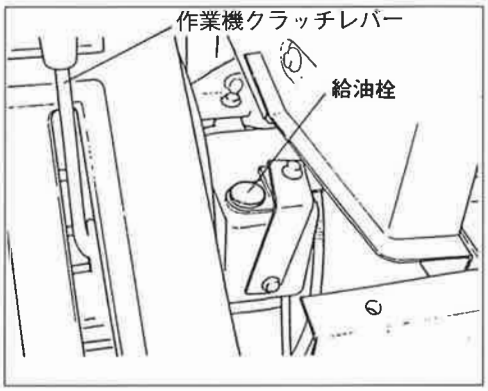
- ギヤオイル…API・GL－4級，SAE140
- オイル量……右1.6ℓ・左1.7ℓ





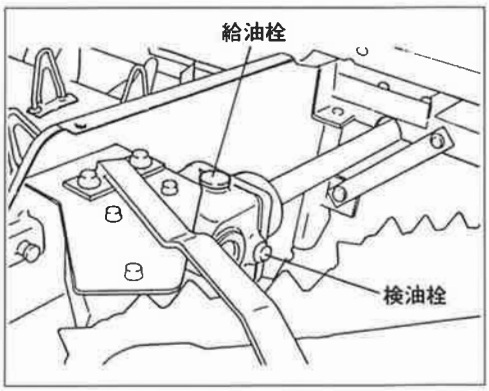
⑩ 脱こくギヤケース

- ギヤオイル…API・GL－5級 SAE90
- オイル量……0.35ℓ



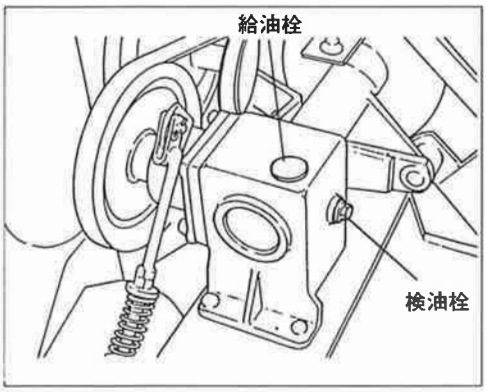
⑪ トルクリミッタケース（脱こく部）

- ギヤオイル…API・GL－5級 SAE90
- オイル量……0.35ℓ（検油栓からあふれるまで給油）



⑫ グレン入力ギヤケース

- ギヤオイル……API・GL－4級 SAE80W
- オイル量……0.4ℓ（検油栓からあふれるまで給油）



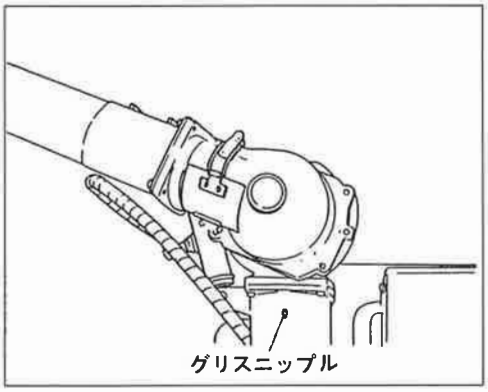
⑬ 集中注油タンク

- オイル……エンジンオイル
- オイル量……1.5ℓ



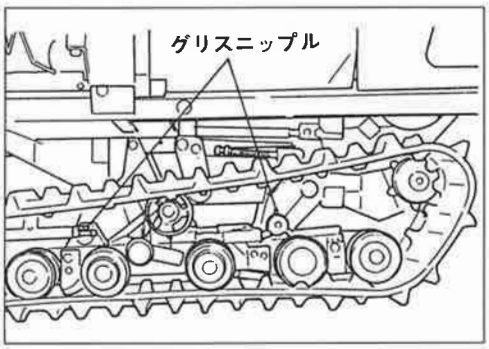
⑭ グレンオーガ回動部

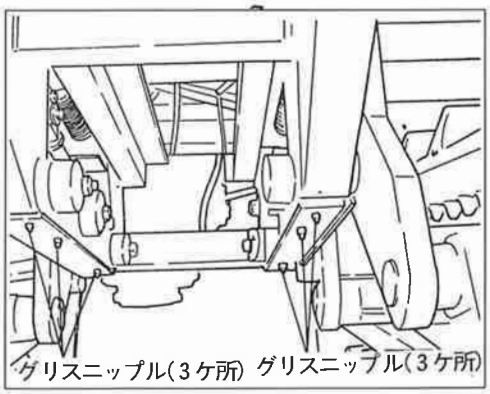
- 種類……リチウムグリス
- 給脂……グリスアップ



⑮ 機体水平リフトアーム軸受部（機体水平制御仕様機）

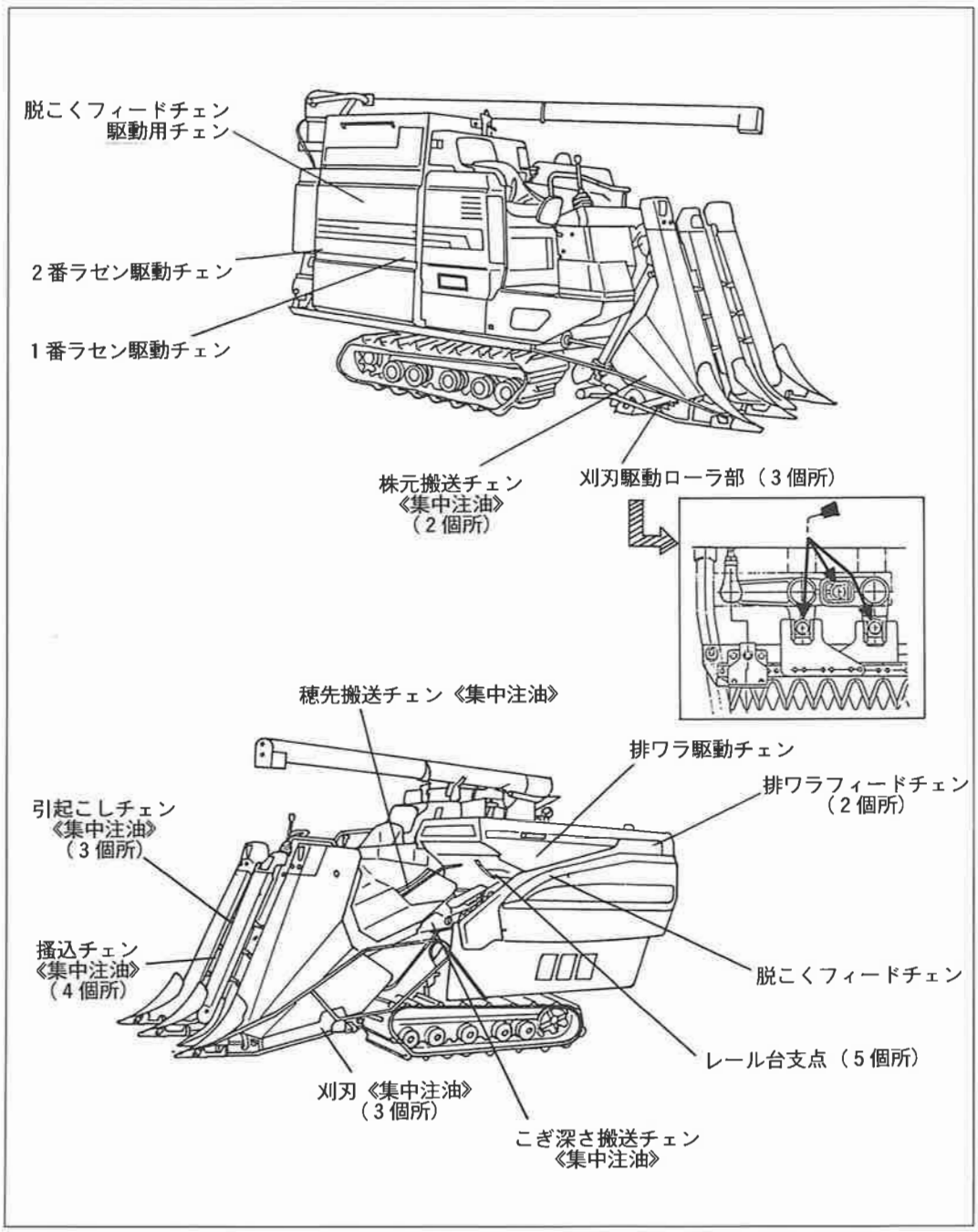
- 種類……リチウムグリス
- 給脂……グリスアップ





《注油個所》

各部への注油は，始業まえに１日１回行います。刈取部の注油は集中注油ができます。そのほかの注油は《油さし》で都度注油します。



◆刈刃・チェン・回転部に《油さし》で注油するときは，必ずエンジンを停止してから行ってください。

《集中注油装置(刈取部)の取扱いかた》

集中注油は注油レバーを操作するだけで刈取部（14個所）のノズルからオイルが吐出し，注油できます。

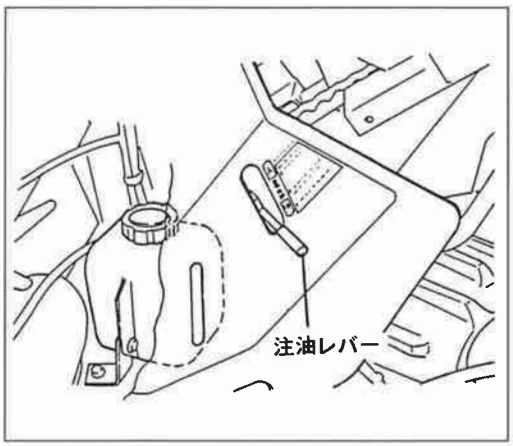
注油順序

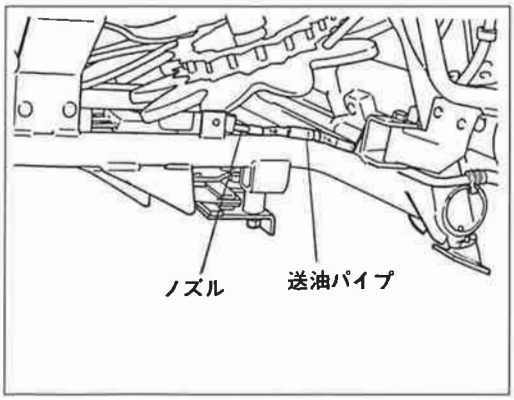
❶ 刈取部を下げます。

❷ エンジンを定格回転にしてから副変速を《中立(N)》にし，主変速レバーを《F 9》に合わせ，刈取部を運転します。

❸ 注油レバーを《入》方向に上げ約15～20秒持続しますと，適正注油できます。

❹ 注油レバーを放すとレバーは《切》にもどり，注油は自動的に止まります。





◆注油中にオイルが流れて落下することがあるので，注油場所に注意してください。

◆ノズルが詰まると，注油の妨げとなるので点検・掃除をしてください。(刈刃用ノズルは特に注意)

◆湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・送油パイプを損傷しないよう十分注意してください。
掃除後はノズルの注油角度が適正か，確認してください。

◆送油パイプのジョイント部等からオイル漏れがないか，ときどき点検確認してください。

3 エンジンの始動と停止

1 始動のしかた

❶ 主変速レバーを《中立(N)》にします。



❷ 作業機クラッチレバー，および刈取クラッチレバーを《切》にします。



❸ コントロールレバーを《中速》の位置にします。

❹ 走行クラッチペダルを踏込みます。

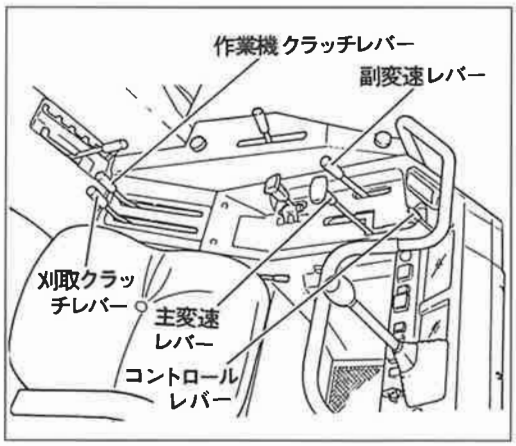


・スタータスイッチを《ON（予熱）》に回し，《オイル》《充電》《予熱》ランプの点灯を確認します。

❺ 《予熱》ランプが消えるのを確認し，スタータスイッチを《始動》に回すとセルモータが回転し，エンジンが始動します。

❻ 始動後しばらく，コントロールレバーを《低速(L)》の位置で暖機運転します。







◆エンジンを始動するときは，まわりの人に《あいず》をし，各レバーが《中立(N)》であることを確かめてから，エンジンを始動してください。



◆クラッチペダルを踏込まないとエンジンは始動しません。

◆セルモータを回し，5秒以内で始動しないときには，しばらく（約15秒）休んでから，ふたたび始動操作を行ってください。

◆セルモータは，短時間に高いトルクを必要とするため，大きな電流を消費するので，5秒以上の連続使用は，バッテリ故障の原因となります。

◆エンジン始動後，《オイル》・《充電》ランプが消灯するのを確認してください。

◆運転中に《オイル》・《水温》・《充電》ランプが点灯したときは，ただちにつぎの処置をしてください。

《オイル》ランプが点灯した場合

◆スタータスイッチを《ＯＦＦ》にしてから，エンジンオイル量を点検してください。オイル量が規定量あれば，ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

《水温》ランプが点灯した場合

◆警報が鳴ります。すぐに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ《低速運転》してください。

◆エンジンを停止し，防じんフィルタ・エンジンファンベルトの張りおよび冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。

◆警報は，スタータスイッチを《ＯＦＦ》にすると鳴りやみます。

《充電》ランプが点灯した場合

◆エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトを張ってください。

◆エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検サービスを受けてください。

2 停止のしかた

❶ 主変速レバーを《中立（Ｎ）》にします。

❷ 副変速レバーを《中立（Ｎ）》にします。

❸コントロールレバーを《低速位置》まで戻します。

❹ スタータスイッチを《ＯＦＦの位置》にします。



◆作業終了後エンジンを停止するときは，作業機・刈取クラッチレバーを《切》り，主変速レバーを《中立(Ｎ)》にしてエンジンを低速回転で２～３分間無負荷運転を行い，エンジン温度を下げてから停止するよう心掛けてください。

3 駐車のしかた

P

駐車するときは，必ず駐車ブレーキを掛けておきます。

・走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，駐車ブレーキレバーを下げ，ペダル横の丸棒にフックを掛けます。



◆駐車ブレーキレバーは，車両への積降ろし等アユミ板のうえでの操作は絶対にしないでください。

◆坂道等傾斜のあるところで駐車するときは，木片などで《ハドメ》をします。

◆コンバインを駐車・格納するときは，安定した場所に置き，刈取部を下げエンジン停止後，駐車ブレーキをかけてください。

◆駐停車するときは，副変速レバーを必ず《中立》にしてください。

◆エンジンが過熱しているときはシートをかけてはいけません。

4 走行のしかた

・道路を走行するときは，8～9ページ《道路を走行するときは》の項を参考にし，法の規制（小型特殊自動車の基準）を守り《安全な速度》で運転をしてください。

❶ 刈取部を走行に支障がない程度に上げます。

❷ 副変速レバーを《H》，または《L》に入れます。

❸ 主変速レバーを操作すると発進します。走行する条件に合わせて，適正な走行速度を選びます。

・走行クラッチペダルの操作は不要です。

❹ 方向修正は，マルチステアリングレバーで行います。

❺ 道路走行で方向を変えるときは，ウインカスイッチでウインカを点灯し《あいず》します。



❻ 道路走行するときの警報・作業のあいずは，ホーンボタンで行います。

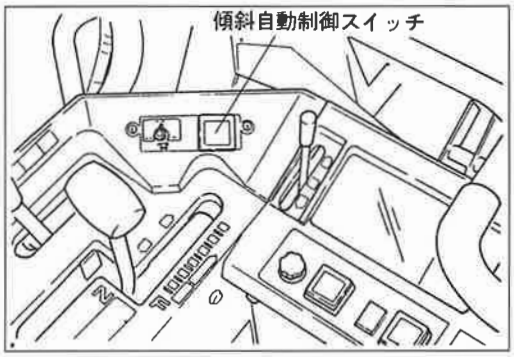


◆エンジンを始動し発進するときは，周囲に人がいないか確かめて（ホーンボタンを押して周囲にあいずする）からスタートしてください。

◆高速で走行するときは，マルチステアリングレバーを強く操作すると，急旋回し危険です。低速にし，安全速度でレバーを操作してください。

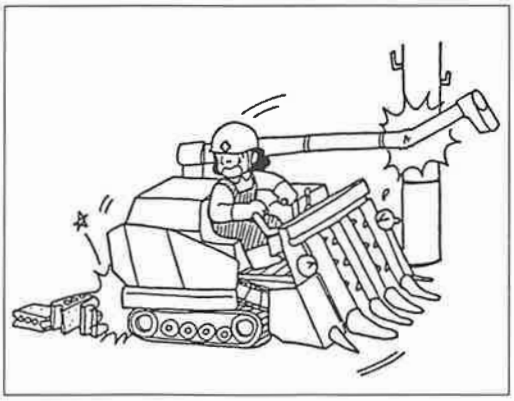
◆高速走行中は，機械を緊急停止する場合を除き，クラッチペダルで急ブレーキをかけないように注意してください。

◆機体水平制御仕様機の場合，道路走行時には傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にし，機体が一番下まで下がっていることを確認してください。機体が下がっていない場合は手動操作で下げてください。





◆走行時に排出筒先端部及びグレンタンク後部ギヤケースを障害物に当てないように注意してください。



5 トラックへの積込み・積降ろし

・トラックへの積込み・積降ろしは，まわりに危険物のない平坦な場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力してつぎのことに注意し，慎重に行ってください。

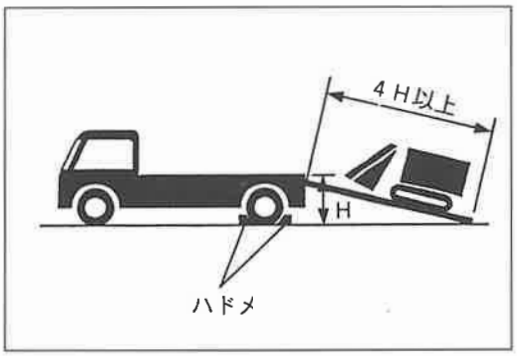
1 トラック・ブリッジについて

❶ 《トラック》は積載重量2000kg以上の車を使用します。

❷ トラックの変速（チェンジレバー）は，《バック》に入れて《サイドブレーキ》を掛けます。

❸ タイヤには《ハドメ》をします。

❹ 《ブリッジ》は，コンバインの重量に十分耐えられる強度のもの《2000kg以上》で，クローラの幅より広く，《トラックの荷台高さ》の４倍以上の長さがあり，《滑り止め》をしたものを使用します。



❺ 《ブリッジ》は，トラックの荷台に掛けたとき，《段差》のないようにし，《横ズレ》したり，《ハズレ》ないよう確実に掛けます。

2 コンバインについて

❶ エンジンは《最低速》で運転し，コンバインに乗ってはいけません。

❷ 刈取部はいっぱい《上げ》ます。
（積込みが終わったら刈取部は完全に下げて床に着けます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。）

❸ 積込みは，主変速レバー《Ｆ－１（前進）》，副変速《Ｌ》で行います。

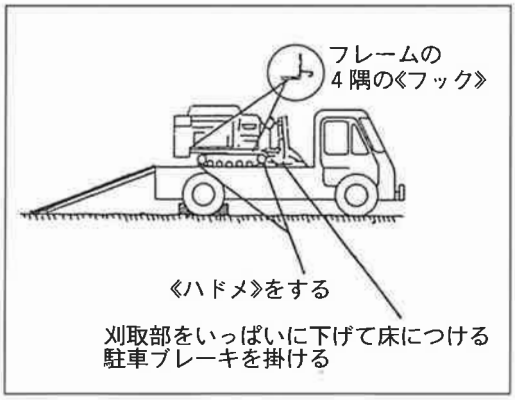
❹ 降ろすときは，主変速レバー《Ｒ－１（後進）》，副変速《Ｌ》で行います。

❺ 積込みの途中では，絶対に操向操作，駐車ブレーキ操作しないでください。

❻ 補助者の立会誘導のもとに，安全に心掛けゆっくり行ってください。

❼ ブリッジの上での進路変更が絶対にないように，左右のクローラをブリッジの中央にまっすぐにセットしてください。
もし危険と判断できる場合は，再度セットし直してください。

❽ トラックに積込みが終わったら，コンバインのクローラに《ハドメ》をし，駐車ブレーキを掛け，必ずロープを４隅の《フック》に掛けて確実に固定します。



◆スーパースライドクローラ仕様機の場合はクローラ間隔を広くした状態（《ＯＵＴ》位置）にしてから積込み・積降ろしを行います。

◆機体水平制御仕様機の場合は，傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にし，機体が一番下まで下がっていることを確認してください。機体が下がっていない場合は手動操作で下げてください。

◆車両への積込み，積降ろしは，つぎのことを必ずまもってください。

- 主変速レバー
- マルチステアリングレバー
- 走行クラッチペダル
- 駐車ブレーキ

　はブリッジの上では操作しないこと。

- ブリッジは，強度・幅・長さの適切な物を使用すること。
- 平坦な場所を選び，万一にそなえてコンバインの周辺に人を近ずけないこと。

上手な作業のしかた

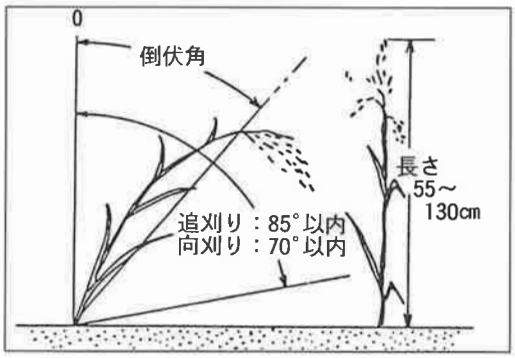
1 刈取りできる作物とほ場の条件

❶ 作物の長さと倒れ

・長さ……55～130cm

・倒れ……追刈り：85°以内

（倒伏角）　向刈り：70°以内



❷ 作物のぬれ

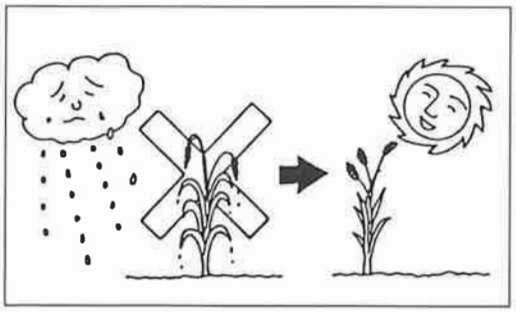
・ぬれた作物（雨あがり・朝露）

……能率があがらない

選別不良・詰まりやすい

乾燥処理時間の増加

♣十分乾燥（手でしごいてぬれない程度）するのを待って刈取ります。



❸ 病害虫におかされた作物

・病害虫作物

……こく稈が折れやすい

刈取り・搬送部の詰まり

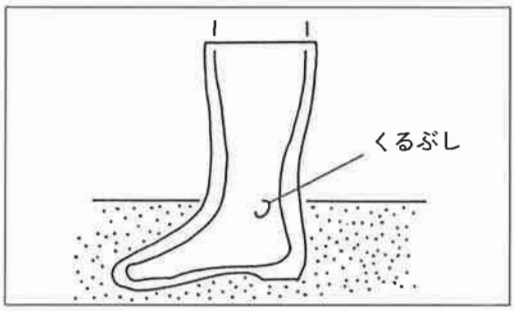
脱こく部の詰まり

♣刈取り作業の速度をおそくするか，または《手刈り》をします。

❹ 湿田ほ場

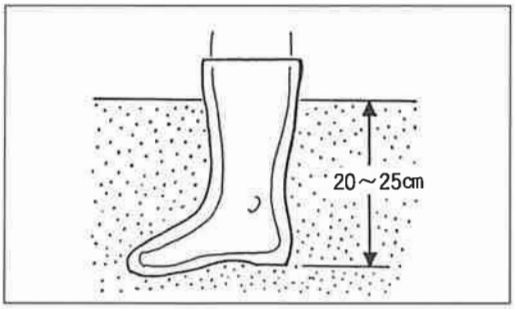
・ほ場のぬかり程度

……《くるぶし》までの沈下



《超湿田仕様機（UY型）》

・沈下量が《20～25cm》までは作業ができます。



◆適応範囲をこえての作業はできません。絶対に行わないでください。

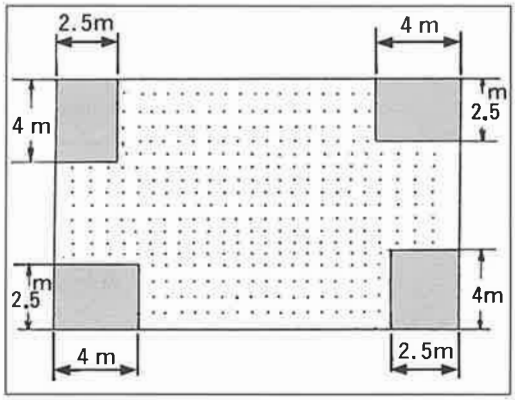
♣いちどとおったクローラ跡は通らないようにします。

2 作業まえの準備

1 ほ場の準備

❶ 枕刈り（手刈り）

・コンバインをほ場に入れるまえに，あらかじめ四すみを《旋回できる程度》手刈りします。



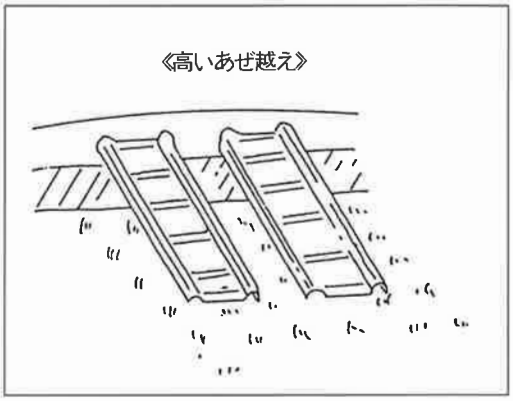
◆ほ場のまわりがコンクリートあぜ，および高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，あぜぎわの一条だけ手刈りします。

❷ あぜ越え（ほ場への出し入れ）

・コンバインをほ場に出し入れするときは，刈取部を上げ，必ず《最低速》で直角にあぜ越えをします。



・高低差の大きいほ場への出し入れは，必ず《ブリッジ》を使用します。



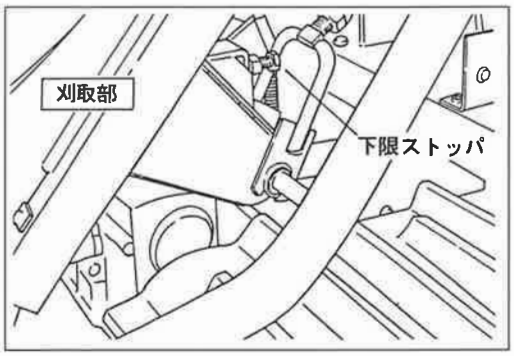
◆機体水平制御仕様機の場合，あぜ越え（ほ場への出し入れ）時には傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にし，機体が一番下まで下がっていることを確認してください。機体が下がっていない場合は手動操作で下げてください。

2 機械の準備

❶ 刈取部下限ストッパの調節

刈取部の下部に《**下限ストッパ**》が装備してあります。工場出荷時には刈高さが少し高くなるようにセットしてあります。

刈取部をいっぱい下げ，《**下限ストッパ**》をいっぱいねじ込んでおきます。



❷ デバイダ(左・右・中)の上下調節

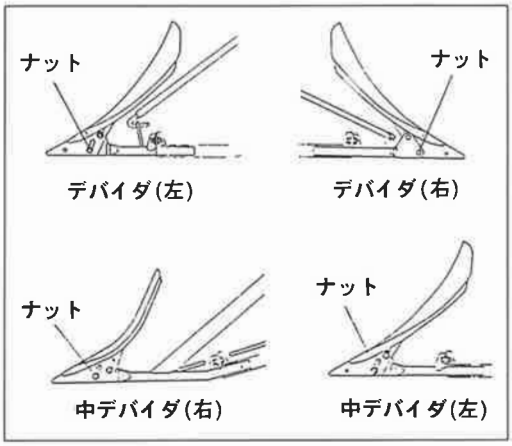
工場から出荷のとき，デバイダは《**上側**》にセットしてあります。

つぎのときは，デバイダを《**下側**》にセットします。

- 刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。
- 刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。

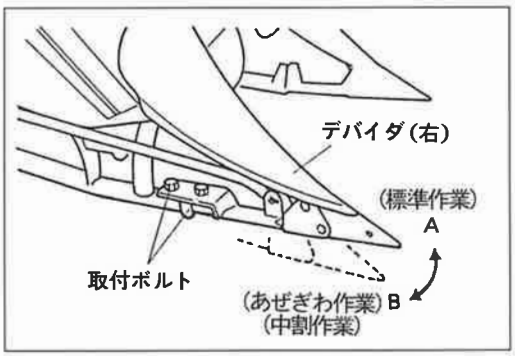
《デバイダ調節のしかた》

デバイダ前方のナットを緩めて，デバイダが適当な高さになるように調節し，確実に締付けて固定します。



◆デバイダは右・左とも同じ高さになるようにセットします。

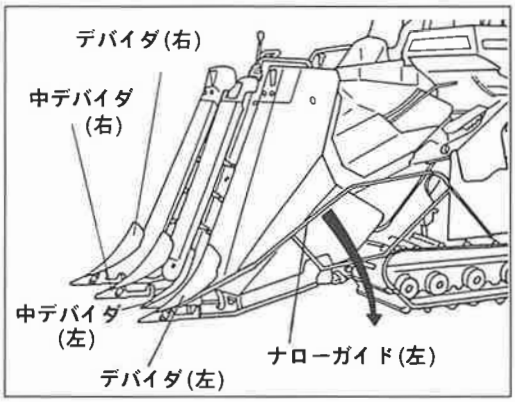
《超湿田仕様機（UY型）》
《機体水平制御仕様機》



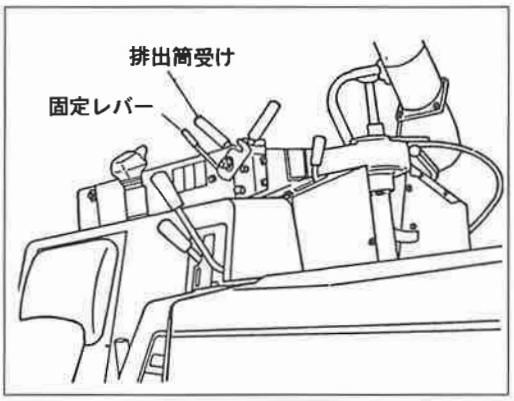
- デバイダ右はA位置が標準です。
- 中割作業やあぜぎわ作業をするときはB位置にセットしてください。

◆あぜぎわ作業時，コンクリートあぜ畔の場合はA位置で作業をしてください。

❸ ナローガイド(左)を作業位置にセットします。

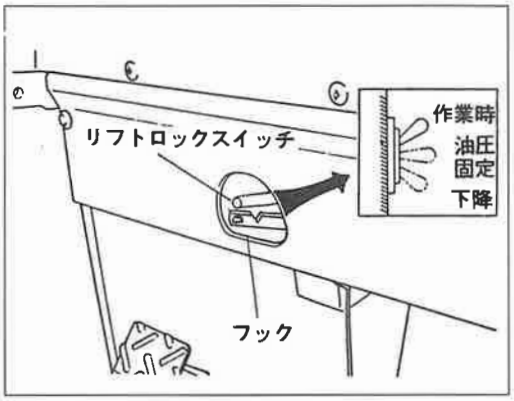


❹ 排出筒は出荷時，機体と水平状態になる位置に排出筒受けがセットしてありますが《上》の位置にセットします。(ボルト4個)



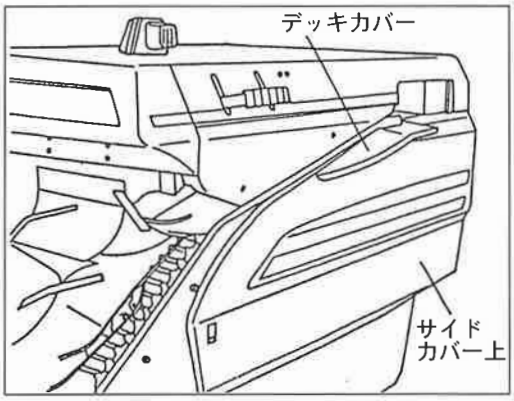
◆刈取り作業時には，必ず排出筒を固定レバーにて確実にロックしてください。

❺ リフトロックスイッチを《作業時》の位置にセットします。



❻ デッキカバー

長稈材で株元が下がり，搬送姿勢が悪くなる場合は，デッキカバーを取付けてください。



3 刈取り作業のしかた

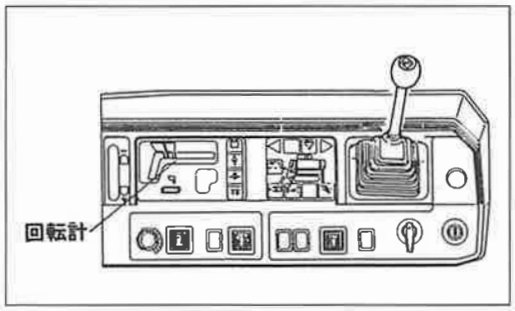
1 刈取り操作の手順

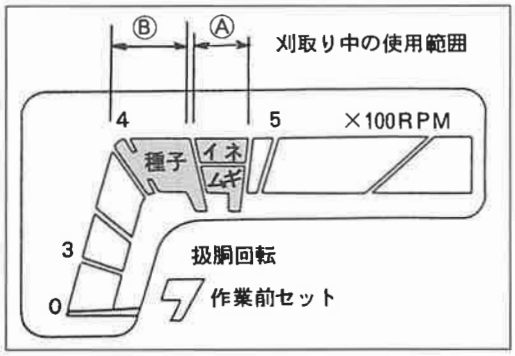
エンジンを始動し，つぎの手順で操作します。

❶ 作業機クラッチレバーを《入》にし，こぎ胴回転が《色別マークの上限》になるようにコントロールレバーで調整します。

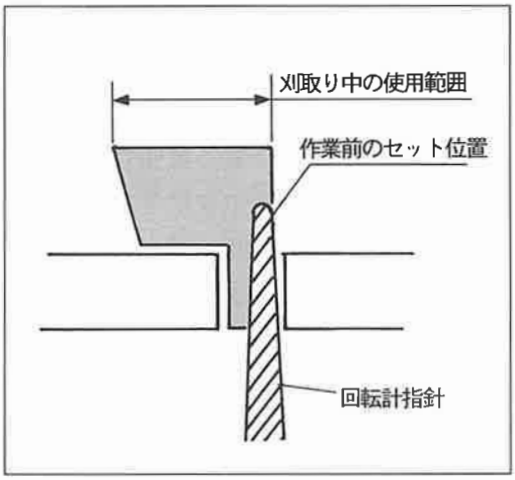






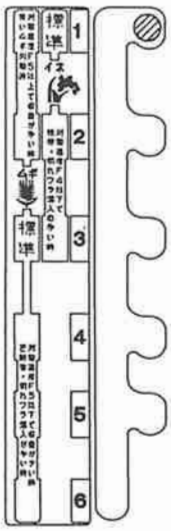


刈取り作物	回転数表示マーク
Ⓐ 稲・麦・ビール麦	赤マーク
Ⓑ 種　　子	青緑マーク



◆刈取り作業中，エンジン低速回転で，作業機クラッチレバーを《入》れないでください。詰まりの原因となります。

❷ スーパーワイドセレクタ切替レバーの作物の種類や刈取り条件に合わせていずれかの位置にセットします。
（25ページ参照）



◆スーパーワイドセレクタ切替レバーを脱こく部停止中に操作すると，重かったり確実に作動しないことがあります。脱こく部回転中に行うと軽く操作できます。

◆スーパーワイドセレクタ切替レバーの操作は，脱こく内部のワラ屑がきれいに排出されるまで，十分カラ運転してから行います。

❸ カッタ・排ワラ切替レバーをいずれかの位置にセットします。

❹ 材料条件に合わせ副変速レバー・刈取変速レバーを操作します。



《刈取速度の選択》

副変速	刈取変速	作業状態	作物条件	
			立毛材	倒伏材
L（低速）	L（低速）	標準刈取	○	△
	H（高速）	倒伏刈取	△	○
H（高速）	L（低速）	使用禁止	×	×
	H（高速）	高能率刈取	○	△

▶刈取変速がHの場合，主変速はＦ８以上の速度にはなりません。

❺ 最低刈高さ位置を設定します。
《刈高さポジションコントロールの取扱い》の項（67～69ページ）を参照。

❻ 刈取クラッチレバーを**《入》**の位置にします。（但し主変速レバーが中立のときには，刈取部は停止したままです。）



❼ 主変速レバーにより，最初は低速で発進し，条合わせをしながら刈取り作業を開始します。

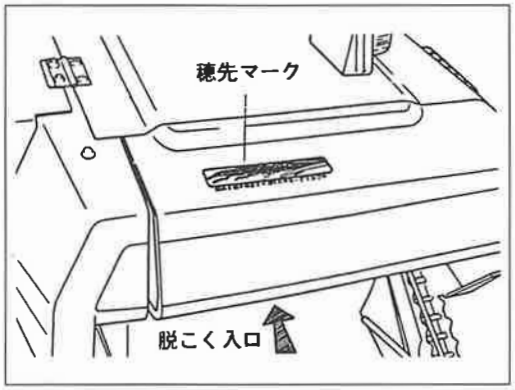


❽ 方向修正は，マルチステアリングレバーを**《こきざみ》**に操作します。（方向自動制御を使用する場合は，**《方向自動制御の取扱い》**（64～66ページ）を参考にしてください。

❾ 適正こぎ深さの調節



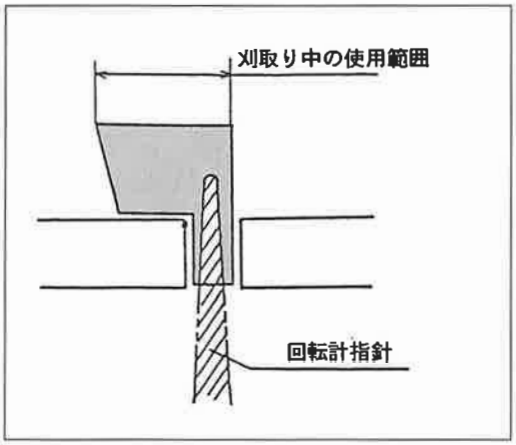
作物が脱こく入口に搬送され始めたら穂先が《穂先マーク》の位置になるようこぎ深さ手動スイッチで調節します。



◆脱こく能率を上げるためには，こぎ残りが発生しない範囲内で，できるだけ《浅こぎ》を心掛けてください。

◆こぎ深さ自動制御は，《こぎ深さ自動制御の取扱い》を参考にし，適正こぎ深さになるよう調節してください。

❿ 作業中は，こぎ胴回転計の指針が，《色別マークの範囲》内に位置するように，作業速度を選択します。



⓫ 刈取り作業で旋回するときは，



最後の作物が刈取部のこぎ深さ搬送チェンに搬送されるのを待って，マルチステアリングレバーで，刈取部を少し上げて旋回します。

◆旋回の際は絶対に，エンジン回転を下げたり，作業機クラッチレバーを《切》にしないでください。

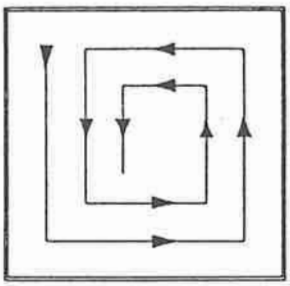
2 ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

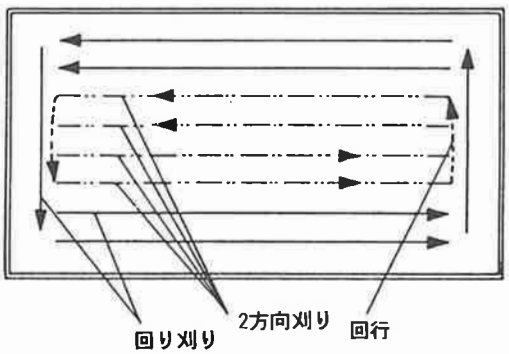
・このコンバインでの刈取りは，《**左回り刈り**》が基本です。

ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

㋐ 正方形に近いほ場



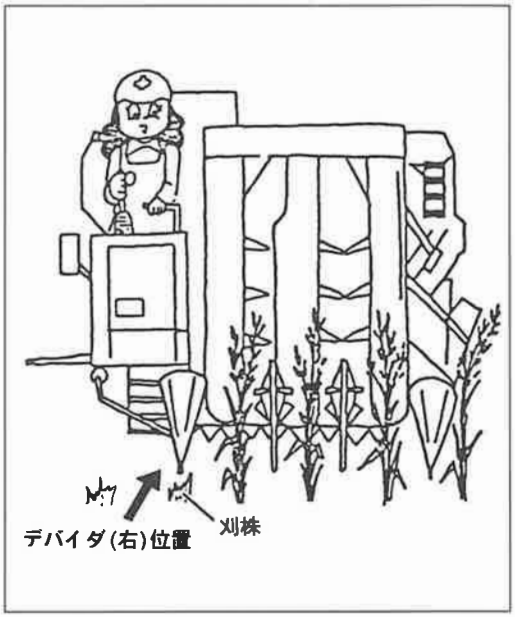
㋑ 長方形のほ場



・枕地（回行部分）が広くなったら，長い2方向のみ刈取ると能率的です。

㋒ 条合わせ

・デバイダ《**右**》を基準に刈株のほぼ中央に合わせ，《**左回り**》で刈残しのないよう刈取りします。

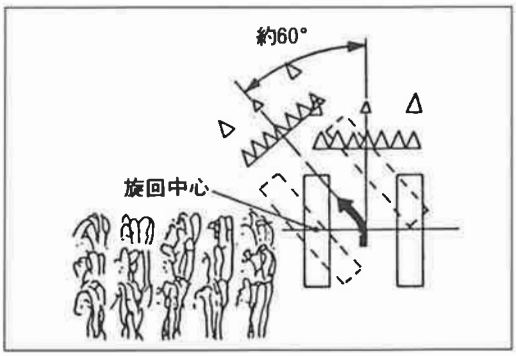


㋓ 旋回のしかた（左回り刈り）

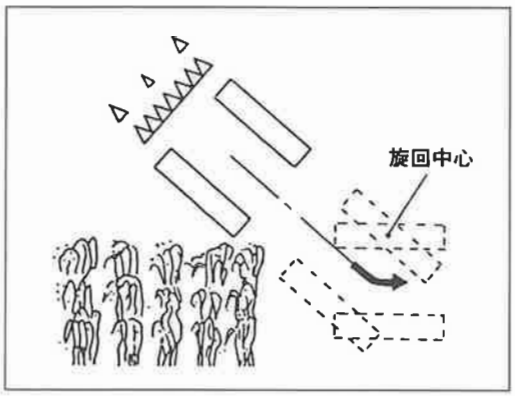
・刈り終わったら刈取部を少し上げ，《**作業機クラッチ**》を切らないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回します。（湿田では大きく回る）

a．刈取部を《**約15㎝**》（デバイダにワラをひっかけない程度）まで上げる。

b．左に《**約60°**》向きを変えて《**ストップ**》する。

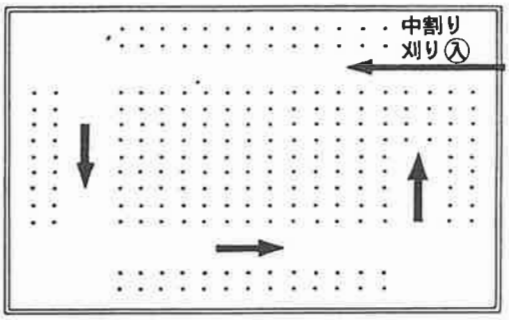


c．《バック》しながら，つぎに刈取る方向に，機体を《まっすぐ》にし，条合わせをします。



❷ 中割り刈り

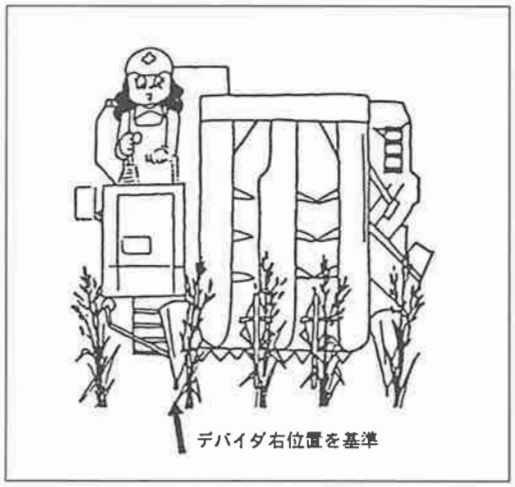
・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，《中割り刈り》をします。



・デバイダ右を右側に広げ，中割り作業位置にセットします。(45ページ参照)
・中割り刈りは《低速》で行います。
・スーパースライドクローラ仕様機の場合は，クローラ間隔を《狭くした状態(ＩＮ)》で刈取ります。
・カッタ切ワラ拡散調節を行います。(60ページ参照)

㋐ 条合わせ

・デバイダ(右)を基準に，刈取り株の右側に合わせ刈取りします。

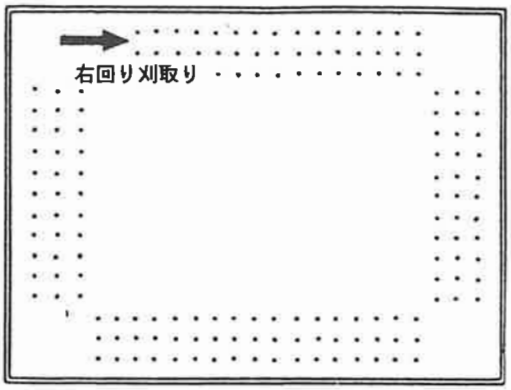


㋑ 右回り刈り

a．まわりのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ３条を残し《中割り・左回り》で刈取りをします。

b．残した３条を，最後に《右回り》で刈取ります。

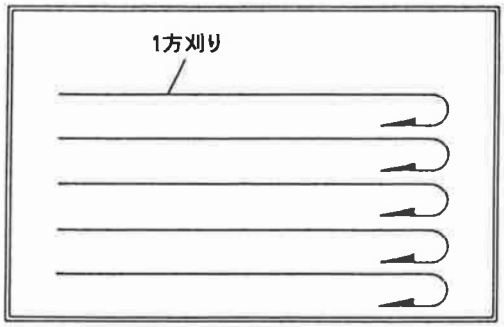
c．あぜぎわを《右回り刈り》するときは，《ナローガイド(左)》を中ほどまで折りたたみ，《デバイダ》をあぜに突込まないよう注意します。



◆ほ場の状態によっては，最初にあぜぎわを《右回り》で刈取り，つぎから正常な《左回り》で刈取りするのが便利な場合もあります。

❸ 倒伏作物の刈取り

・倒伏したほ場は，状態に合わせて《一方刈り》を行います。



《刈取速度の選択》

副変速	刈取変速	作業状態	作物条件	
			立毛材	倒伏材
L（低速）	L（低速）	標準刈取	○	△
	H（高速）	倒伏刈取	△	○
H（高速）	L（低速）	使用禁止	×	×
	H（高速）	高能率刈取	○	△
▶刈取変速が（H）の場合，主変速はＦ８以上の速度になりません。				

a．刈取る速度は，副変速は《低速（Ｌ）》で主変速は《F1～F3》で刈取ります。

b．刈取変速は《高速（Ｈ）》にします。

㋐ 刈取り方向

《方向自動を使用しないとき》

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
②　③ ↓ ←	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	△	○	○
↑ →	③追い刈り	△	○	○
①　④	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能　△注意してゆっくり刈取る
×刈取り不可能

《方向自動で刈取りするとき》

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
②　③ ↓ ←	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
↑ →	③追い刈り	×	○	○
①　④	④左倒伏刈り	×	○	○

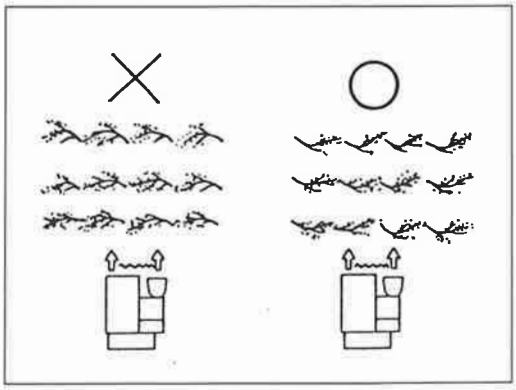
○刈取り可能　×刈取り不可能

◆倒伏した作物を刈取るときは，引起こし爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するように，デバイダを刈株に寄せて刈取ります。

◆デバイダ先端が土に突込まないよう注意してください。
土に突込むと，株の引きぬきが発生し，詰まりの原因となります。

◆倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。ほ場条件により，中割り刈りを必要とするときは，《右倒伏刈り》で刈取ってください。

・クローラで穂先を踏むと，２番ラセンの詰まり等の原因になります。



◆倒伏した作物やからみつきやすい作物の刈取り時には次のようなアタッチメントが用意してあります。
材料条件によって使用してください。
1．中ガイド
2．スーパーデバイダ

3　こく粒の排出操作方法

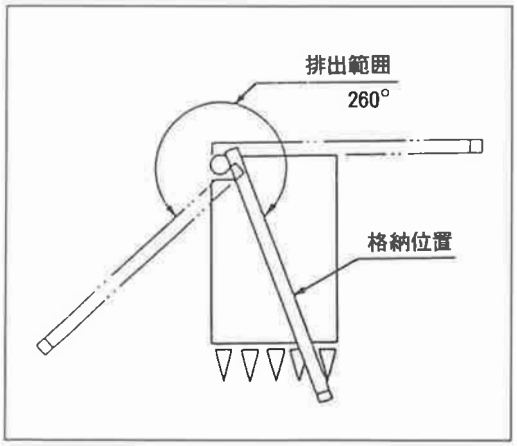
❶　グレンタンクのモミ警報

・タンクが満ぱい近くなると，《ホーンの断続音》および運転席インジケータランプの《点滅》により警報します。警報停止ボタンを押して刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。

◆ホーンが鳴ったあと，さらに刈取り作業をつづけると，センサが作動しホーンの連続音により警報し，自動的にエンジンが停止します。

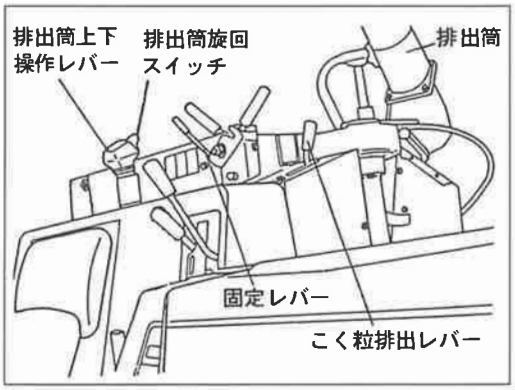
◆作業機クラッチレバーを《切》にしないとエンジンの再始動ができません。

❷　トラック等のこく粒受け位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《中立(N)》にし，機体を停止します。



《こく粒排出操作手順》

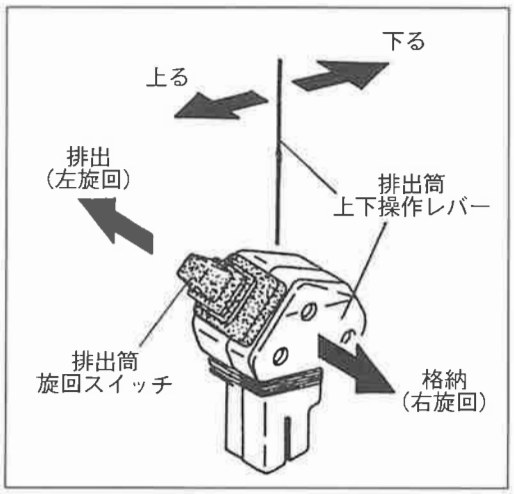
❸ 排出筒固定レバー《解除》
⇩
❹ 排出筒作動（上昇・旋回）
⇩
❺ コントロールレバー《高速》セット
⇩
❻ 作業機クラッチレバー《入》
⇩
❼ こく粒排出レバー《入》
⇩
❽ こく粒排出終了
⇩
❾ こく粒排出レバー《切》
⇩
❿ 作業機クラッチレバー《切》
⇩
⓫ 排出筒格納（旋回・下降）
⇩
⓬ 排出筒《固定》

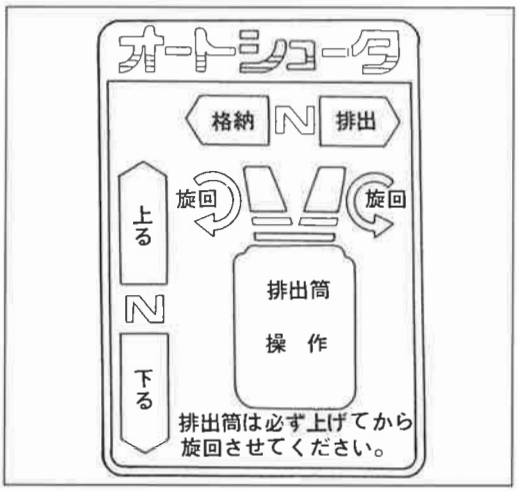


❸　排出筒の固定レバーを解除します。

❹ 排出筒上下操作レバーを《上る》の方向に操作して排出筒を上げてから，排出筒旋回スイッチを《排出》の方向に操作し，所定の位置まで旋回させます。

排出筒上下操作レバー《上る》または，《下る》の方向に操作し，樋口高さを調整します。



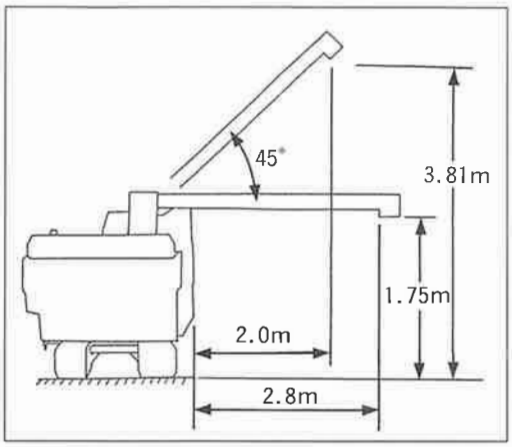


❺ コントロールレバーを《高速(Ｈ)》位置にセットします。

❻ 作業機クラッチレバーを《入》にします。

❼ こく粒排出レバーを《入》にしてこく粒を排出します。途中でこく粒排出を中断するときは，レバーを《切》にします。

《樋口高さと距離》



❽～❿ タンク内のこく粒排出が終了したら，こく粒排出レバーを《切》，作業機クラッチレバーを《切》にします。

⓫ 排出筒旋回スイッチを排出時と逆の方向に操作し，格納位置まで旋回させ，つぎに排出筒操作レバーを《下げ》の方向に操作し排出筒を格納します。

⓬ 固定レバーで排出筒を確実に固定します。

◆こく粒排出時には，排出筒の先端部をこく粒でふさがないようにしてください。

◆機体を傾斜させた状態ではオーガの旋回がおそくなったり，旋回ができなくなったり（ヒューズの溶損）しますので，こく粒排出は，必ず機体を水平状態で操作してください。

◆機体水平制御仕様機は，傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にして，機体を下げてから排出作業をしてください。

◆排出筒を上げたままでの移動および刈取り作業は，故障の原因となり，また危険ですので絶対に行わないでください。

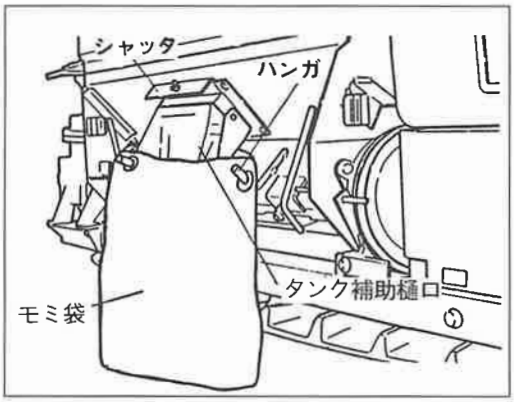
◆排出筒を上げたままで放置すると自然降下し危険ですので注意してください。

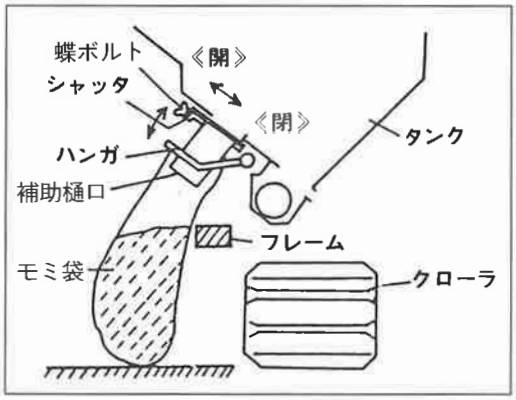
4 タンク補助樋口の取扱い

故障等によりタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンクの下部カバーを取外すとその内側にあります。

❶ ハンガにモミ袋を掛けます。

❷ 蝶ボルトを外し，シャッタを引上げタンク内のこく粒をモミ袋に取出します。





◆こく粒の取出しが終了したら，シャッタを蝶ボルトで確実に固定してください。

5 トルクリミッタの取扱い



刈取り作業中に異常な負担が作用したとき，機械の破損を未然に防ぐためつぎの個所にトルクリミッタ《安全装置》が設けてあります。

安全装置	使用個所		現象
トルクリミッタ	①	刈取搬送部 ・株元搬送駆動スプロケット（2個所） ・こぎ深さ搬送スプロケット	株元搬送・こぎ深さ搬送・穂先搬送の個所で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき
	②	脱こく部 ・脱こくギヤケース	脱こく部のフィードチェン・排ワラ搬送・カッタ詰まりの異常負荷が発生したとき

❶ 刈取部搬送チェン・トルクリミッタ

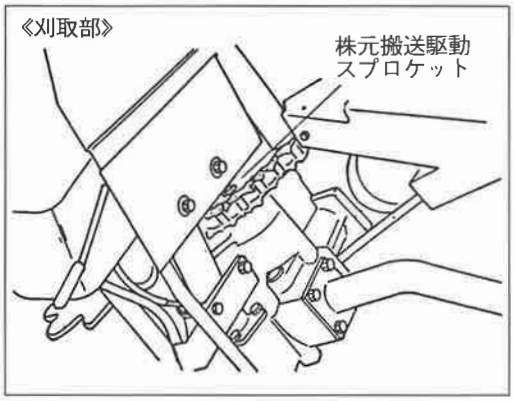
㋐ 作業中，刈取部への搬送がスムースに行われず（詰まり現象）《カタカタ音》を発しているときは，株元搬送・およびこぎ深さ搬送のいずれかの《駆動スプロケット》が空転しています。

㋑ ただちに作業を中止し，刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを必ず停止して詰まり個所の材料を取除きます。

㋒ 各部の搬送チェンが正常に回ることを確認してから作業を開始します。



◆作業機クラッチレバーは，エンジン低回転では入れないでください。詰まりの原因となります。



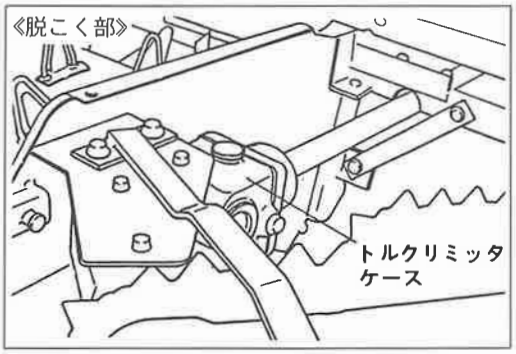
❷ 脱こく部・トルクリミッタ

㋐ 脱こく部搬送通路に詰まり等の異常が発生したときは，《トルクリミッタ》が作動して搬送が停止します。

㋑ ただちに作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを必ず停止してから詰まりを取除きます。正常に回転することを確認してからエンジンを始動し，作業を開始します。



◆排ワラ搬送でのトルクリミッタ作動時は，排ワラフィードチェン（2本）の張りを点検し，ゆるんでいれば調整してください。

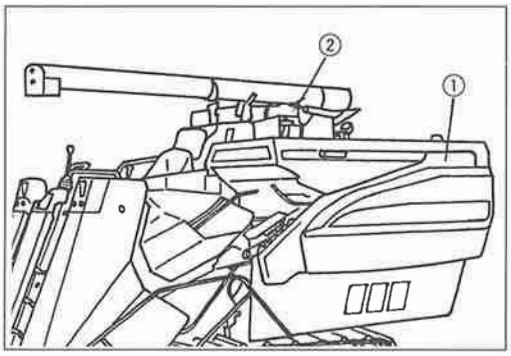


6 エンジン自動停止の取扱い

刈取り作業中に異常な負荷がかかったとき，機械の破損や変形を未然に防ぐため，つぎの個所に万一詰まりやタンクが満杯になると，センサが感知し，エンジンが自動停止します。

① 排ワラチェン

② グレンタンク

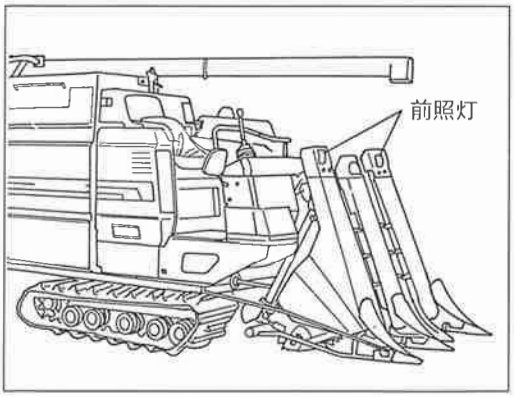


❶ ①，②は作業機クラッチレバーを《切》れば，エンジンを再始動できます。

❷ 詰まりやオーバーフローを取除き，正常に回転することを低速で確認してから，作業を開始します。

7 夜間作業

❶ 前照灯を点灯します。



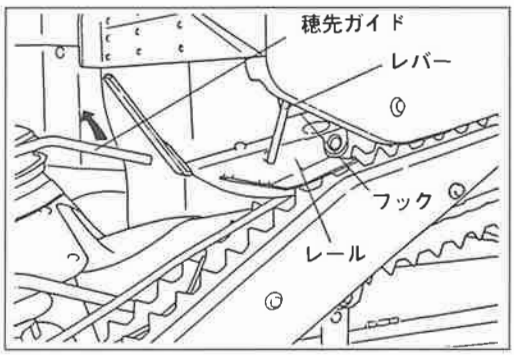
8 手こぎ作業

❶ 走行を《停止》します。

❷ 刈取部をいっぱいに《下げ》て，こぎ深さ搬送チェンを《深こぎ》位置にします。

❸ レールを上げてレバーをフックに掛けレールを《上位置》で固定します。

❹ 穂先ガイドを穂先側（矢印方向）に寄せます。



❺ 作業機クラッチレバーを《入》にし，こぎ胴回転を正規回転にします。

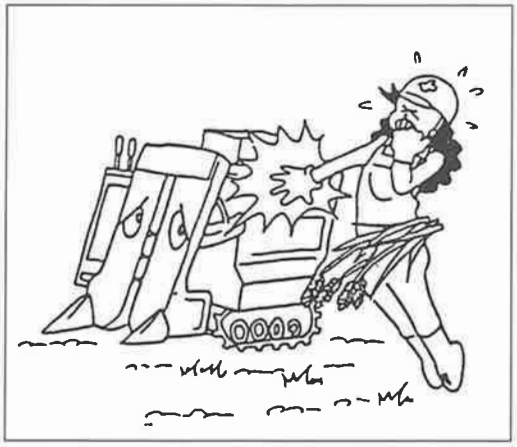
・刈取クラッチレバーは，《切》にします。手こぎ脱こくは，この状態で作業を行います。

◆バラこぎで供給します。束こぎはしないでください。

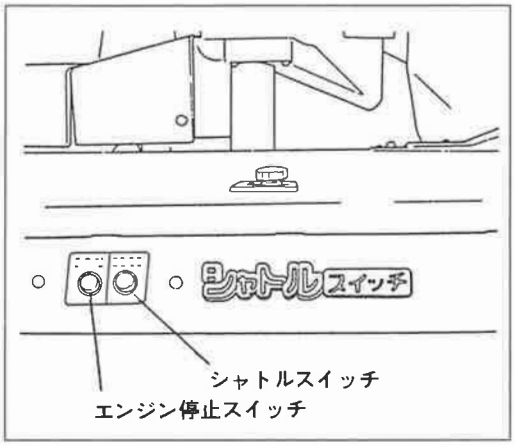


◆作物は平均に，こぎ入れます。
◆おなじ場所で手こぎをするときは，カッタ下部の切ワラを早めに取除いてください。カッタ詰まりの原因となります。
◆機体水平制御仕様機の場合，手こぎ作業時には傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にし，機体が一番下まで下がっていることを確認してください。機体が下がっていない場合は手動操作で下げてください。
◆手こぎが終われば，レール・穂先ガイドを必ずもとの位置にもどし，こぎ深さを適正位置に調整します。そのままでは刈取り作業はできません。

◆手こぎ作業をするとき，チェンに手を触れないよう，手や身体の位置，服装に注意し，安全作業を心掛けてください。
◆《手袋》をしての作業は危険であり《厳禁》です。
◆コンバインを移動しながらの手こぎ作業は危険です。機体を停止させて作業をしてください。

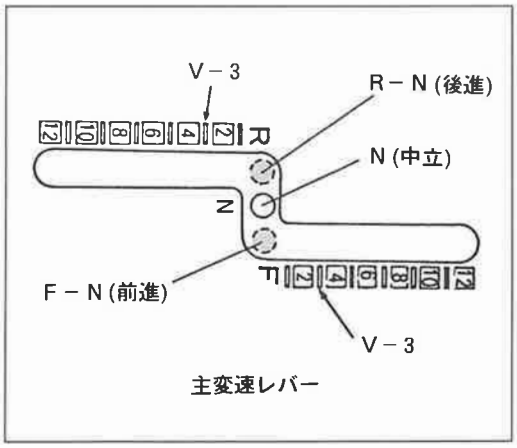


9 シャトルスイッチの取扱い



シャトルスイッチは，運転席の反対側に設置されており，手こぎ作業において機械を移動したいとき，運転席に乗らなくても移動できるようにした装置です。

❶ 主変速レバーを，Ｆ－Ｎ（前進）またはＲ－Ｎ（後進）にします。
Ｎ（中立）の位置では走行しません。
❷ 副変速レバーを《Ｌ》にしてください。



❸ シャトルスイッチを押し続けます。その間，主変速レバーの指示する方向へ，約Ｆ３の速度で走り続けます。

注記

◆約１秒間警報を発した後走行し，走行中は，常時断続警報を発します。

◆シャトルスイッチでの走行は，手こぎ時のほ場内での移動以外には，絶対に使用しないでください。

◆シャトルスイッチは，必ず副変速《L》で使用してください。

❹ エンジン停止スイッチ

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。

◆エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを必ず《ＯＦＦ》にしてください。

10 刈取り作業終了後の操作手順

❶ 主変速レバーを《中立(Ｎ)》の位置にします。

❷ 刈取クラッチレバーおよび作業機クラッチレバーを《切》の位置にします。

❸ コントロールレバーを《低速(Ｌ)》の位置に戻し，しばらく無負荷運転してからスタータスイッチを《ＯＦＦ》にします。

❹ 駐車ブレーキを掛けます。

◆作業機クラッチレバーは，脱こく内部のワラ屑等がきれいに排出されるまでカラ運転したのち《切》にします。

◆ 燃えやすいものの近くには止めないでください。

◆ エンジンが過熱しているとき，シートをかけないでください。《火災》の原因になります。

❶ 作業後の手入れ

・コンバインをきれいに洗車し，各回転部・摺動部にたっぷり注油してください。
特に刈刃やチェン類の注油個所には必ず注油して格納します。

◆ 水洗いするときは，エンジンまわりの電気配線部および，運転席左側の制御ユニット装着部，パネルには水をかけないでください。故障の原因となります。

4 ワラ処理部の取扱い

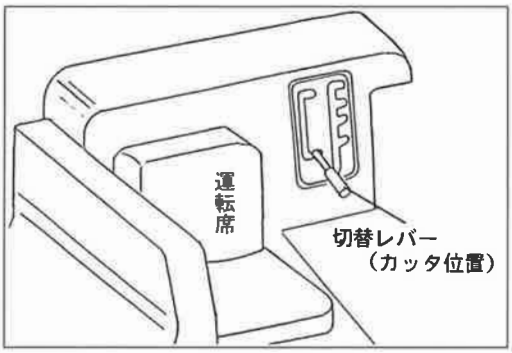
《切替レバー操作上の注意》

・搬送通路のワラを完全に流してから行います。
・脱こく作業中の切替え操作は絶対にしないでください。詰まりの原因となります。

1 カッタ作業

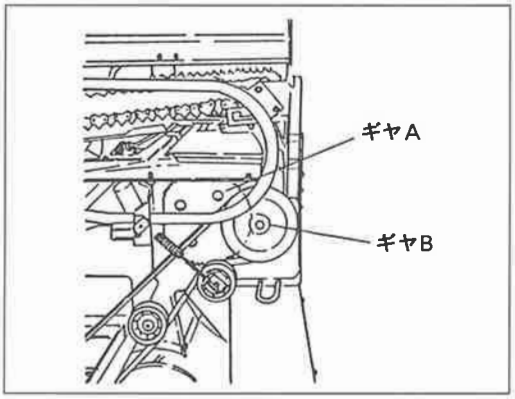
❶ 切替レバー

切替レバーをカッタ作業位置にセットします。



❷ 注　油

ギヤA・Bに注油します。



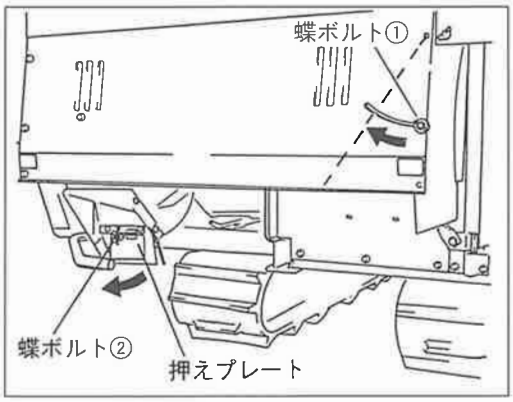
❸ 作業開始まえに低速で回転し，各部に異常がないことを確認します。

❹ カッタ切ワラ拡散調節

出荷時は拡散が良くなる図の位置にセットされています。

中割作業，回り刈り作業（あぜぎわを2～3条残す場合）時には蝶ボルト①を矢印方向に長穴一杯押してセットします。つぎに，蝶ボルト②を緩め，下側に長穴一杯押下げセットします。

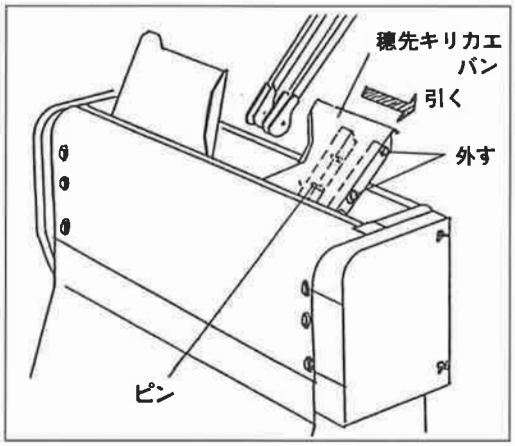
立稲に切断ワラがかからず次行程作業がスムーズに行えます。特に倒伏材等の刈取りに便利です。



◆回転部にワラの巻付が発生したとき，または異物が混入したときは，必ずエンジンを停止し完全に取除いてから作業を再開してください。

◆刃の切れ味が低下すると巻付が発生しやすくなるので，刃の保守管理を十分行ってください。

◆カッタ作業中カッタ詰まりが生じた場合，穂先キリカエバンプレートのボルト２本を外し，引っ張ると穂先キリカエバンプレートが外れます。
取外し後，カッタオープンにて容易に詰まりワラの解除が行えます。
キリカエバン位置がカッタ状態の場合は，穂先キリカエバンプレートを外した状態でないとカッタオープンが行えません。
（穂先キリカエバンを外さずにカッタオープンをするとキリカエバンが壊れます）



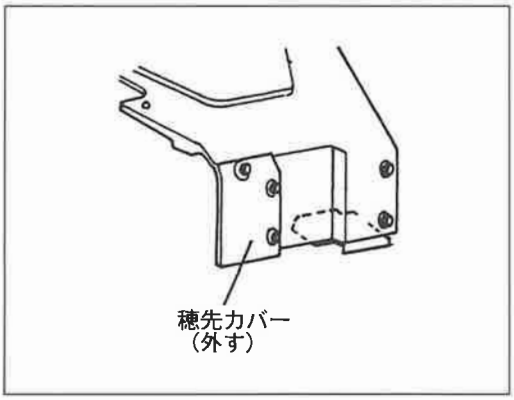
◆穂先キリカエバンプレート取付けの際には，キリカエバンのピンを差込んでから，ボルトで固定します。

2 排ワラ作業

（タレ流し，ドロッパ，ノッタ）

❶ 切替レバー
切替レバーを排ワラ作業位置にセットします。

❷ タレ流し作業・ドロッパ作業・ノッタ作業時は，排ワラ穂先カバーを外してください。

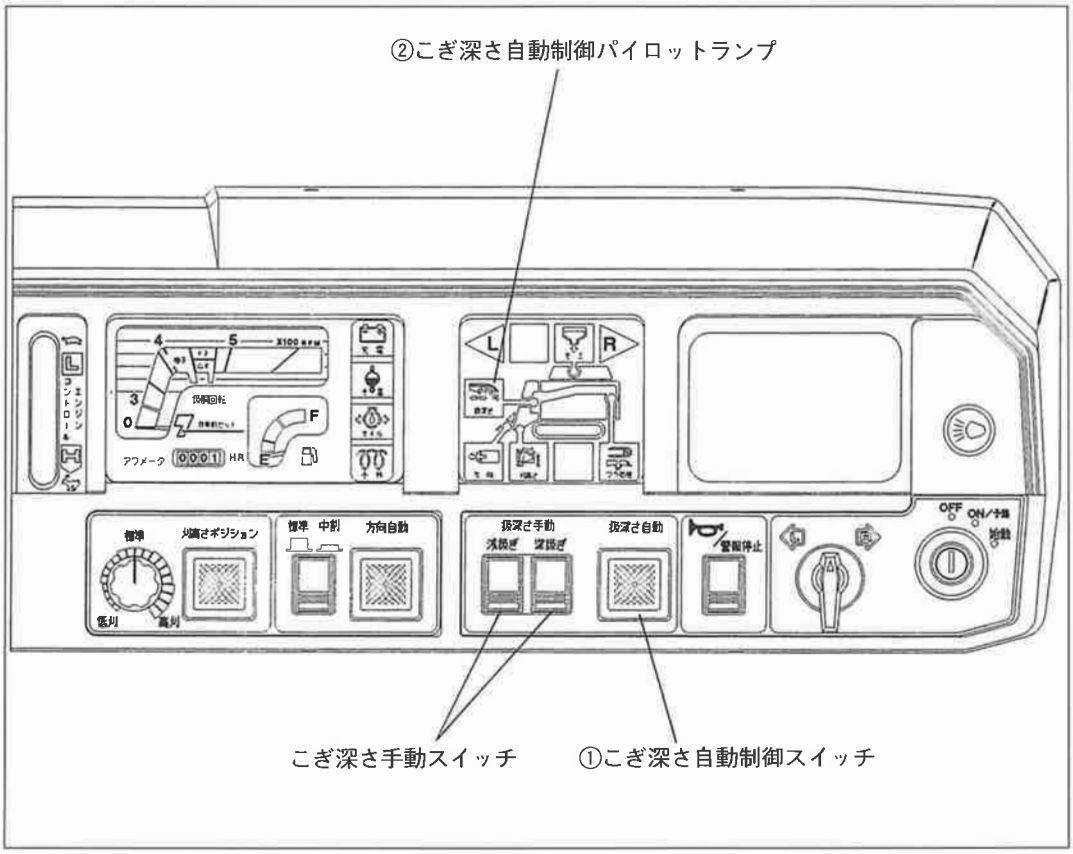


注記

◆ノッタ・ドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの《取扱説明書》を参照してください。

5 こぎ深さ自動制御の取扱い

1 運転装置

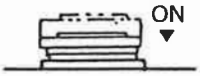


こぎ深さ調節は，《自動制御》による方法と《手動》で行う方法の二つの操作が可能です。

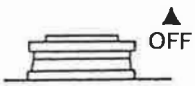
・自動制御中は，こぎ深さ調節の必要はありません。

❶ こぎ深さ自動制御スイッチ

・《ON》……押すとスイッチが下がってロックし，スイッチ付のランプが点灯，スイッチが《ON》状態であることを表示します。



・《OFF》……《ON》状態で再び押すとロックが外れてスイッチが上がり，ランプは消灯，こぎ深さ自動制御は作動しません。



❷ こぎ深さ自動制御
パイロットランプ



こぎ深さ自動制御スイッチを《ＯＮ》にし，刈取り作業を開始し，刈取部に作物が搬送され始めたら点灯し，こぎ深さ自動制御状態を表示します。

◆スイッチを《ＯＮ》にして，刈取り作業を開始してもインジケータランプが点灯しないときは，こぎ深さ自動制御が作動していません。作業を中止し，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認します。

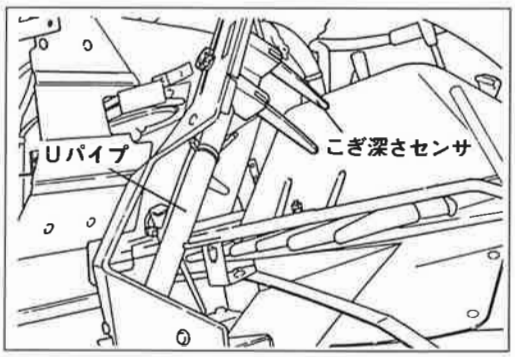
◆自動制御が故障のときはこぎ深さ手動スイッチによって，手動操作ができます。

❸ ヒューズ

《ヒューズの取扱い》（10ページ）を参照。

2 こぎ深さセンサの調節のしかた

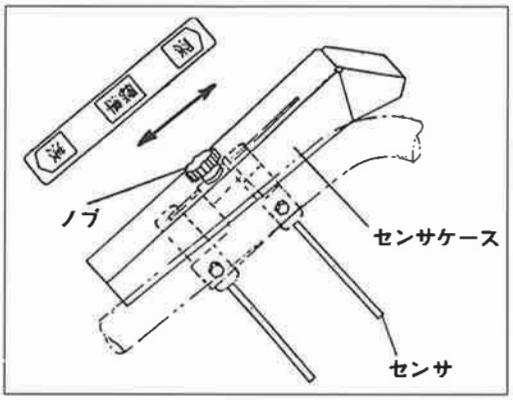
こぎ深さセンサは工場からの出荷のときは，《標準セット》の位置に調節してあります。



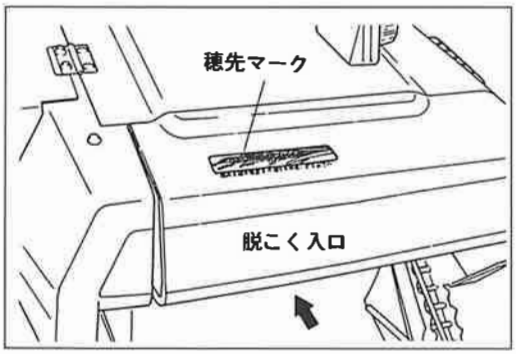
・つぎのようなときには，ノブを緩めセット位置を調節します。

こぎ深さが《浅すぎる》ときは，センサケースを矢印の《深》方向へ移します。

また，こぎ深さが《深すぎる》ときは，矢印の《浅》方向へ移動します。



◆こぎ深さセンサを調節するときは，稲または麦の穂先が脱こく入口の《穂先マーク》位置にくるよう，適正なこぎ深さで作業をしてください。



3 こぎ深さ自動制御が使えない条件

○つぎの状態では《こぎ深さ自動スイッチ》を《ＯＦＦ》にし，手動スイッチで手動操作します。

○倒伏角45°以上の倒伏作物

○くされ状態の作物

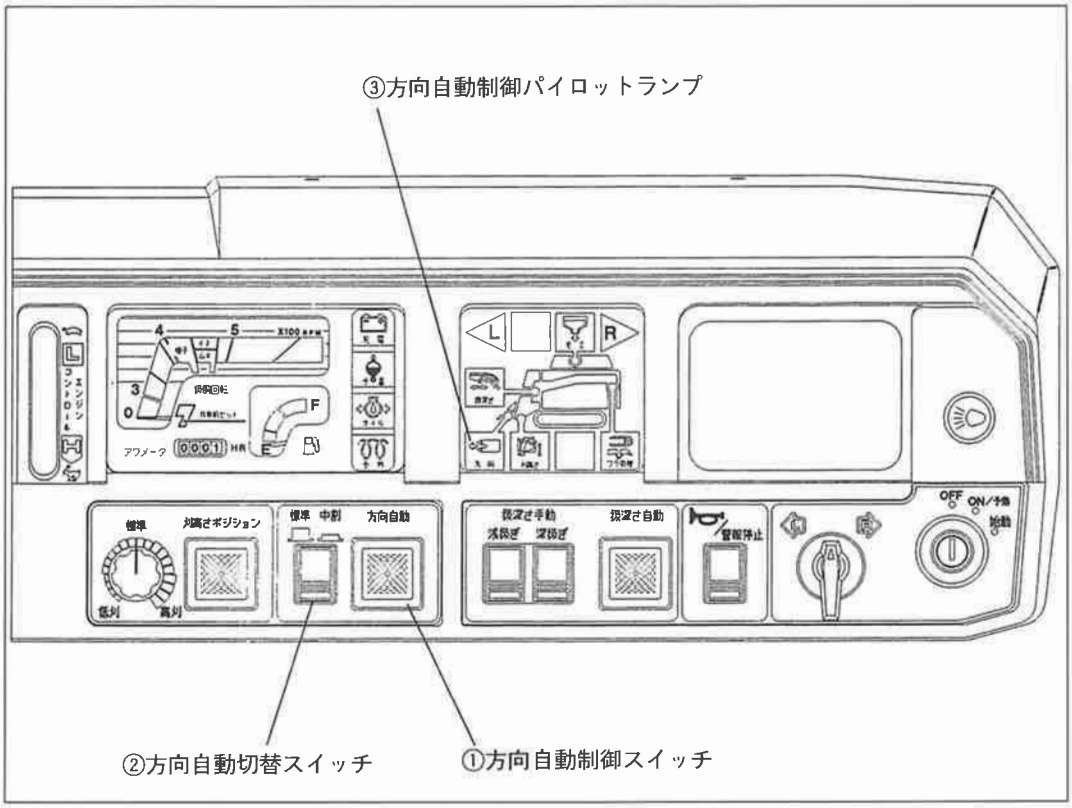
○雑草が多いとき

○穂先が極端に《浅こぎ》《深こぎ》に変動するとき

○一条刈りをするとき（稈量が少ないとき）

6 方向自動制御の取扱い

1 運転装置



❶ 方向自動制御スイッチ

・《ＯＮ》……押すとスイッチが下がってロックし，スイッチ付のランプが点灯，スイッチが《ＯＮ》状態であることを表示します。



・《ＯＦＦ》……《ＯＮ》状態で再び押すとロックが外れ，スイッチが上がり，スイッチ付のランプが消灯，方向自動制御は作動しません。



❷ 方向自動切替スイッチ

・《標準》……条に沿っての刈取り，横刈りの刈取りに使用します。
スイッチを《ＯＮ》状態で切替スイッチは《標準》にします。

・《中割》……中割り作業に使用します。
スイッチを《ＯＮ》状態で切替スイッチは《中割》にします。



❸ 方向自動制御パイロットランプ



・《連続点灯》……スイッチを《ＯＮ》に，切替スイッチを《標準》にセットして作業を開始し，搬送部に作物が流れてくると《連続点灯》し，方向自動《標準》制御中を表示します。
・《点滅》……スイッチを《ＯＮ》に，切替スイッチを《中割》にセットして，作業を開始し搬送部に作物が流れてくると《点滅》し，方向自動《中割》制御中を表示します。
・《消灯》……次のㇷ゚～ㇷ゚の場合はランプが《消灯》し，方向自動制御は作動しません。

ㇷ゚　スイッチが《ＯＦＦ》のとき。
ㇷ　マルチステアリングレバー操作中。
ㇷ゚　後進走行中。



◆スイッチを《ＯＮ》にして，搬送部に作物が流れてきてもランプが点灯しないときは，方向自動制御が作動しません。作業を中止し，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検します。

❹ ヒューズ

《ヒューズの取扱い》（10ページ）を参照。

2 作業のしかた

❶ 条刈り（標準）

スイッチを《ＯＮ》，切替スイッチを《標準》にして条合わせを行った後，搬送部に作物が流れてきてから，方向自動制御が作動します。それまでの作業は手動で操作します。



◆条刈りは《右側センサ》を基準にして自動操向するので，条合わせは左側のデバイダが条間に入るように，また機体が条列にまっすぐになるようにします。

❷ 横刈り（標準）

スイッチを《ＯＮ》，切替スイッチを《標準》にして条合わせを行った後，搬送部に作物が流れてきてから方向自動制御が作動します。それまでの作業は手動で操作します。



◆横刈りは《右側センサ》を基準にして自動操向するので，条合わせは右側のセンサが稲株に当たるようにします。機体を斜めに入れると，刈残しをすることがあります。また横刈りを２～３行程くりかえしたとき，右デバイダが未刈株に接近しすぎたり離れすぎたり，大きく蛇行するときは手動で補正してください。

❸ 中割り

スイッチを《ＯＮ》，切替スイッチを《**中割**》にして条合わせを行った後，搬送部に作物が流れてきてから方向自動制御が作動します。それまでの作業は手動で操作します。



◆中割りは《左側センサ》を基準にして自動操向するので，条合わせは左側のデバイダが条の中間に入るようにし，機体が条列にまっすぐになるようにします。

◆中割り作業では，条間と刈幅の関係から右側１条をかじったり，右クローラで踏むことがあります。注意してください。

◆右１条目の刈跡が大きく乱れるようなときは，スイッチを《ＯＦＦ》にし，手動で作業してください。

❹ 方向自動制御中でも，手動で操作すると，《**手動優先**》で進路をかえることができます。

❺ 旋回するときは，方向自動制御が作動しないので，手動で操作します。このときスイッチを《ＯＦＦ》にする必要はありません。

3 方向自動制御の使えない条件

つぎの条件ではスイッチを《ＯＦＦ》にして，手動で操作します。

㋐ 斜め刈り
㋑ あぜぎわ刈り
㋒ 雑草が多いとき
㋓ バラまきほ場
㋔ 湿　田
㋕ 条間や株間が極度に乱れているとき
㋖ 稈量が少ないとき
㋗ 欠株が多いとき
㋘ 植付け条間が28㎝以下の正条植えほ場
㋙ 植付け条間が33㎝以上の条植えほ場
㋚ つぎのような倒伏材

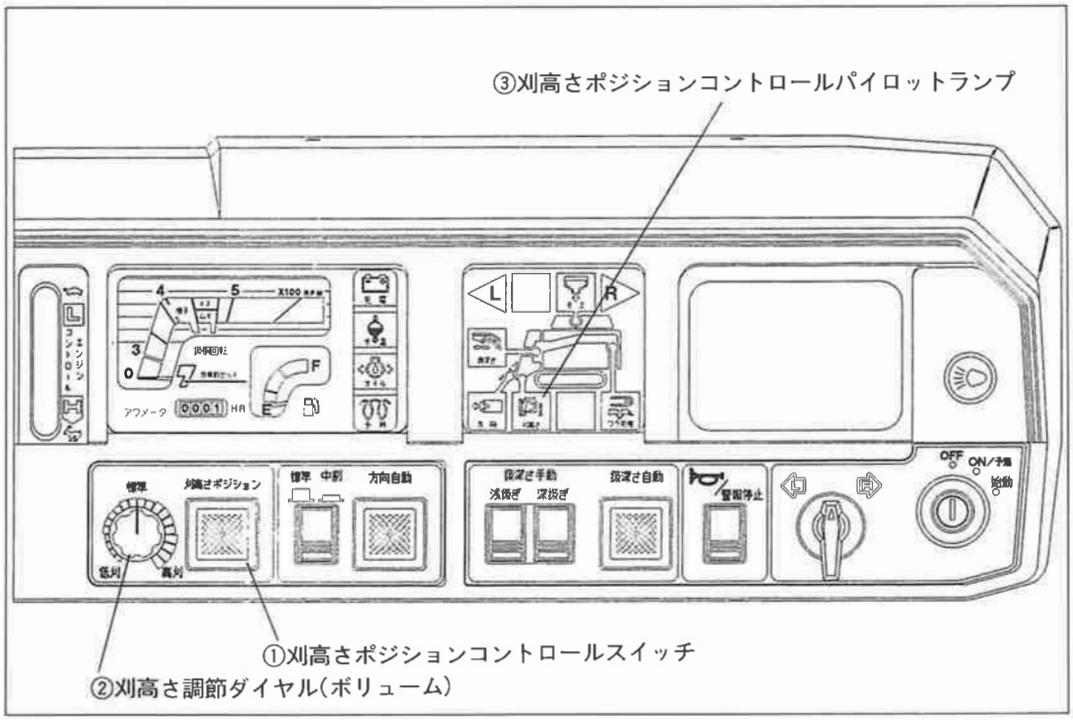
刈取り方向＼倒伏程度			倒伏程度		
			倒伏	中倒伏	立毛状態
標準刈取り		①向い刈り	×	△	○
		②右倒伏刈り	×	○	○
		③追いり刈り	△	○	○
		④左倒伏刈り	△	○	○
中割刈取り		⑤右倒伏中割	×	△	○
		⑥左倒伏中割	×	×	○

○刈取り可　　×刈取り不可

△注意してゆっくり刈取る
（手動で補助操作をする）

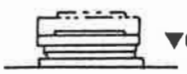
7 刈高さポジションコントロールの取扱い

1 運転装置



❶ 刈高さポジションコントロールスイッチ

・《ON》……押すとスイッチが下がってロックし，スイッチ付のランプが点灯，スイッチが《ON》状態であることを表示します。



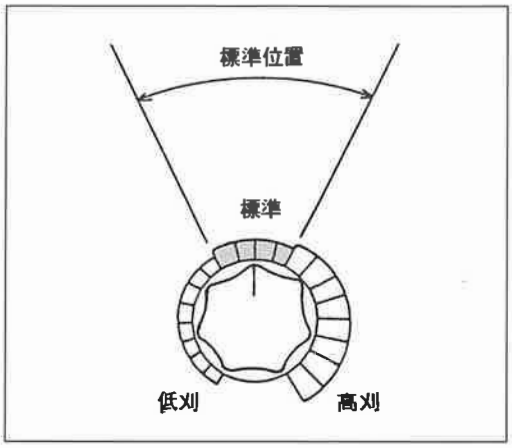
・《OFF》……《ON》状態で再び押すとロックが外れてスイッチが上がり，ランプが消灯，刈高さポジションコントロールは作動しません。



◆刈高さポジションコントロールを使用しないときはポジションコントロールスイッチを《OFF》にしてください。

◆ほ場の凹凸が極端に多く，刈高さを頻繁に調整する必要があるときは，ポジションコントロールスイッチを《OFF》にして《手動》で操作してください。

❷ 刈高さ調節ダイヤル（ボリューム）



刈高さの調整は刈高さ調節ダイヤルの操作によって，希望する《刈高さポジション》を設定することができます。

刈高さ調節ダイヤルは《標準位置》が適正な刈高さの使用範囲です。

- 《乾田ほ場》……標準の中央位置
- 《湿田ほ場》……標準よりも高刈り寄りの位置

❸ 刈高さポジションコントロールパイロットランプ



刈高さポジションコントロールが作動したときに点灯します。



◆刈高さ調節ダイヤルをどの位置にセットしても刈高さポジションコントロールが作動しないとき，または刈高さポジションコントロールが作動しても，パイロットランプが点灯しないときは，作業を中止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認します。

❹ ヒューズ

《ヒューズの取扱い》（10ページ）を参照。

2 作業のしかた

❶ 刈高さポジションコントロール

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《低刈》の方向に，高く刈取るときは《高刈》の方向にダイヤルを回します。

乾田での標準刈高さセットの手順

㋐ 刈高さ調節ダイヤルを《標準位置》にセットします。

㋑ マルチステアリングレバーを《下げ》に操作して刈取部を下げます。

パイロットランプが点灯し，刈取部が停止した位置が刈高さセットの位置です。

刈高さが高すぎる場合

- 刈高さ調節ダイヤルを少し《低刈》側へ回します。
- パイロットランプが消え，刈取部が下降します。
- 再びパイロットランプが点灯し，刈取部が停止した位置が新しい刈高さセットの位置です。

刈高さが低すぎる場合

- 刈高さ調節ダイヤルを少し《高刈》側へ回します。
- パイロットランプが消え，刈取部が上がります。
- 再びパイロットランプが点灯し，刈取部が停止した位置が新しい刈高さセットの位置です。

◆刈高さポジションコントロールを使用するときは，刈取部の下限ストッパをいっぱいねじ込んでおいてください。

◆パイロットランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても刈取部は下がりません。

◆刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを《上げ》操作すると，パイロットランプが消えポジションコントロールが解除されます。再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

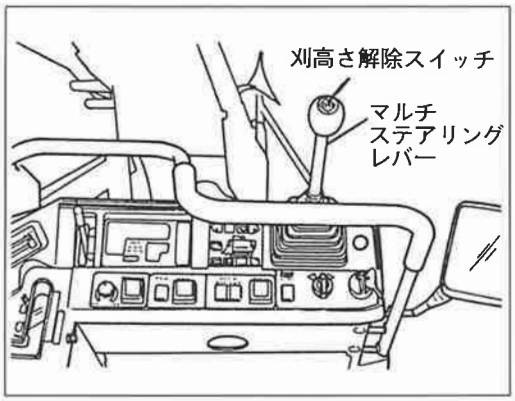
◆スタータスイッチが《ＯＦＦ》になっているとマルチステアリングレバーを《下げ》にしても刈取部は下がりません。スタータスイッチを《ＯＮ》にしてからマルチステアリングレバーを《下げ》にして刈取部を下げます。

❷ 刈高さ解除スイッチの使いかた

㋐ 刈高さ解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを《下げ》にすると刈取部は刈高さポジションコントロールに関係なく通常のマルチステアリングレバー操作の《下げ》となります。

㋑ 刈高さポジションコントロール位置よりもさらに刈取部を下げたいときは，マルチステアリングレバーの刈高さ解除スイッチを押して使用します。

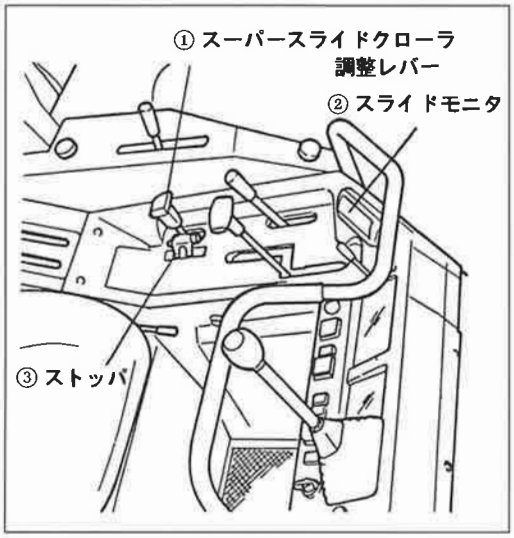
㋒ 刈高さ解除スイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。



8 スーパースライドクローラ装置の取扱い

（デラックス仕様）

1 運転装置



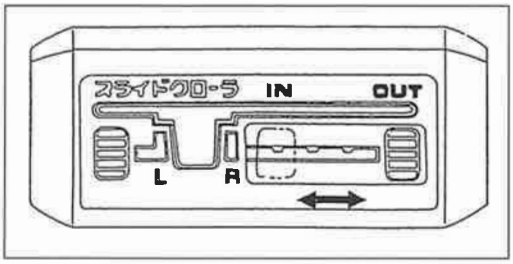
❶ スーパースライドクローラ調整レバー

クローラ（右）の位置をスライドさせクローラ左右の間隔を変えるレバーです。

《ＩＮ》……クローラ間隔が狭くなります。

《ＯＵＴ》…クローラ間隔が広くなります。

❷ スライドモニタ



クローラ（右）のスライド位置を表示します。

《ＩＮ》……クローラ（右）が縮小側位置（クローラ間隔が狭い状態）であることを示します。

《ＯＵＴ》……クローラ（右）が拡大側位置（クローラ間隔が広い状態）であることを示します。

❸ ストッパ

スーパースライドクローラ調整レバーをロックします。

2 操作のしかた

❶ スーパースライドクローラ調整レバーの《ストッパ》を外し，ロックを解除します。

❷ コントロールレバーを《高速(Ｈ)》位置にセットします。

❸ 副変速レバーを《低速(Ｌ)》に入れます。

❹ 主変速レバーにより前進し，《主変速Ｆ１～Ｆ２》の速度で走行しながら，スーパースライドクローラ調整レバーを《ＩＮ》または《ＯＵＴ》の操作をします。

❺ スライドモニタにより，クローラ（右）のスライド位置を確認しながら所定の位置に移動させ，操作後はレバーを必ずロックします。

・通常は《ＯＵＴ》位置で作業を行います。

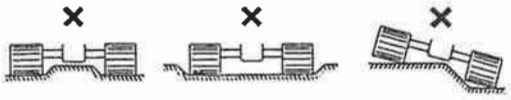
・《あぜぎわ刈り》や《中割刈り》をするときには《ＩＮ》位置に移動します。

◆つぎの作業をするときには，必ず《ＯＵＴ》の状態にしてください。

・道路走行をするとき。
・トラックへの積込み・積降ろしをするとき。
・傾斜地での作業をするとき。

◆クローラの移動操作は平坦な路面，田面上で直進状態にて操作してください。
特に，下記のような操作は，絶対にしないでください。

・段差のあるほ場または農道での操作



・回行の中途や回行の直後の操作
・機械を停止したままでの操作

◆湿田で操作する場合は，なるべく平坦で，泥押しの少ない場所で操作してください。

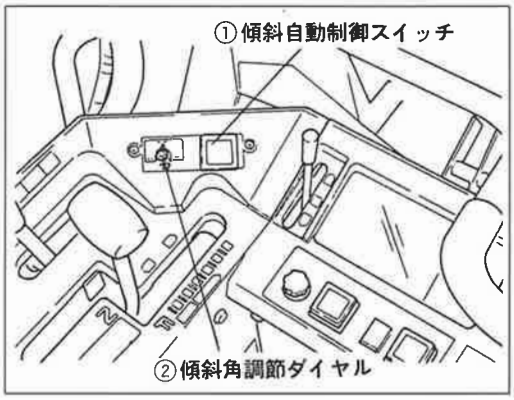
◆《ＩＮ》と《ＯＵＴ》の中間位置での使用はさけてください。

◆湿田での作業後は，クローラ走行部の洗車を行うように心掛けてください。
特に，車軸の周辺や，フレームのスライド部分のワラや泥は早めに取除いてください。

9 機体水平自動制御の取扱い （機体水平制御仕様）

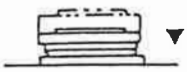
機体水平自動制御は湿田作業時，あぜぎわ作業時，うねのある麦刈作業時など，機体が傾いて作業しにくいときに使用してください。

1 運転装置



❶ 傾斜自動制御スイッチ

・《ON》……押すとスイッチが下がってロックし，スイッチ付のランプが点灯，スイッチが《ON》状態であることを表示します。



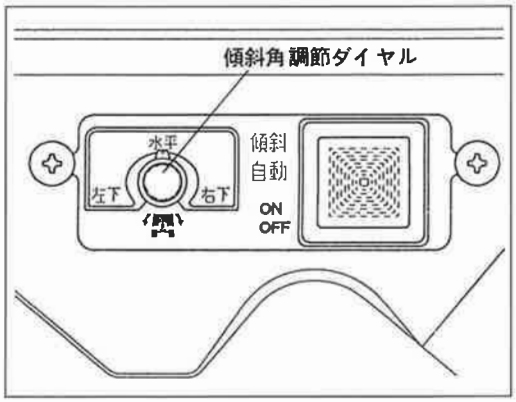
・《OFF》……《ON》状態で再び押すとロックが外れてスイッチが上がり，ランプが消灯，機体水平自動制御は作動しません。



◆機体水平自動制御を使用しないときは，傾斜自動制御スイッチを《OFF》にしてください。

◆刈取り時以外では傾斜自動制御スイッチを《OFF》にしてください。

❷ 傾斜角調節ダイヤル（ボリューム）



傾斜角調節ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させることができます。

・ダイヤルを《右下げ》の方向に回すと，機体は右下がりのまま走行します。

・ダイヤルを《左下げ》の方向に回すと，機体は左下がりのまま走行します。

2 作業のしかた

❶ 刈取り始め

・傾斜手動レバーで，機体を希望の高さに調節します。

・傾斜角調節ダイヤルで，機体を希望の角度に調節します。



❷ 刈取り作業

作業時クラッチ《入》，主変速レバー《前進》のときに機体水平自動制御が作動します。

作業機クラッチ《切》，または主変速レバーが《中立（N）》，《後進》のときには機体水平自動制御は作動しません。

◆傾斜自動制御スイッチが《ＯＮ》でも傾斜手動レバーを操作すると《手動優先》で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。

◆自動制御中，機体の高さを変えたいときは傾斜手動レバーを操作してください。

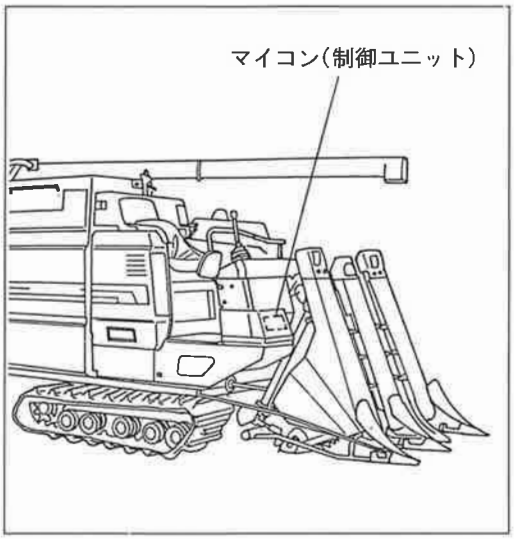
❸ 作業終了時

作業が終了し，畦越えや路上走行を行うときは傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にし，機体を一番下まで下げてください。

◆傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にすると機体は一番下まで下降します。下降途中で停止させたいときは傾斜手動レバーを操作してください。

◆モミ排出作業時は傾斜自動制御スイッチを《ＯＦＦ》にしてください。

10 マイコン（マイクロコンピュータ）の取扱い



❶ マイクロコンピュータ

マイコンによる制御機能
こぎ深さ自動
方向自動
刈高さポジションコントロール
機体水平自動
主変速ポジションコントロール（走行）
モミ警報

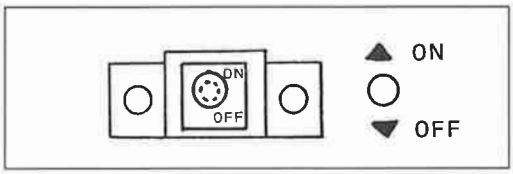
❷ ヒューズ

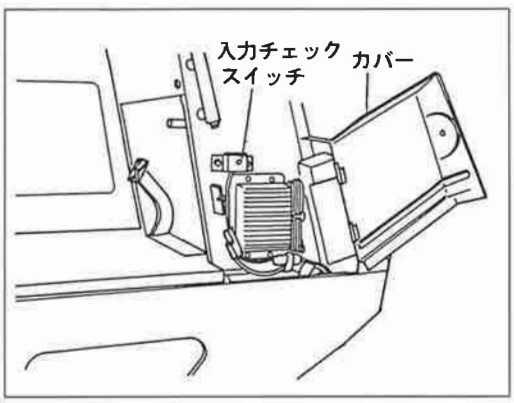
《マイコン》の10Aヒューズが溶断しているときは，上記各機能が停止状態となります。

◆マイコンは自分自身の不具合を，ある程度自己判断する機能を持っています。
不具合時は，運転パネルのインジケータランプ《モミ》《こぎ深さ》《方向》《刈高さ》が同時に点滅し，オペレータに知らせます。そのときはスタータスイッチを一度切って，入れ直しますと，正常に復帰します。

❸ 入力チェックスイッチ

《ＯＮ》側に倒すと，入力チェックモードとなります。この状態で任意のセンサスイッチを《ＯＮ↔ＯＦＦ》にしたときホーン単音（ピッ）が出れば正常です。





◆入力チェック終了後は必ず入力チェックスイッチを《ＯＦＦ》側にしてください。

◆マイコンユニットは，洗車時，水やスチームがかからないよう注意してください。

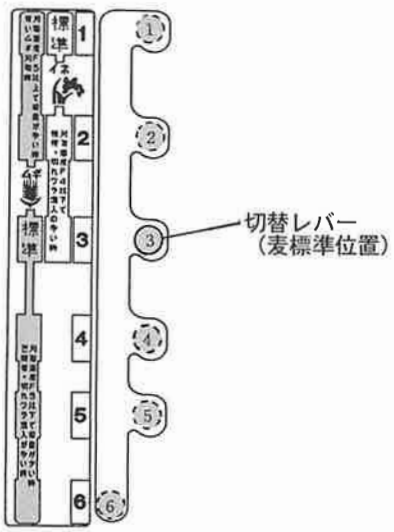
11 麦刈り作業のしかた

工場からの出荷状態は，《稲作業セット》にしてあります。

麦刈り作業（ビール麦も含む）のときは，作業前につぎの個所を確認し，最適な位置にセットします。

1 スーパーワイドセレクタ（揺動流板）の調整

麦刈り作業（ビール麦も含む）をするときは，切替レバーを《麦標準》位置にセットします。なお作物条件と刈取り速度により，つぎのように使いわけてください。



- **標準**……通常の麦刈り作業。（③位置）
- **Ｆ５以上**……収穫量が多い材料か，青いムギの刈取り時。（②位置）
- （①位置）……より収穫量が多く選別が良い材料。
- **Ｆ５以下**……収穫量が少ない材料か芒付着・切ワラ混入が多いとき。（④～⑥位置）

（より芒付着，切ワラ混入が多いときは，順次⑤から⑥へと位置を変えてください。）

◆**切替レバーの操作は，脱こく内部のワラ屑等がきれいに排出されるまで脱こく部を十分カラ運転し，揺動流板上のワラ屑などが排出された後に行います。**

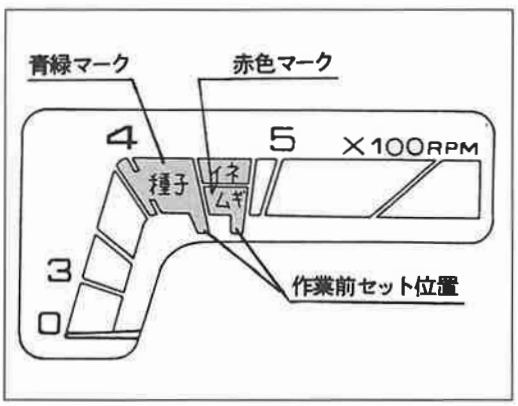
◆**また，シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，時々上記の要領でレバーを操作してください。**

2 こぎ胴回転数

こぎ胴回転計の針が《色別マーク》の範囲内になるような作業速度で使用します。麦作業で水分の多い材料や倒伏材で損傷の多い場合は，こぎ胴回転数を《種子》にして使用します。

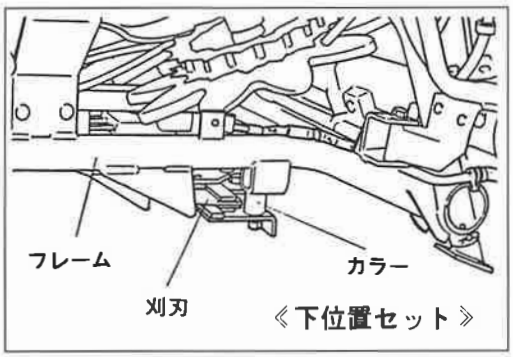
○麦（小麦，裸麦，大麦，ビール麦）
……《赤色マーク範囲》
（ビール麦・大麦で芒付着が多い場合は回転の上限で使用します。）

○種子……《青緑マーク範囲》



3 刈刃の上下調節

・出荷のときは《下セット》になっています。



《下位置セット》

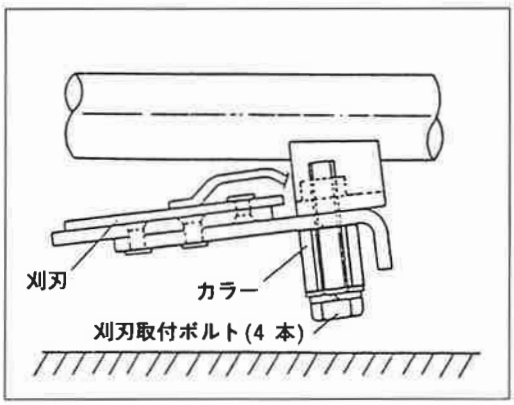
うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，刈刃を《上位置》にセットします。

❶ 刈刃取付ボルト4ケ所のうち，内側のボルト2本を外し，左右のボルトを緩めます。

❷ 左右の取付け位置の刈刃とフレームの間に，カラーを入替えます。

内側の取付け位置も同様にカラーを入替え，確実に締付けます。

《上位置セット》



◆こぎ深さ自動制御・方向自動制御・刈高さポジションコントロールは麦の栽培様式によっては使用できない場合があります。

手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生ずるので点検・再調整を行い，
損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしてください。

◆掃除・点検・調整・整備は，必ずエンジンを停止してから行ってください。
◆カバーは危険を防止するためのものです。取外したカバー類は必ず取付けてからエンジンを始動してください。
◆空運転するときも必ずカバーをセットし，カッタを閉にしてください。

1 定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように《**定期点検整備表**》を参考に点検・整備をしてください。
・《**定期点検整備表**》は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をしてください。
・表示記号の説明　　○……点検・整備　●……交換

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間） シーズン前	始業時	25時間目	50時間目	100時間目	150時間目	250時間目	350時間目	450時間目	格納時	備考	参照ページ
エンジン部	エンジンオイル	油量点検・補給 オイル交換		○		●		●	●	●	●		ディーゼルエンジンオイル API・CD級以上，SAE・10W－30，3.7ℓ	29・30・81
	エアクリーナエレメント	ゴミ付着点検・清掃・交換	○						●					82
	燃料フィルタ	点検・交換	○							●				83
	エンジンカバーとラジエータ防じんフィルタ	ゴミ付着点検・清掃		○								○		82
	エンジンオイルフィルタ	交　換				●		●		●				81
	ラジエータ（冷却水）	冷却水量点検・補給		○								○	冬期保管時は抜取りまたは不凍液を入れること　冷却水5.45ℓ	29・31・84・85
	エンジンファンベルト	伸び・点検・調整	○										タワミ量 10～13㎜	105
	燃料ホース	点検・交換	○										燃料漏れ点検	83
走行部	トランスミッションオイル	油量点検・補給・交換	○				●				●		ギヤオイル API・GL－4，SAE・80W	29・32
	カウンタギヤケースオイル	油量点検・補給・交換	○				●				●		ギヤオイル API・GL－4，SAE・80W　2.8ℓ	29・33
	ドライブシャフトケース右	油量点検・補給	○	（スーパースライドクローラ仕様）									ギヤオイル API・GL－5，SAE＃90	29・32
	マルチステアリングレバー	ワイヤの伸び点検・調整	○		○（初回のみ）									100
	刈取クラッチレバー（刈取ベルト）	ベルトの伸び点検・調整	○		○（初回のみ）								《入》でスプリング長 83～85㎜	103
	作業機クラッチレバー（脱こく入力ベルト）	ベルトの伸び点検・調整	○		○（初回のみ）								《入》でスプリング長 84～86㎜	102
	刈取変速ベルト	伸び点検・調整	○										スプリング長 111～113㎜	106
	カウンタベルト	ベルトの伸び点検・調整	○										スプリング長 173～177㎜	105
	クローラ	伸び・点検・調整	○										タワミ量 10～15㎜	111
	走行クラッチペダル	遊び量点検・調整	○		○（初回のみ）								遊び 30～40㎜	101
	油圧ホース	点検・交換	○										油漏れ点検	85～86
	油圧作動油（オイルタンク）	油量点検・補給・交換	○				●				●		油圧作動油（マルチ STOU オイル）	29・31・85・86

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）										備考	参照ページ
			シーズン前	始業時	25時間目	50時間目	100時間目	150時間目	250時間目	350時間目	450時間目	格納時		
走行部	油圧オイルフィルタ	交換					●				●			85・86
	ソレノイドバルブのフィルタ	ゴミ付着点検・清掃									○			86～88
	機体水平リフトアーム軸受部（L仕様）	グリスアップ	○											29・15
電装部	バッテリ	液量 点検・補給	○									○		12～16
	配線	外れ 点検・修正	○											10～12
	計器類	点検	○											10・11・17～21
刈取部	こぎ深さギヤケース	油量点検・補給	○										ギヤオイル API・GL－4, SAE＃140	29・33
	トルクリミッタケース（右・左）	油量点検・補給	○										ギヤオイル API・GL－4, SAE＃140	29・34
	株元搬送チェン（右）	伸び点検・調整	○		○								スプリング長 155～160㎜	110
	株元搬送チェン（左）	伸び点検・調整	○		○								スプリング長 130㎜以上	110
	掻込み搬送ベルト	伸び点検・調整	○											108
	穂先搬送チェン	伸び・点検・調整	○											109
	こぎ深さ搬送チェン	伸び・点検・調整	○										スプリング長 330～335㎜	109
	各チェンおよび刈刃・摺動部	点検・調整・注油		○								○		36・37
	刈刃	スキマ点検・調整・刃研磨・交換	○										スキマ 0.5㎜以下	122
	集中注油タンク	点検・補給		○									エンジンオイル 1.5ℓ	29・35
脱こく部	脱こくギヤケース	油量点検・補給	○										ギヤオイル API・GL－5, SAE＃90	29・34
	トルクリミッタケース	油量点検・補給	○										ギヤオイル API・GL－5, SAE＃90	29・34
	脱こく風路	点検・清掃	○									○		89～92
	ベルトカバー内のワラ屑	点検・清掃	○									○		89
	穂先ベルト	ベルトの伸び点検	○											
	選別ベルト	ベルトの伸び点検・調整	○		○								スプリング長 146～150㎜	107
	1番ラセン駆動ベルト	ベルトの伸び点検・調整	○		○								スプリング長 152～156㎜	107
	こぎ歯	ネジのゆるみ点検・増締め	○											
	ワラ切鎌	刃先摩耗点検研磨・交換	○											125
	脱こくフィードチェン	伸び・点検・調整	○		○								タワミ量 10～15㎜	
	排ワラフィードチェン	伸び・点検・調整	○		○								タワミ量 10～15㎜	111
	各チェンおよび摺動部	点検・調整・注油		○								○		36
グレンタンク	グレン入力ギヤケース	油量点検・補給	○										ギヤオイル API・GL－4, SAE80W	29・35
	グレン入力ベルト	ベルトの伸び点検・調整	○		○								スプリング長 95㎜	108
	横ラセン駆動ベルト（こく粒排出レバー）	ベルトの伸び点検・調整	○		○								スプリング長 118㎜	104
	グレンオーガ回動部	グリスアップ	○											29・35
カッタ部	カッタ刃	点検・研磨・交換	○											95～98
	カッタ駆動ベルト	ベルトの伸び点検・調整	○		○								スプリング長 130㎜	108

2 点検と清掃

1 エンジンオイル・フィルタの交換

❶ エンジンオイルの交換は《**定期点検整備表**》に従って行います。

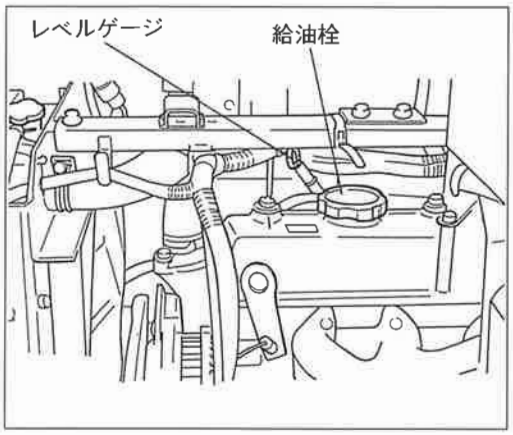
㋐ 座席シートの下のロックハンドルを外し，エンジンカバーを開きます。

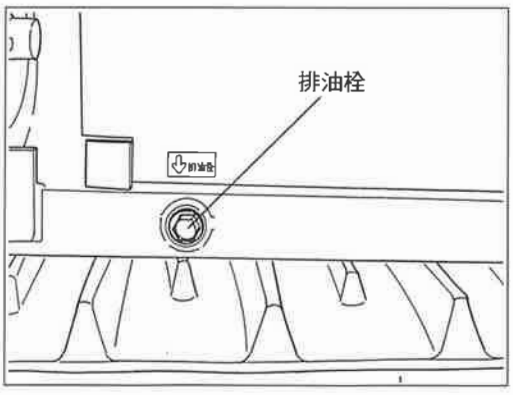
㋑ エンジンの給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。

㋒ 新しい《**純正エンジンオイル**》をレベルゲージの刻み線まで給油します。

・ディーゼルエンジン用オイル
API・CD級以上，SAE10W－30

・オイル量……3.7ℓ

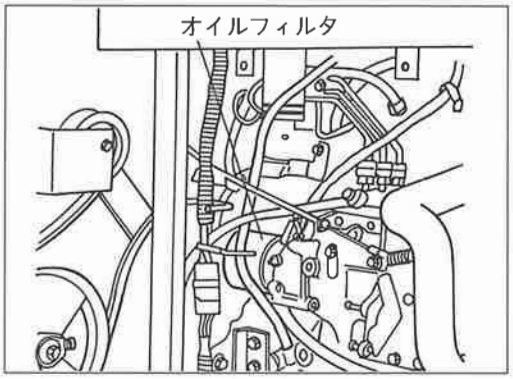




㋓ 交換後，エンジンを始動してオイルインジケータランプが消えるまで低回転で運転してください。(19ページ参照)

❷ オイルフィルタの交換

オイルフィルタは，オイル内の小さな異物をコシ取るものです。交換は《**定期点検整備表**》に従ってエンジンオイルと同時に行います。



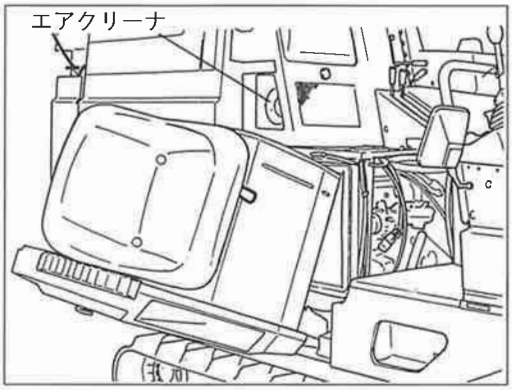
㋐ オイルフィルタは《**カートリッジタイプ**》を使用していますので，ご購入のうえ交換してください。

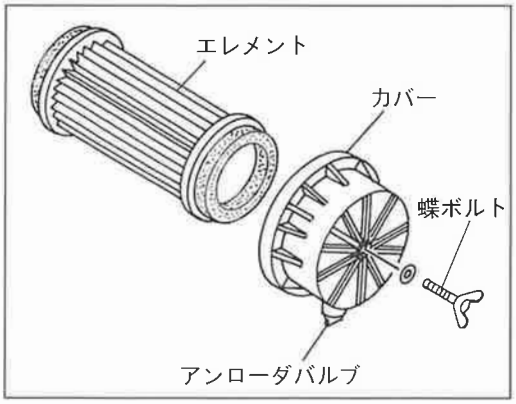
㋑ オイルフィルタの交換は専用工具が必要です。《**お買いあげ先**》へお申しつけください。

㋒ オイルフィルタを交換したときは，《**オイル量**》が多く入るので，必ずレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは規定量まで補給します。

2 エアクリーナの清掃

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。
・点検・清掃は《**定期点検整備表**》に従って行います。





❶ クリーナ本体の蝶ボルトを外し，エレメントを抜出します。

❷ エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側より山形にそって上から下へと順次吹きつけます。

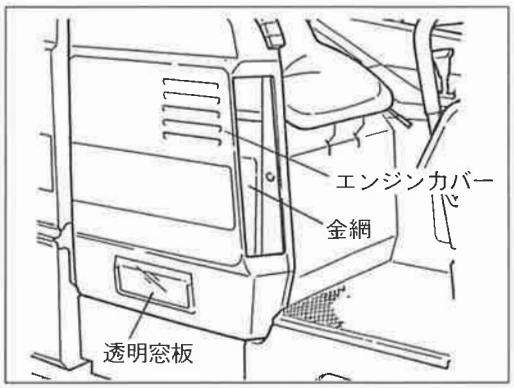
（コンプレッサは，空気圧を7 kg／㎠以下で取扱ってください。）

❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにカバーを蝶ボルトで確実に固定します。

3 ラジエータ防じんフィルタの清掃

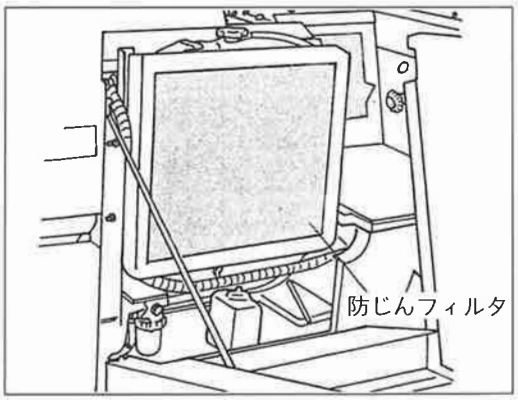
金網および**防じんフィルタ**にワラ屑等が目詰まりすると冷却風のとおりが悪くなり，エンジンが《**オーバーヒート**》する原因になります。

・点検・清掃は《**定期点検整備表**》に従って行います。



❶ エンジンカバーの吸入口にたまったゴミを透明窓板を外して取除きます。

❷ エンジンカバーを開き，金網を外し，表面をやわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサで吹きつけて掃除します。



❸ **防じんフィルタ**をエンジンカバー内側にあるラジエータカバーの前面枠の中より手で引出し，表面および内部に入り込んだゴミをハタキ落とします。

・シーズン終了後，長期格納するときは防じんフィルタをきれいに洗浄しておいてください。

《洗浄の方法》

㋐ 中性洗剤の《ぬるま湯溶液（水１ℓに洗剤15～20ｇ）》で防じんフィルタを丸洗いします。

㋑ 清水で十分すすぎ洗いをします。

㋒ 《完全に乾燥》をしたのち組付けます。（防じんフィルタは，80℃以上に加熱しないでください。）

❹ ラジエータにゴミ詰まりを生じたときはつぎの方法で取除きます。

㋐ 電気掃除機の吸気口（小口径のものが適当）を軽くフィン部に当ててゴミを吸いだします。

㋑ コンプレッサで，圧縮空気をフィン面に吹きつけてゴミを掃出します。（コンプレッサは空気圧を７kg／㎠以下で取ってください。）

◆エンジンカバーおよび防じんフィルタの掃除をするときは，必ずエンジンを止めてから行ってください。

4 燃料の補給

燃料タンクの残量をはやめに確認し，《こし網をとおして》燃料を給油します。

❶ 燃料系統のエア抜き要領

万一，運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの交換時はエア抜きを行ってください。（30ページ参照）

◆燃料補給時はくわえたばこ，裸火照明は絶対にしないでください。

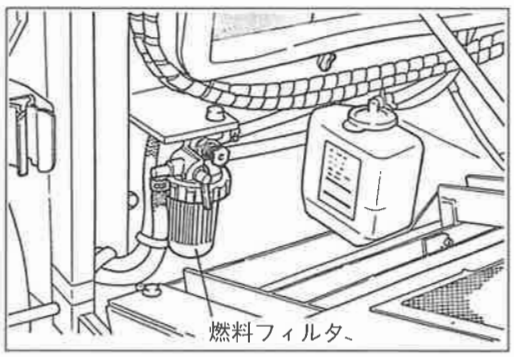
◆燃料を補給した時は燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

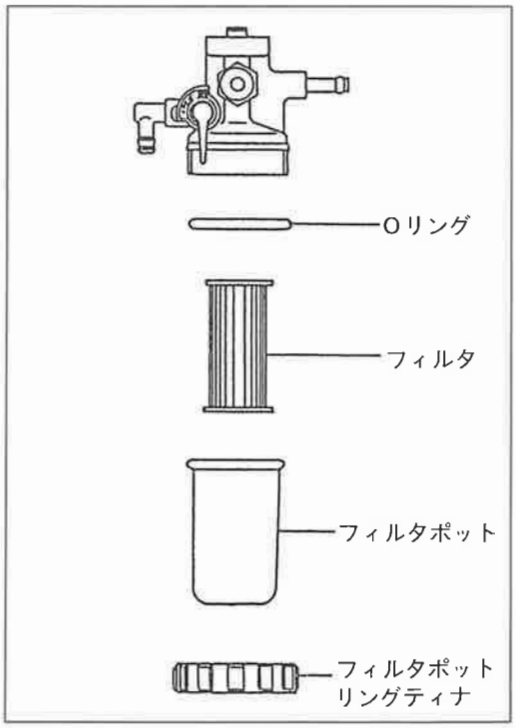
5 燃料フィルタの清掃

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミ・水をコシ取ります。

燃料フィルタは取扱いが容易な《カートリッジタイプ》です。

・点検・交換は《定期点検整備表》に従って行います。





◆燃料ホースおよび継手部より燃料漏れがないか点検し，損傷している場合は，火災の危険がありますので交換してください。

6 ラジエータ冷却水の取扱い

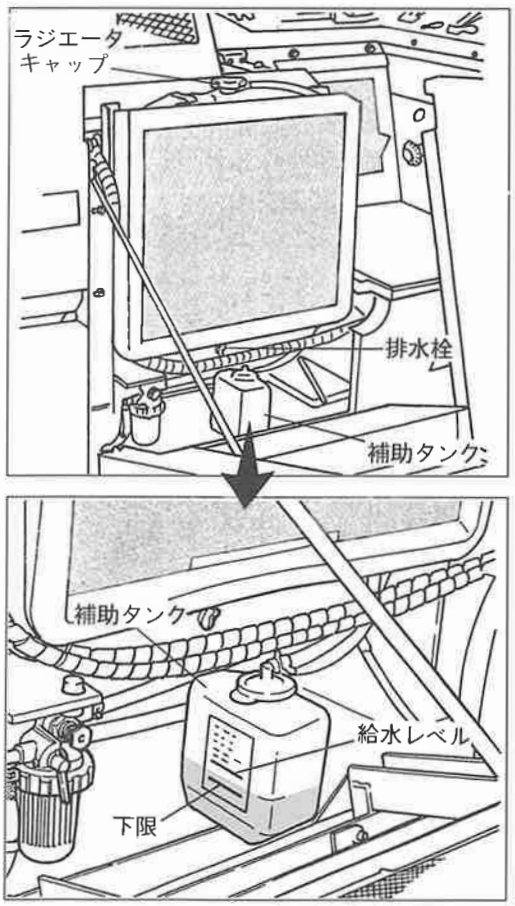
ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。

作業時・格納時の冷却水の取扱いには十分注意します。

❶ 作業中の取扱い

㋐ 日常の冷却水の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が《給水レベルと下限の間》にあるよう補助タンクに冷却水を補給します。



注記

◆ラジエータ内の冷却水は，補助タンクの冷却水が循環することにより給水しています。

◆補助タンクには絶対に《給水レベル》以上入れないでください。運転中冷却水があふれでます。

㋑ 補助タンクの水を切らしたとき

・エンジンカバーを開き，ラジエータキャップを外して冷却水を口元まで注水し，キャップを確実に閉めます。

・補助タンクの《給水レベル》位置まで給水します。

◆運転中およびエンジン停止直後は絶対にラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹出し《火傷》をすることがあります。冷えてから注意して開けてください。

◆運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出して危険ですので必ず点検をしてください。

◆冷却水には，泥水や塩水を絶対に使用しないでください。

◆冬季には冷却水が凍結し，シリンダやラジエータを破損することがあります。使用後は冷却水を抜取るか，または不凍液を混合してご使用ください。

❷ ラジエータ冷却水の交換

㋐ ラジエータキャップを外し，エンジン下部の排水栓から排水します。

補助タンクの《**給水レベル**》位置まで給水します。

㋑ ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を十分洗浄します。

・洗浄剤を使用すると効果的です。

㋒ 排水が終わったら排水栓を閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

・**一度エンジンをかけると水が循環してラジエータ内の水量が減りますので補助タンクの《下限》以下の場合は補給してください。**

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

・**冷却水量……5.45ℓ**

（補助タンク0.3ℓ含む）

❸ 不凍液の注入のしかた

工場からの出荷のときは，不凍液が注入され《**不凍温度－25℃**》を保っていますが，納入後１年以上経過したものは効力が低下するので，冷却水を《**不凍液濃度基準**》を参考に入替えます。

《不凍液濃度基準》

外気温度	℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度	%	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・**不凍液は《ロングライフクーラント》（PT）をご使用ください。**

・不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまで《**低速運転**》を続けます。

7 油圧作動油・油圧オイルフィルタの交換

このコンバインは多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

油圧作動油の交換は《**定期点検整備表**》に従って行います。

◆油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタの交換を行ってください。

・**油圧作動油……マルチSTOUオイル**

・**オイル量……11.0ℓ**

……12.0ℓ

（スーパースライドクローラ仕様）

（機体水平制御仕様）

❶ 油圧作動油の抜取り

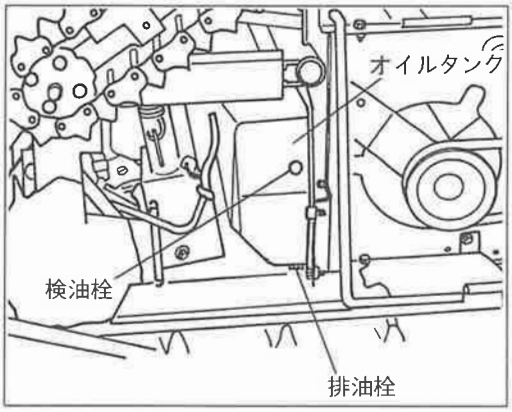
㋐ エンジンを始動し，刈取部を下げ，排出筒を収納状態にします。

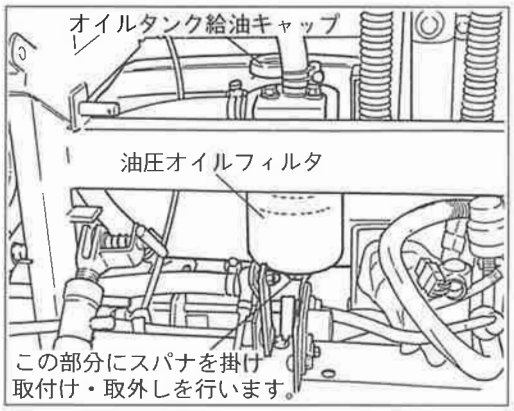
・車高を下げます（機体水平制御仕様）

・クローラ間隔を狭くします。

（スーパースライドクローラ仕様）

㋑　給油キャップを外し，オイルタンク下側の排油栓から油圧作動油を抜きます。





❷　油圧オイルフィルタの交換

㋐　油圧作動油のオイルフィルタは《カートリッジタイプ》を使用していますので，ご購入のうえ交換してください。

◆新しい油圧オイルフィルタのパッキンにオイルを薄くぬり，取付面にパッキンが当たってから，2/3～3/4回転締付けます。

❸　油圧作動油の給油

㋐　オイルタンクの給油口より，タンク横の検油栓まで給油します。

㋑　エンジンを始動し，アイドリング回転で５分間程運転します。
再度，点検し，検油栓まで補給します。
さらに，油漏れのないことも調べてください。

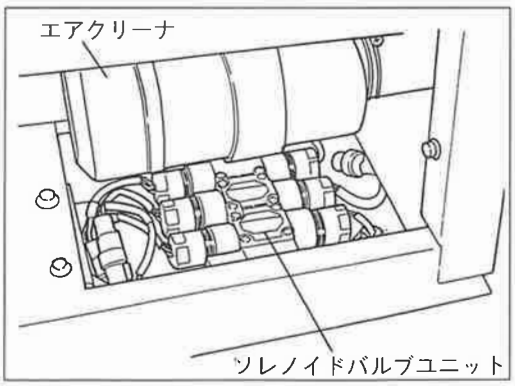
◆フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか必ず点検してください。

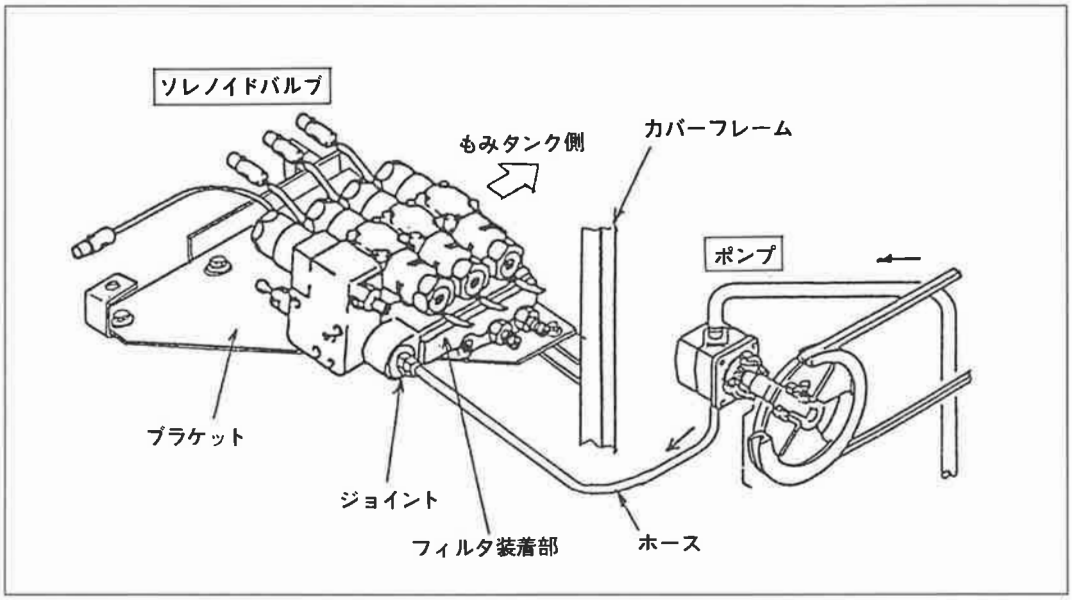
8　ソレノイドバルブのフィルタの清掃

油圧作動油の劣化や汚染による作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブ内部にフィルタが設けてあります。

・清掃は《定期点検整備表》に従って450時間毎に行います。

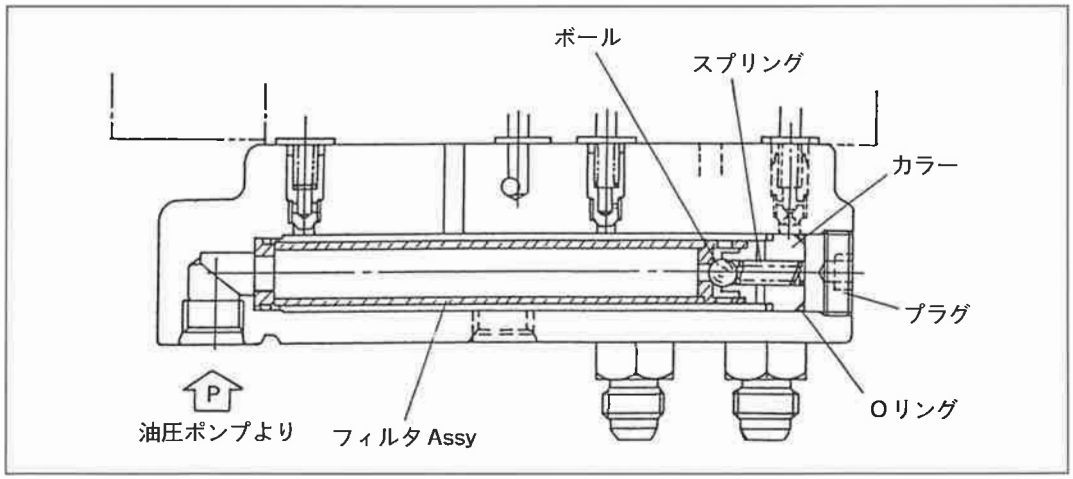
・ソレノイドバルブはエアクリーナの下側にあります。周辺のカバー類を取外し，ホコリやゴミを取除いてから次の手順で行います。





油圧作動油の劣化や汚染による作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブ内部にフィルタが設置してあります。

・ソレノイドバルブはエアクリーナの下側にあります。周辺のカバー類を取外し，ホコリやゴミを取除いてから次の手順で行います。



❶ フィルタの分解

㋐ 運転席後部のもみタンク部よりプラグを六角棒レンチで緩めて外します。

㋑ プラグを取り去った後，メネジはナイロンブラシ及びエア吹付けをしてよく掃除をします。

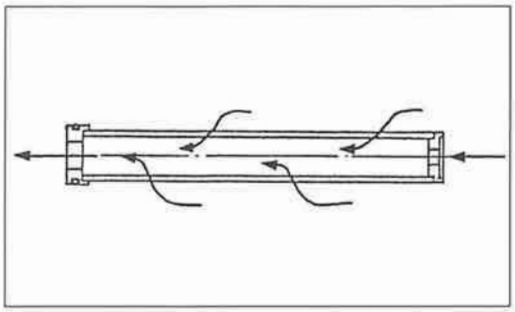
㋒ Oリングをピンセットにて傷つけないように取出します。

㋓ Oリングを取出すとカラー内のスプリングのバネ力にてカラー，スプリング，ボールが飛び出しますので取扱いに注意してください。

㋔ フィルタの穴部に先端がL型形状のスナップリングプライヤを引っ掛けて，軽く引っ張りながらフィルタを取出します。

❷ フィルタの清掃

フィルタ外側よりエアを約２分間吹きつけてください。



❸ フィルタの組付け

㋐ プラグが付いていたメネジ部を脱脂します。

㋑ フィルタをOリング側が奥側になるように入れます。

㋒ きれいに掃除したボール，スプリング，カラーを順序よく組込みます。

㋓ ゴミ等を吹取ったOリングをカラー端部にピンセットで押込みます。

㋔ 最後にプラグのネジ部に接着剤（ロックタイト242相当品）を塗布し六角棒レンチで締付けます。（このときの締付トルクは50～70kgf・cmですので締めすぎないように注意してください。）

9 グレンタンクの倒しかた

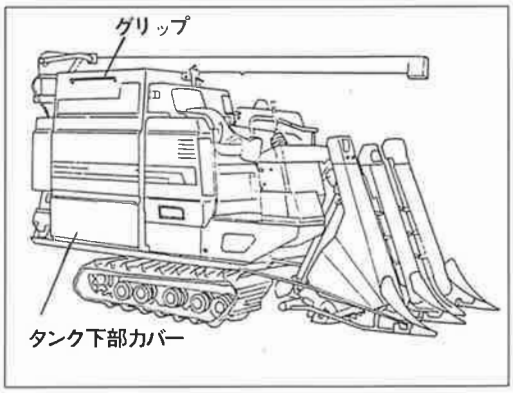
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときはグレンタンクを機体外方向に倒して行います。

◆タンクを倒すときは安全のために，必ず《二人作業》で行ってください。

◆タンクを倒すときは，必ずタンク内のもみを完全に出してから行ってください。

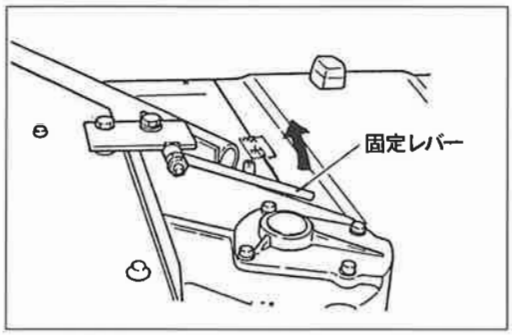
◆タンクを倒す途中では絶対に手を離さないでください。

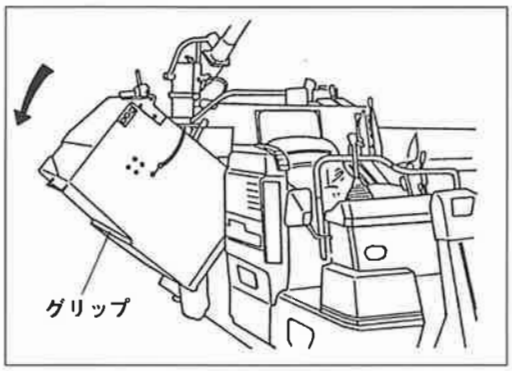
❶ エンジンを始動し，排出筒の固定レバーを外し，排出筒操作レバーで排出筒を上げてから，タンクを倒すのに支障のない位置まで旋回させた状態にしエンジンを停止します。（排出筒操作レバーの操作方法は53ページ参照）



❷ タンク下部カバーを取外します。

❸ グレンタンク固定レバーを解除します。レバーを矢印の方向に操作しロックを解除します。





❹ タンクの倒し

㋐ グリップを両手で持ち，フレームに足を掛けゆっくりと倒します。

㋑ タンクの動きが確実に止まってから手をはなします。

❺ タンクの起こしおよび固定

グリップを両手で持ち，ゆっくりと持上げるように押します。(❹→❶の逆操作で確実にセットします)

注記

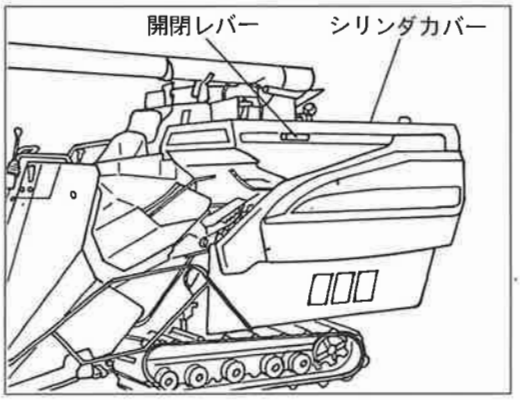
◆タンク固定レバーは確実にロックしてください。

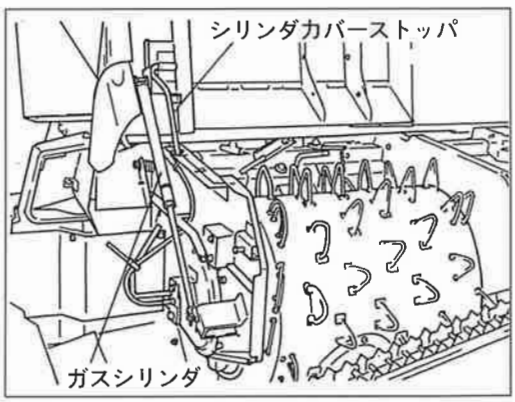
10 こぎ室内部の掃除

異品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラ屑や残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

❶ 開閉レバーを持上げてシリンダカバーを開き，シリンダカバーが倒れないように，ストッパを掛けます。

内部にたまった穂切れ・ワラ屑等を掃除します。





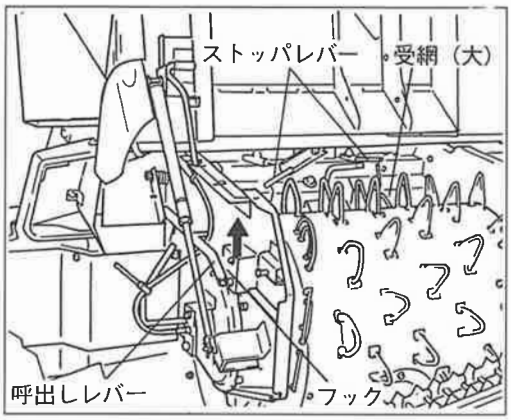
❷ 受網（大）の掃除

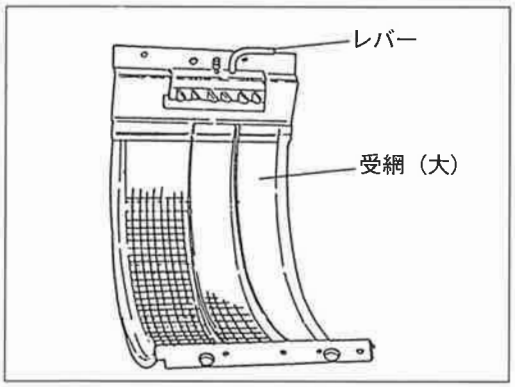
㋐ シリンダカバーをいっぱいに開きます。

㋑ 受網のストッパレバー（２個所）を真横まで回しストッパを外します。

㋒ 呼出しレバーのストッパをフック部より外し，呼出しレバーを持上げて，受網を浮かせ，受網（大）を取出します。

㋓ **受網を浮かせたら，呼び出しレバーを必ずもとのフックに掛けます。**





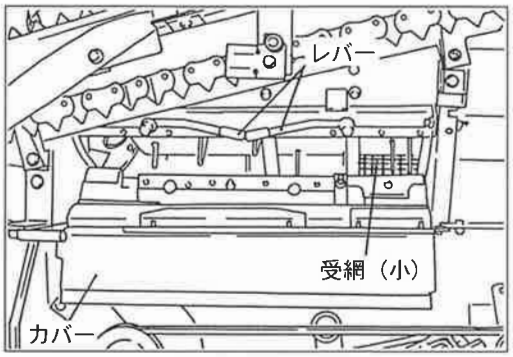
㋔ 呼び出しレバーがフック部に掛かっていることを確認し，受網（大）を収納します。収納したら受網のストッパを掛けます。

❸ 受網（小）の掃除

㋐ サイドカバー（上）（下）を外し，カバー内のワラ屑を取除きます。

㋑ レバー２ケ所を真横まで回し，カバーを下までおろして受網（小）を引出します。

㋒ 受網（小）の取付けは逆の順序で奥のガイドに確実に入れてください。



㋓ カバーを閉じるときにカバーと側板の間にもみ，屑が噛込んだまま閉めるとカバーが変形する恐れがありますので掃除して閉めるようにしてください。

◆各受網が確実にセットできないときは，脱こく本体側に付着しているワラ屑を取除いてください。

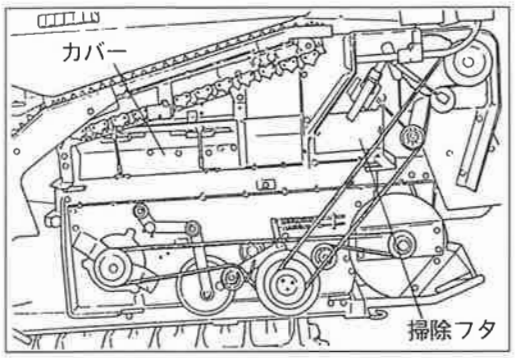
◆シーズンオフの長期格納時には，受網は必ず取外し清掃します。
（格納中の錆付こう着防止のため）

11 揺動流板部の掃除

揺動流板部の掃除は，つぎの掃除口から行います。

❶ 脱こく左側面からの掃除

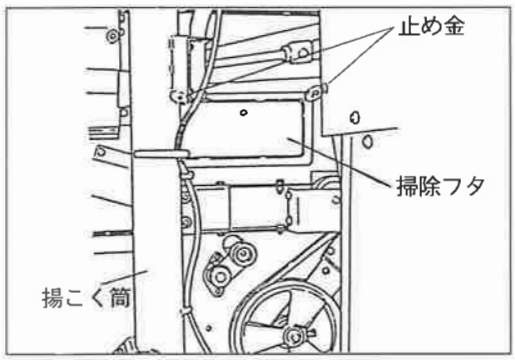
カバーを開き，掃除フタを外して揺動流板の上に溜まっているこく粒，ワラ屑を掃除します。



❷ 脱こく右側面からの掃除

㋐ グレンタンクを倒します。(88ページ参照)

㋑ 掃除フタを取外し，揺動流板の上に溜まっているこく粒，ワラ屑を掃除します。

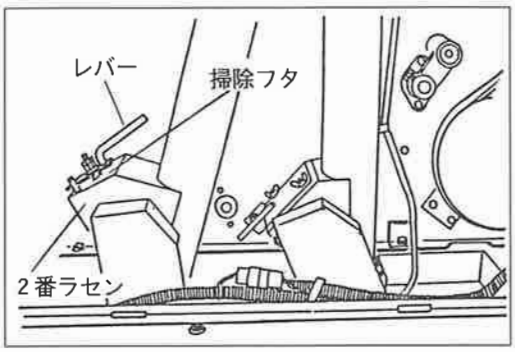


◆スーパーワイドセレクタ切替レバーが重いときは，カッタを開き，脱こく後ろ側の排塵室のカバーを取外し，その窓より点検します。クズ溜りを除去し，揺動流板の目塞ぎ板の作動部に注油して，数回切替レバーを作動します。

◆シーズン終了後，必ず掃除口より揺動流板上の掃除をし，切替レバーの作動点検をします。

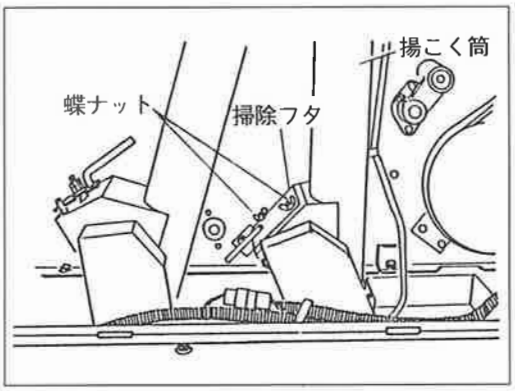
12 ２番ラセンの掃除

グレンタンクを倒し，レバーを回して，掃除フタを取外し，内部に溜まっているこく粒，ワラ屑を掃除します。



13 揚こくラセンの掃除

❶ 蝶ナット２個を取外し，掃除フタをあけて内部に残った，こく粒を取出します。



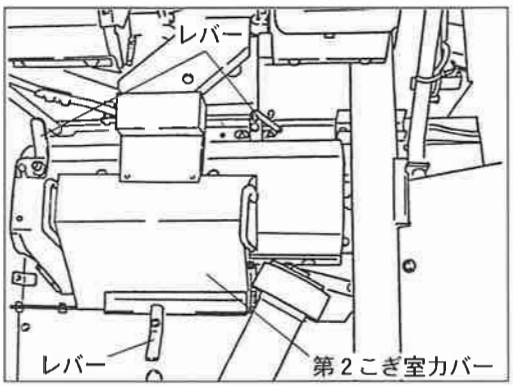
14 第２こぎ室の掃除

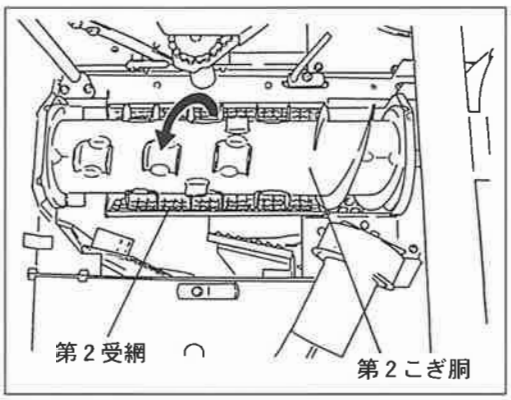
❶ グレンタンクを倒します。

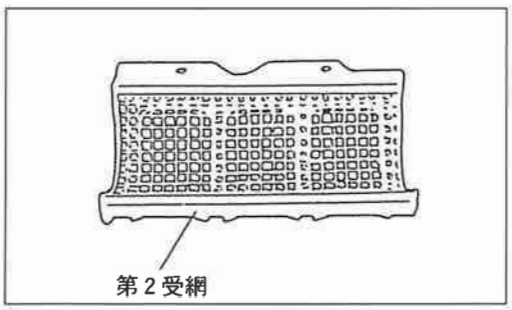
❷ ３個のレバーを回し，第２こぎ室カバーを取外し，内部に残った屑を掃除します。

❸ 第２受網の着脱は，第２受網の上部を手前に回すようにして引出し，掃除をしてください。

❹ 第２受網の取付けは逆の順序で取付けます。





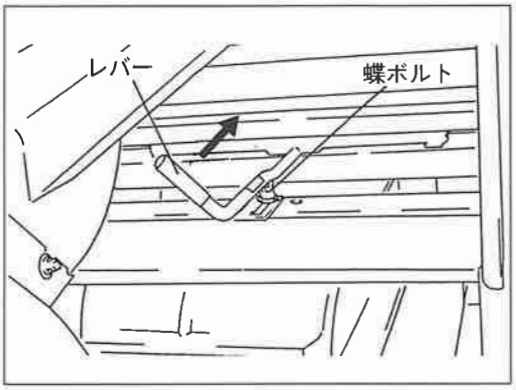


15　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除

❶　脱こく後の下部にあります。

❷　レバーロックの蝶ボルトを緩め，レバーを押して《開》き，底板部に溜まっているこく粒，ワラ屑などの掃除をします。

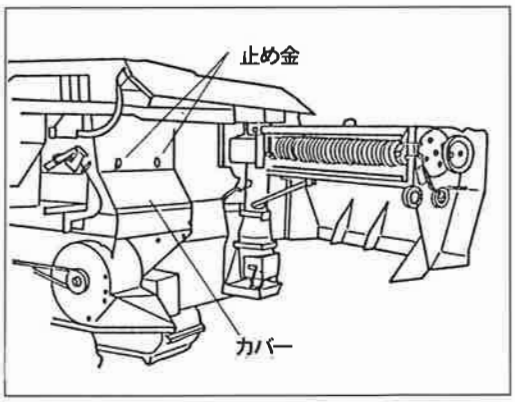
❸　掃除後《閉》を確認し，蝶ボルトを締めてください。



16　排じん室の掃除

❶　カッタを開きます。(94ページ参照)

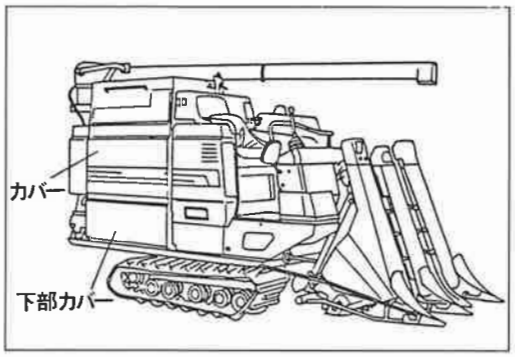
❷　止め金２個所を回し，カバーを取外し，排じん室に溜まったワラ屑等を掃除します。



17 グレンタンク部の掃除のしかた

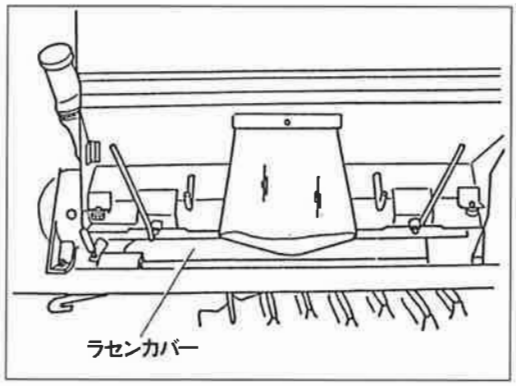
❶ グレンタンク内の掃除のしかた

カバーを外して内部を掃除します。



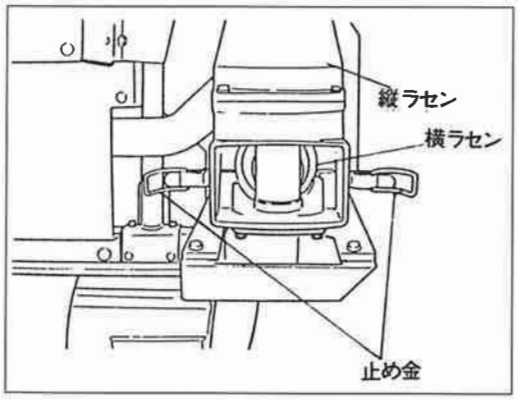
❷ 横ラセン部の掃除のしかた

グレンタンク下部の下部カバーを取外した後，ラセンカバーを取外し掃除します。



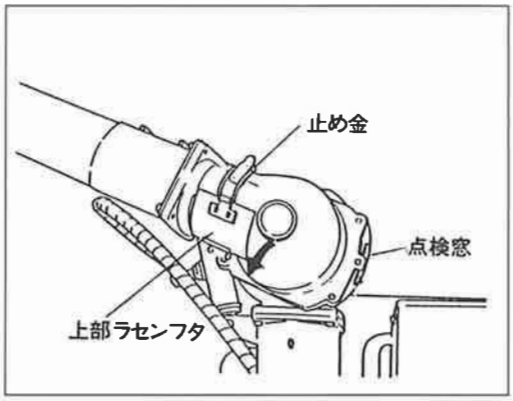
❸ 縦ラセン筒下部の掃除のしかた

縦ラセン下部の縦ラセンフタを取外し掃除します。



❹ 縦ラセン筒上部の掃除のしかた

止め金を外し，上部ラセンフタを開いて掃除します。

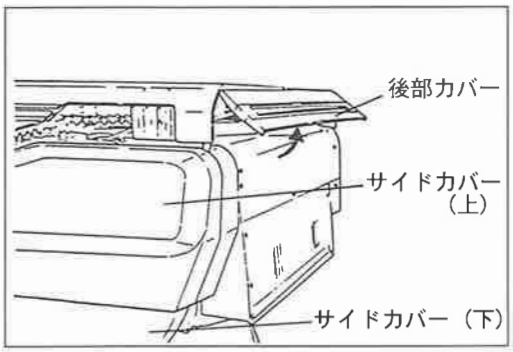


◆グレンタンクの各部を掃除するときは必ずエンジンを止めてください。

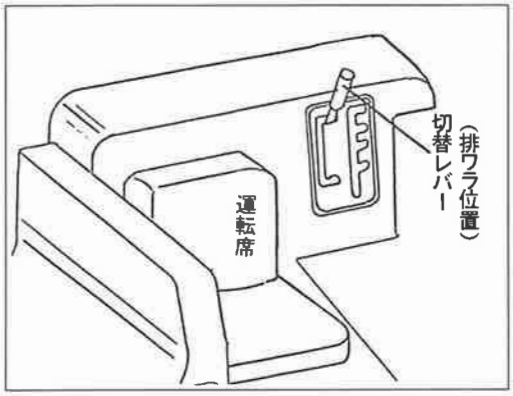
◆2人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは互いに声を掛けあい，安全を確かめてから行ってください。

18 カッタのオープンのしかた

❶ 脱こくサイドカバー（上）・（下）を外し，後部カバーを開きます。

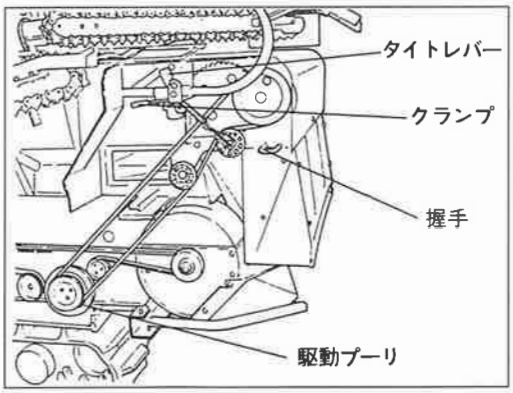


❷ 切替レバーを排ワラセットにします。



❸ タイトレバーを下にさげて，ベルトの張りを解除します。

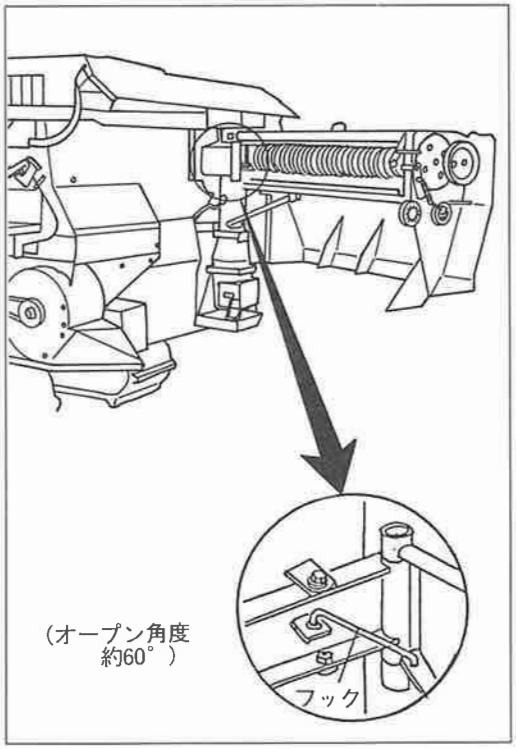
❹ ベルトを駆動プーリより外します。



❺ クランプを手前に引き，ロックを解除します。

❻ 握手を持ってカッタを若干上方へ持上げながら，後方へオープンします。

◆オープンしたときは，その状態を保持するよう下図位置にフックを掛けてロック状態にします。



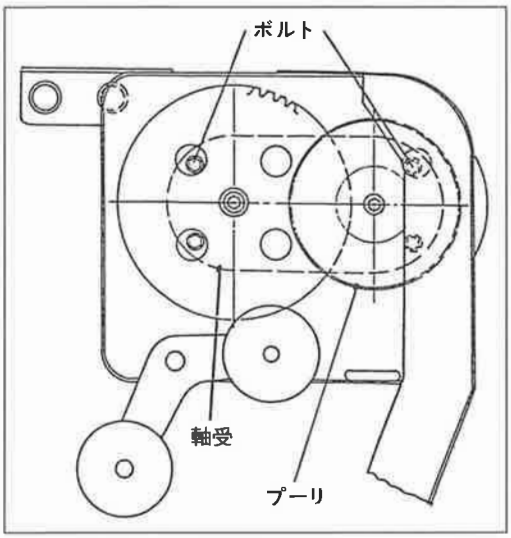
◆カッタを閉じるときは，オープンの逆の手順で行います。

19 カッタ刃の交換と分解

❶ シャフトA・B組付品の取外し

㋐ カッタをオープンの状態にします。

㋑ Lボックス工具でボルト4本を外し，軸受を外します。



㋒ ロック金具を外します。

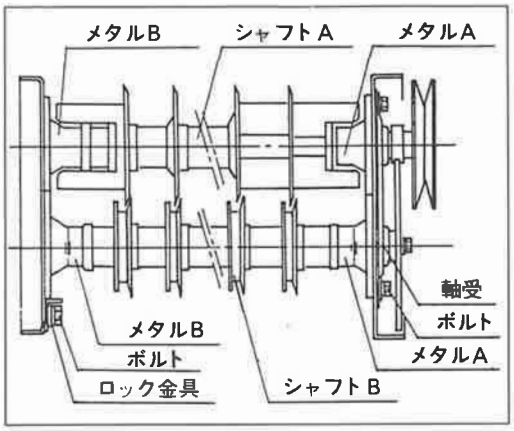
㋓ シャフトを手前に引出します。

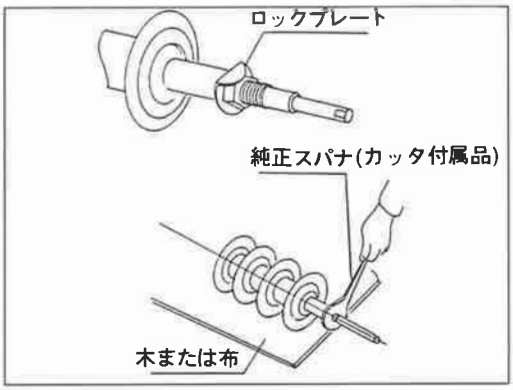
❷ シャフトの分解

㋐ 刃先を傷付けないよう《木または布》を下に敷きます。

㋑ メタルBを外します。

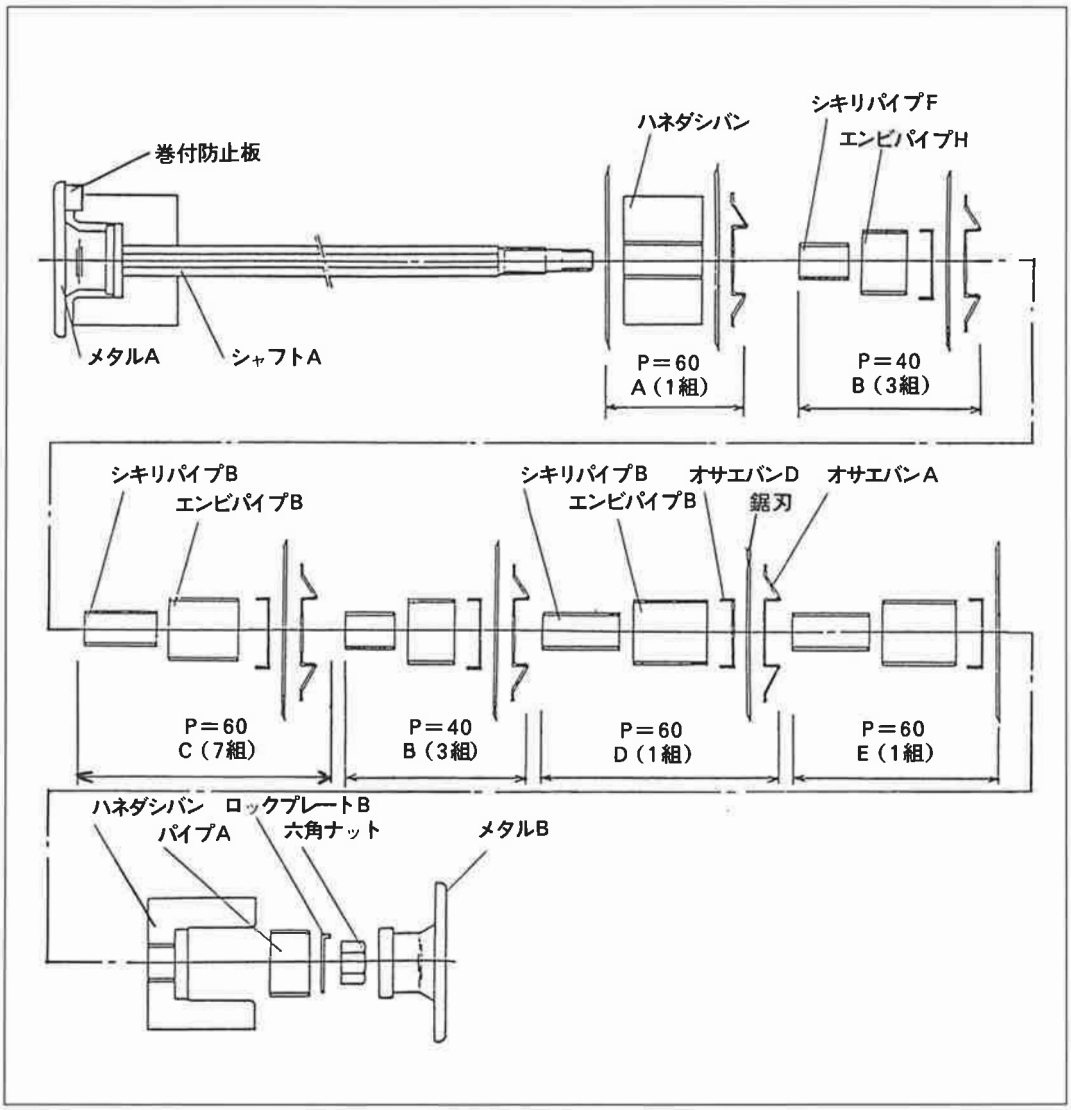
㋒ メタルB側にあるロックプレートをのばして，純正スパナ（カッタ付属品）でナットを緩めます。（純正スパナを軽くハンマでたたくと緩みます。）





◆刃の組付品の取付け，取外しの際には，特に安全に気をつけ，刃先に触れないよう，十分注意してください。

❶ シャフトAの組立（D26－15）



㋐ シャフトに図の順序（A，B，C，B，D，E）で刃関係とパイプ類を入れます。

・A部のハネダシバンの羽根の位置はシャフトに付いているハネダシバンに合わせます。

㋑ ハネダシバンを入れ，パイプの切欠き凹部にロックプレートBの凸部を合わせ六角ナットM20で締付け，ロックプレートBをナット側に折曲げます。

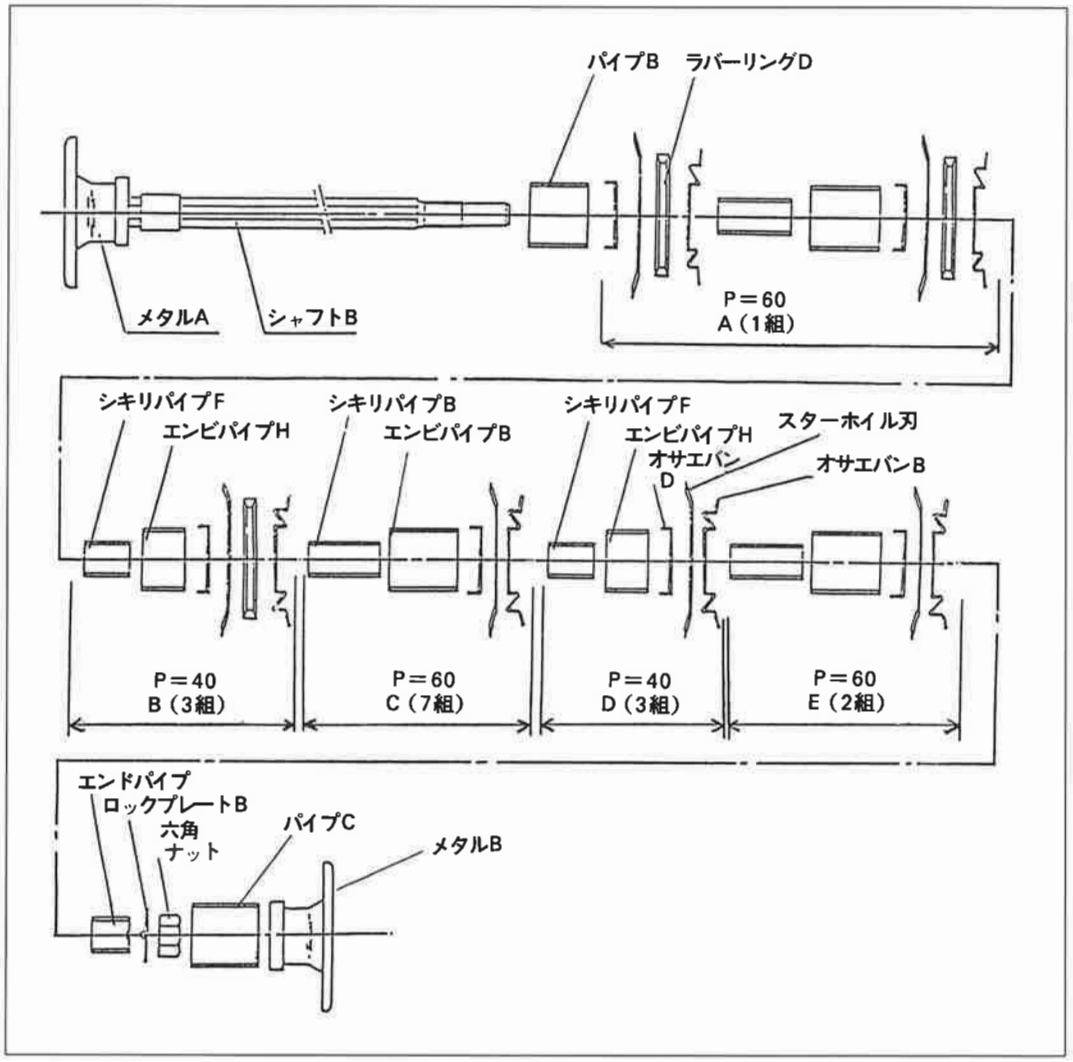
㋒ パイプA，メタルBを差込み本体にセットします。

注記

◆シキリパイプ，エンビパイプは分解した順に入れると容易に組付けができます。

◆メタルAに巻付防止板が付いていますのでその部分が上面にくるように本体枠にセットします。

❷ シャフトBの組立（D26－15）



㋐ シャフトにパイプBを入れます。

㋑ シャフトに図の順序（A・B・C・D・E）で刃関係とパイプ類を入れます。

・ラバーリングDはオサエバンBの凸部に合わせはめ込みます。（5組）

㋒ エンドパイプを入れて切欠き，凹部にロックプレートB凸を合わせ六角ナットで締付けロックプレートBをナット側に折曲げます。

㋓ パイプC，メタルBを差込みセットします。

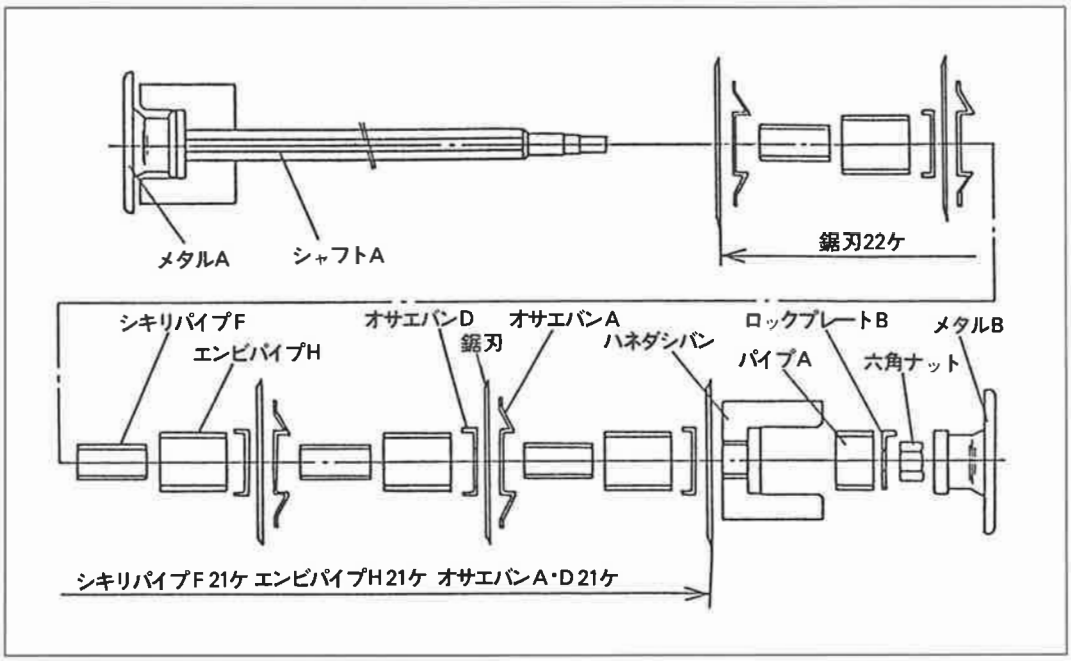
㋔ 先に外した軸受を取付け，ロック金具でセットします。

注記

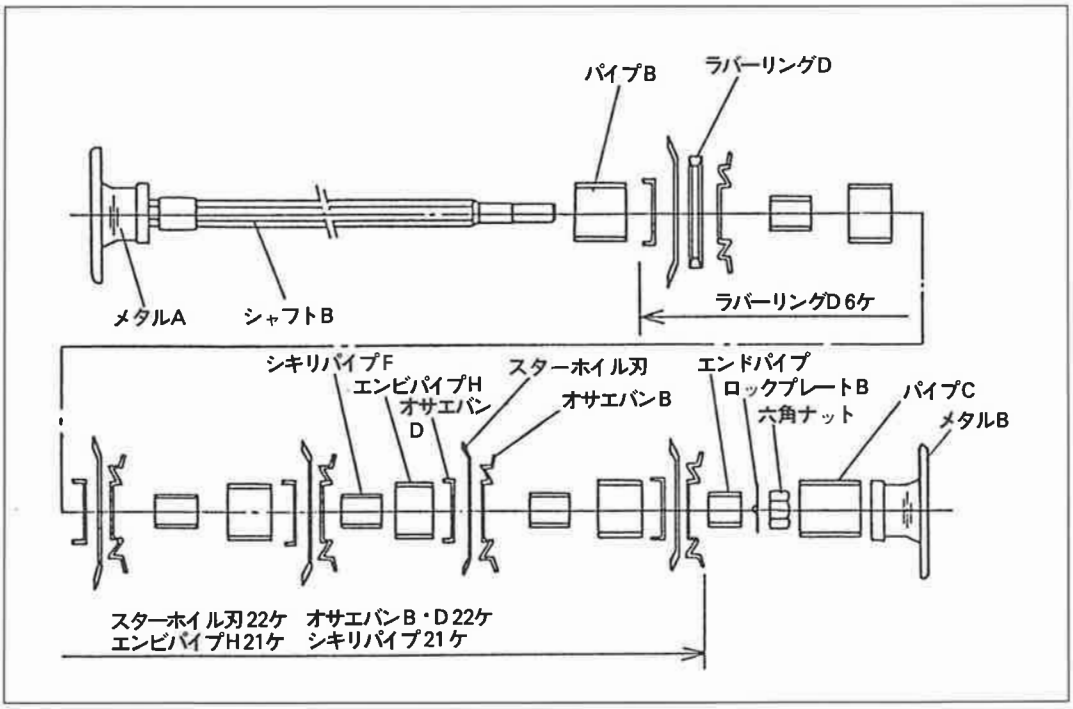
◆ラバーリングDの数は，D26－15は5枚，D26－22は6枚使用してください。

◆スターホイル刃は突起をそろえて組付けてください。

❸ シャフトAの組立（D26－22）



❹ シャフトBの組立（D26－22）



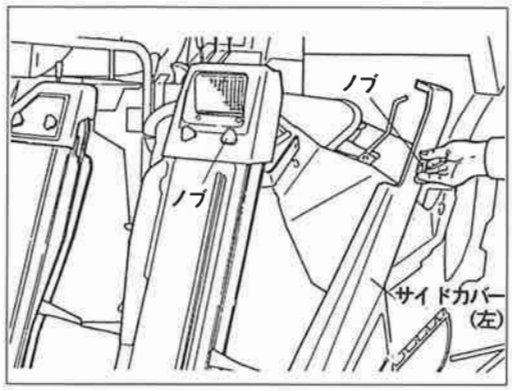
注記

◆分解・組付け要領は前ページ《D26－15》を参照してください。

20 引起こしカバーの取外しかた

❶ 左右サイドカバー上部のノブを外し，サイドカバーを上方に引き，取外します。

❷ 各引起こしカバーの２個のノブを外し，前方に引き，取外します。



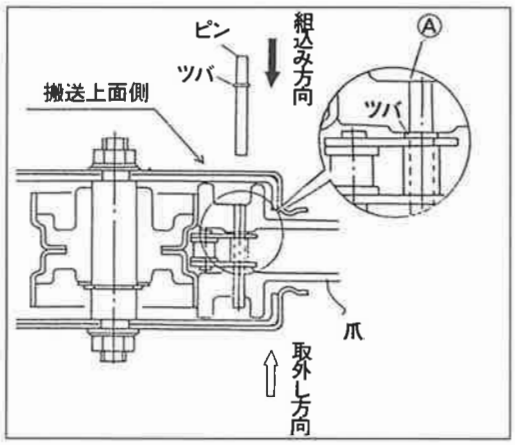
21 掻込み爪の交換のしかた

❶ 爪の取外し

爪を取付けているピンを突出ている側から，たたいて抜取り，爪を取外します。（ピンは強くたたかなくても抜けます。）

❷ 爪の組込み

ピンはツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。（図示Ⓐ部参照）



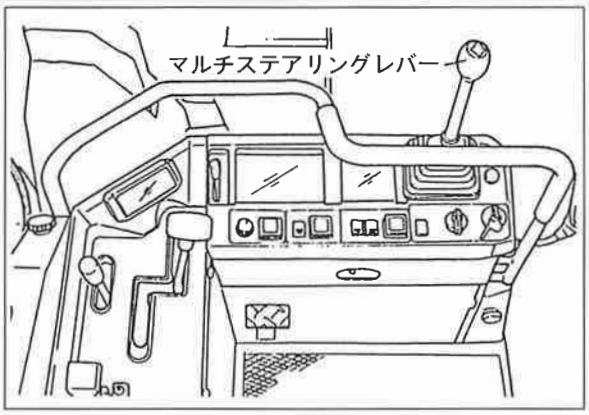
3 調整のしかた

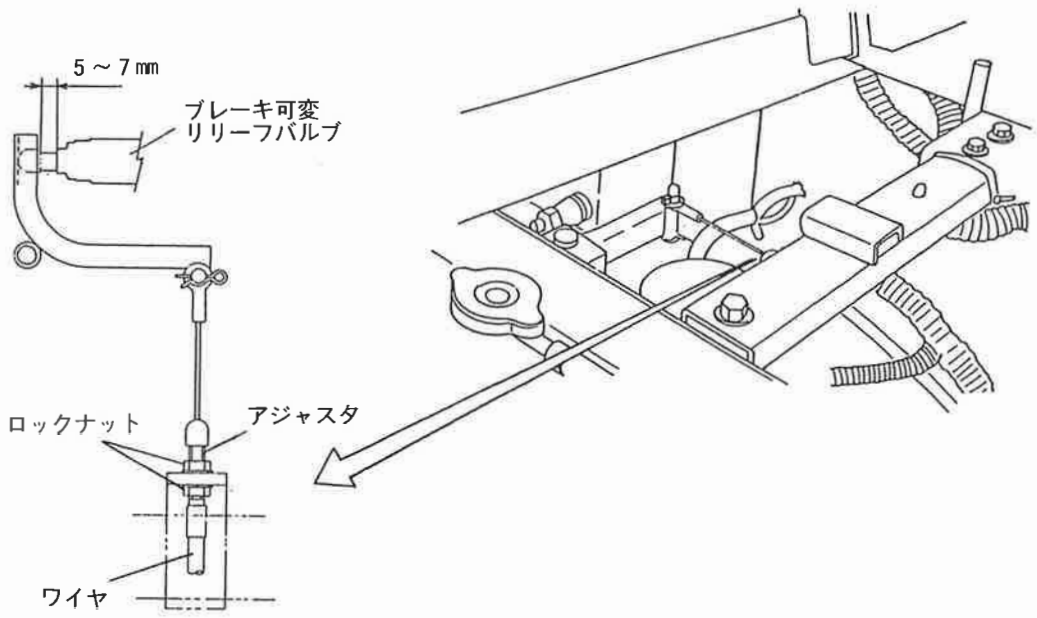
・各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生ずるので再調整を行い，損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしてください。

1 レバーとペダルの点検・調整

マルチステアリングレバー

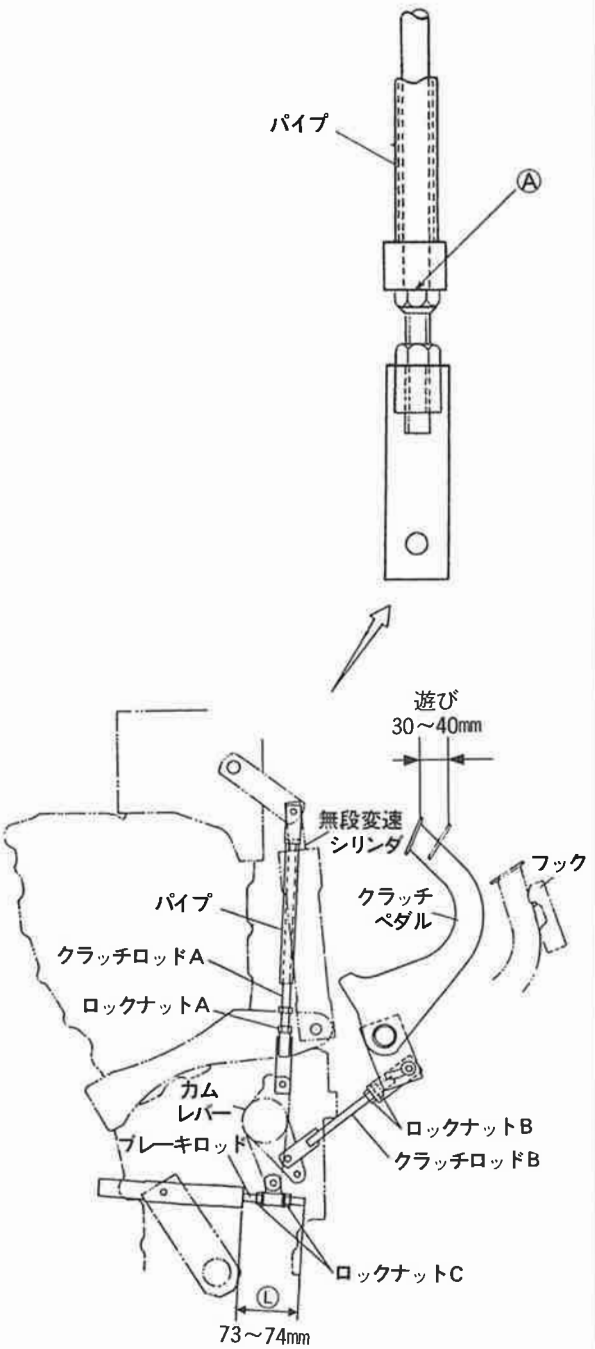
点検	レバー中立時に，ブレーキ可変リリーフバルブのスキマが《5～7㎜》になっていますか。
調整	エンジンカバーを開き，ロックナットを緩め，アジャスタで調整します。





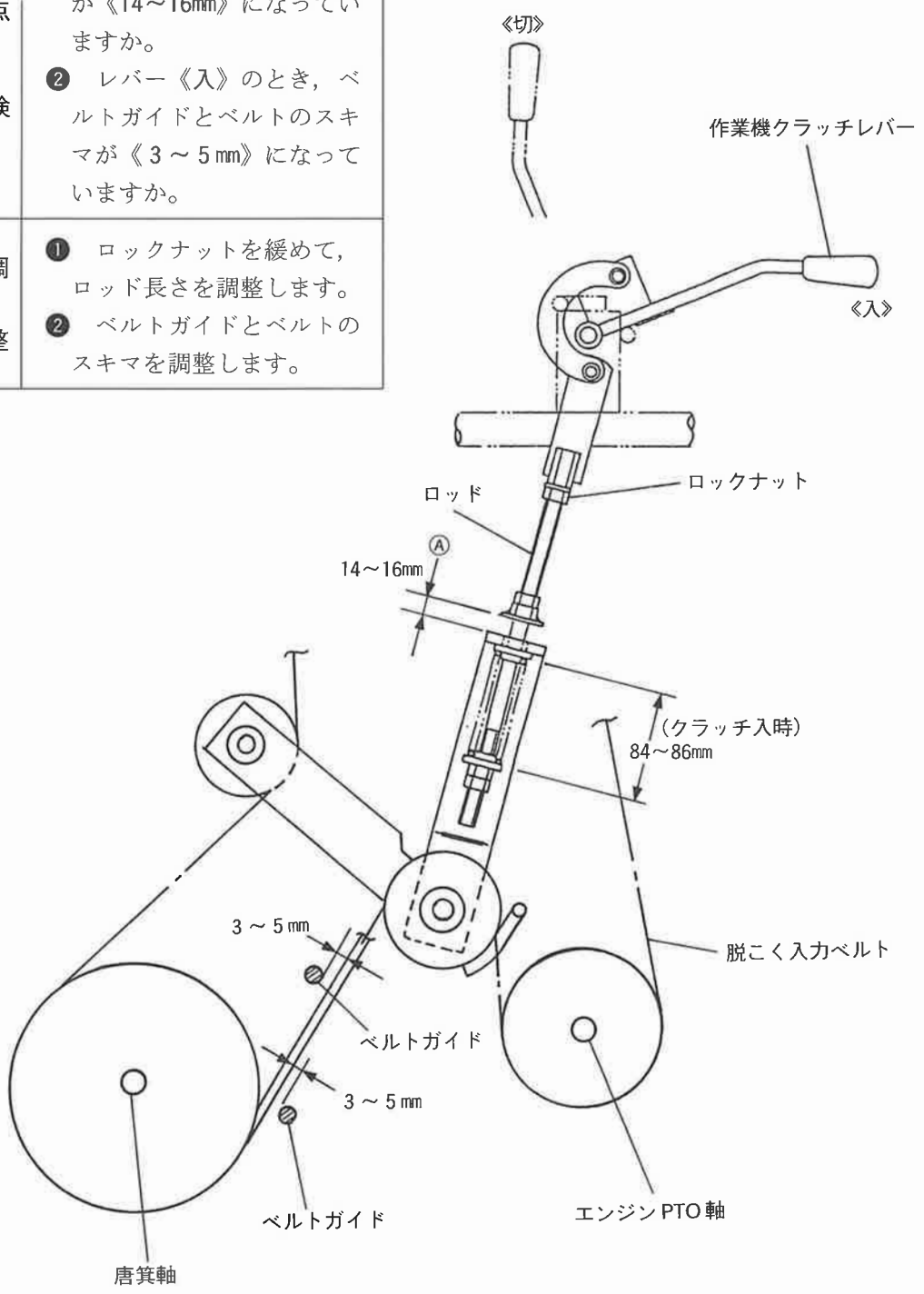
走行クラッチペダル

点検	走行状態（主変速レバーが《中立(N)》以外のとき）で，クラッチペダル先端の《遊び》が《30～40㎜》になっていますか。
確認方法	❶ エンジンを始動し，副変速レバーを《中立(N)》にします。 ❷ 主変速レバーを《前進F2以上》位置にしてエンジンを停止し，この状態でペダル先端の遊びを確認します。
調整	❶ 上記状態で，ロックナットBを緩めて，クラッチロッドBで，ペダル先端部の遊びを《30～40㎜》に調整し，調整後ロックナットBを確実にロックします。 ❷ ペダルを踏込んで，駐車ブレーキレバーで，フックを掛けます。 ❸ エンジンを始動し，主変速レバーを《中立(N)》にし，エンジンを停止します。（このとき無段変速シリンダはいっぱい縮んだ状態になっています。） ❹ ロックナットAを緩めて，クラッチロッドAにより㋐部スキマが《0㎜》になるように調整し，調整後ロックナットAを確実にロックします。 ❺ ロックナットCを緩めて，ブレーキロッドの㋠寸法を《73～74㎜》に調整後ロックナットCを確実にロックします。



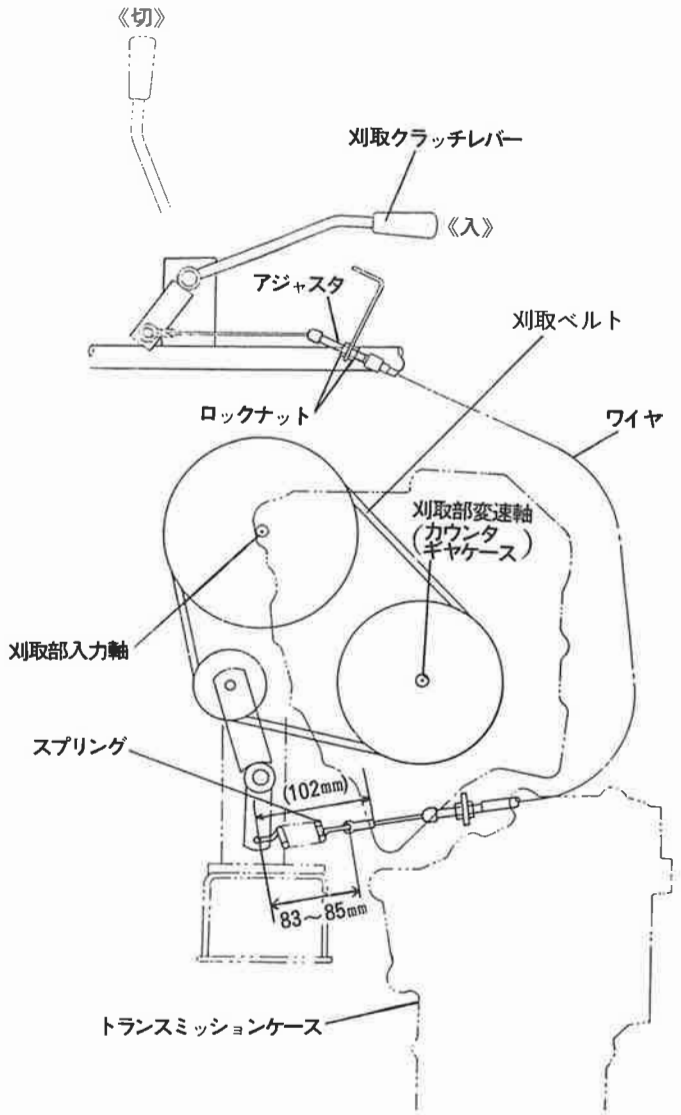
作業機クラッチレバー（脱こく入力ベルト）

点検	❶ 作業機クラッチレバー《入》のときⒶ部のスキマが《14～16㎜》になっていますか。 ❷ レバー《入》のとき，ベルトガイドとベルトのスキマが《3～5㎜》になっていますか。
調整	❶ ロックナットを緩めて，ロッド長さを調整します。 ❷ ベルトガイドとベルトのスキマを調整します。



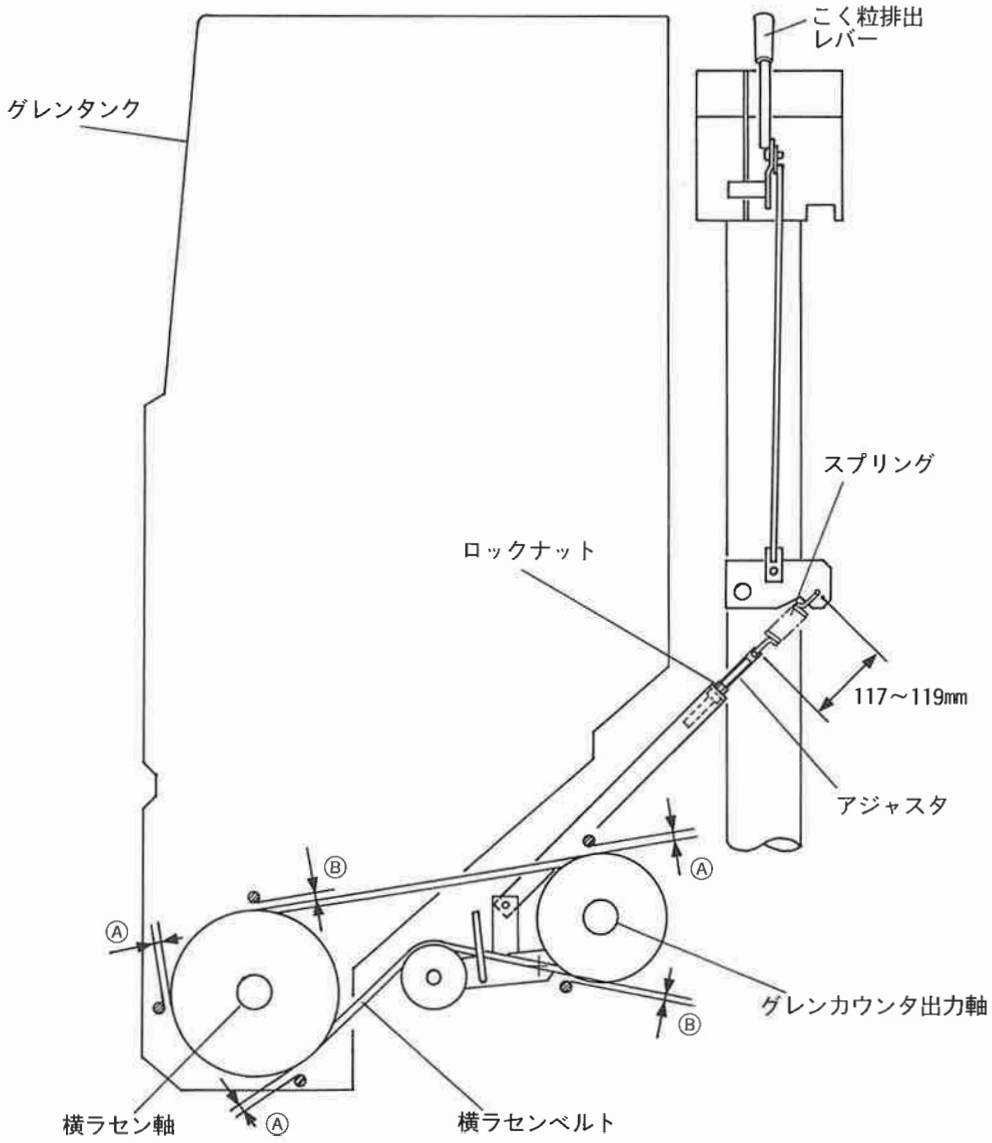
刈取クラッチレバー（刈取ベルト）

点検	刈取クラッチレバーを《入》のときスプリング長さが《83～85㎜》になっていますか。
調整	ロックナットを緩めて，ワイヤのアジャスタでスプリングの長さを調整します。



こく粒排出レバー（横ラセンベルト）

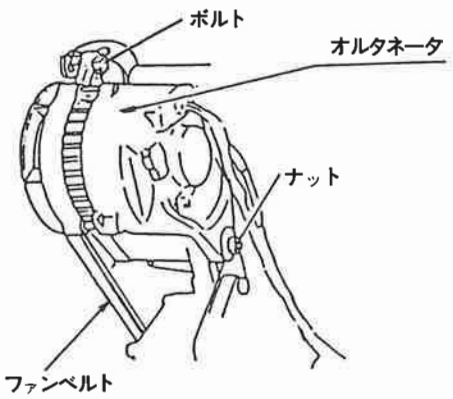
点　　検	調　　整
❶ こく粒排出レバー《入》のとき，スプリング長さが《117～119㎜》になっていますか。 ❷ こく粒排出レバー《入》のとき，ベルトガイド（５個所）とＶプーリとのスキマⒶ，ベルトとのスキマⒷが《３～５㎜》になっていますか。	❶ アジャスタのロックナットを緩めて，調整します。 ❷ ベルトガイドとＶプーリ，ベルトとのスキマを調整します。



2 ベルトの点検・調整

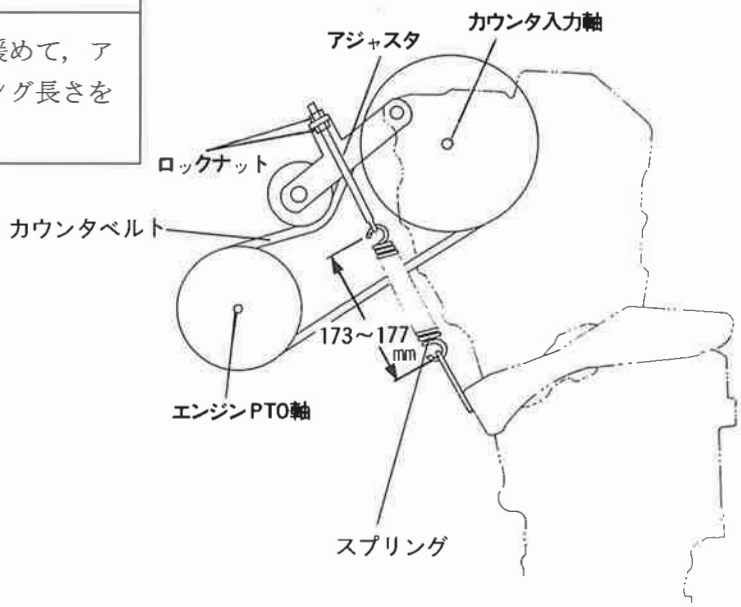
エンジンファンベルト

点検	ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が《10～13㎜》となっていますか。
調整	❶ オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）を緩めます。 ・オルタネータを外側に倒すとベルトが張れます。 ❷ 調整後は，取付ボルト，ナットを確実に締めつけます。



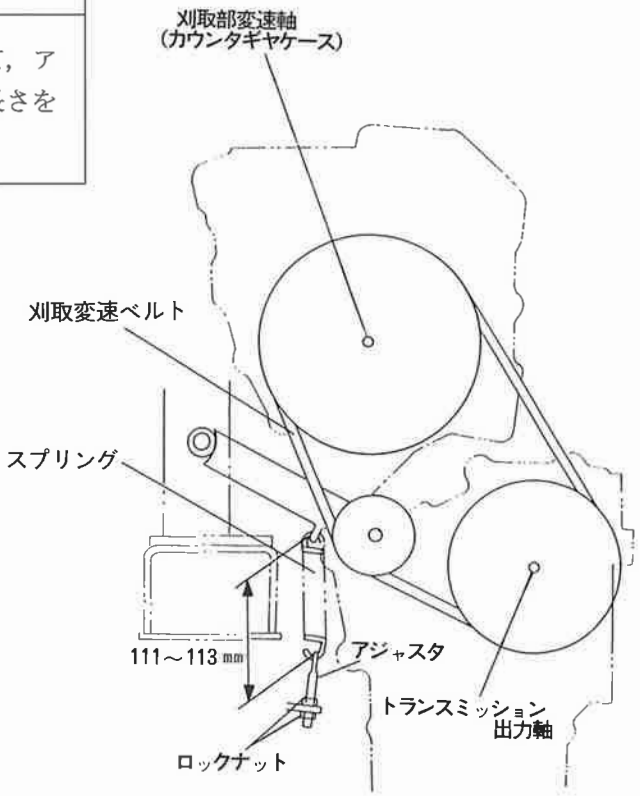
カウンタベルト

点検	スプリング長さが《173～177㎜》になっていますか。
調整	ロックナットを緩めて，アジャスタでスプリング長さを調整します。

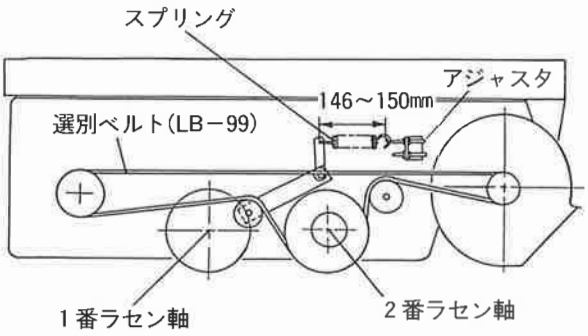


刈取変速ベルト

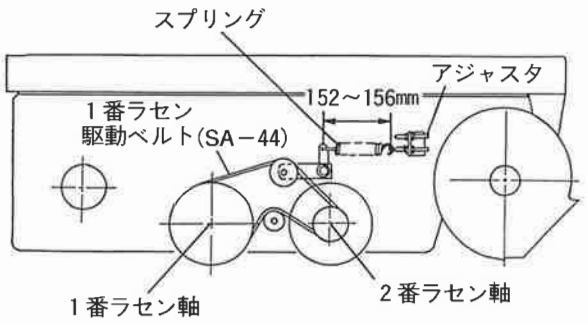
点検	スプリング長さが《111～113mm》になっていますか。
調整	ロックナットを緩めて，アジャスタでスプリング長さを調節します。



選別ベルト

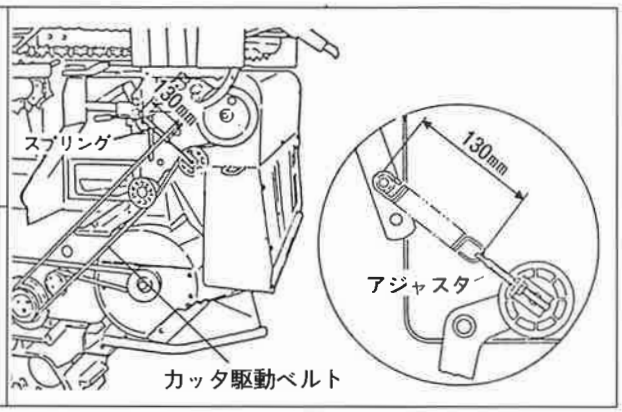
点検	スプリング長さが《146～150mm》になっていますか。	
調整	アジャスタのロックナットを緩めて，スプリング長さを調整します。	スプリング自由長　106mm

1番ラセン駆動ベルト

点検	スプリング長さが《152～156mm》になっていますか。	
調整	アジャスタのロックナットを緩めて，スプリング長さを調整します。	スプリング自由長　106mm

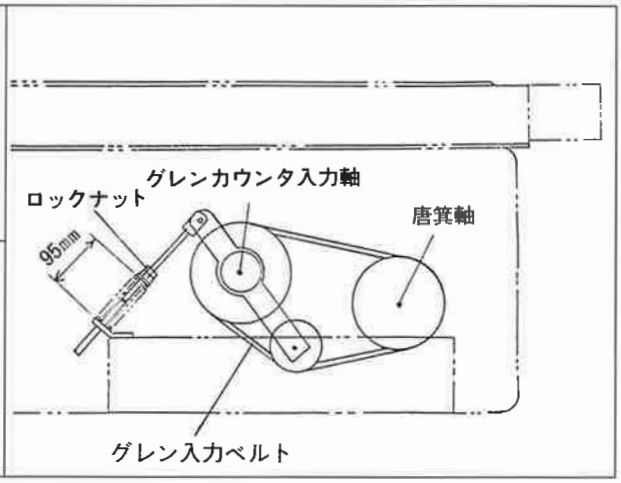
カッタ駆動ベルト

点検	スプリング長さが《130㎜》になっていますか。
調整	脱こく部サイドカバー上を外して，アジャスタでスプリングの長さを調整します。



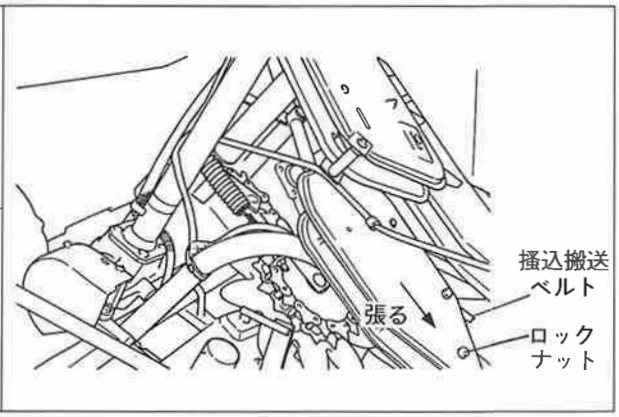
グレン入力ベルト

点検	スプリング長さが《95㎜》になっていますか。
調整	アジャスタのロックナットを緩めて，調整します。



掻込み搬送ベルト（刈取部）

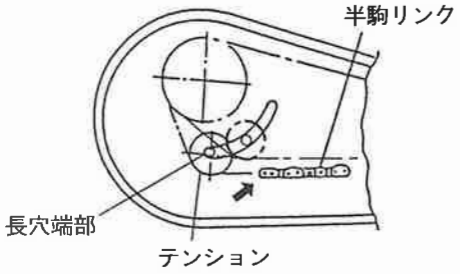
点検	ベルト中央部の突起を引き，ベルトの張力が感じられますか。
調整	遊動輪側表・裏のロックナットを緩め，12kg程度で張ります。



3 チェンの点検・調整

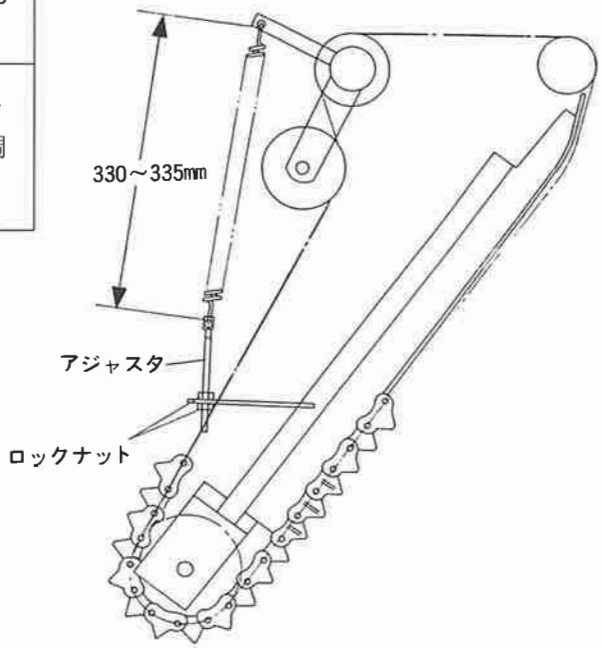
穂先搬送チェン

点検	テンションが長穴端部に当たってませんか。
調整	長穴端部に当たっていれば《**半駒リンク**》を外してテンションを長穴の中側に入れてください。



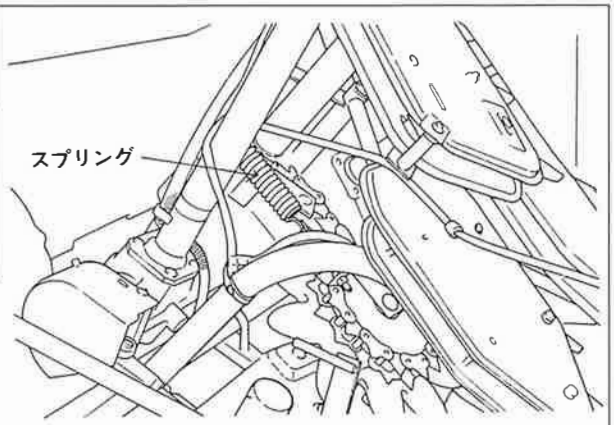
こぎ深さ搬送チェン

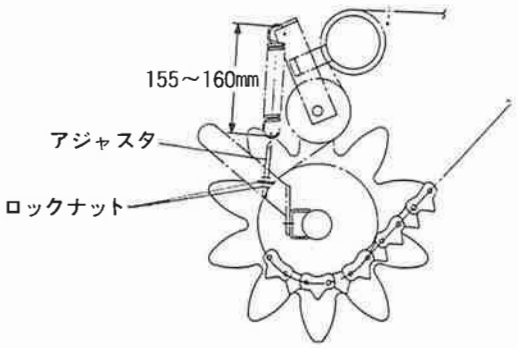
点検	スプリングの長さが《330～335㎜》ありますか。
調整	ロックナットを緩め，アジャスタでスプリングの長さを調整します。



株元搬送チェン（右）

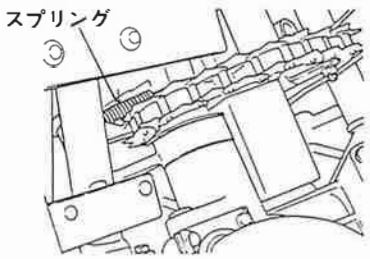
点検	スプリング長さが《155～160㎜》になっていますか。
調整	ロックナットを緩め，アジャスタでスプリングの長さを調整します。

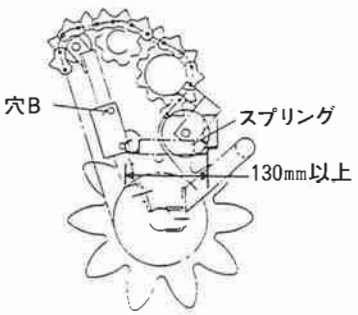




株元搬送チェン（左）

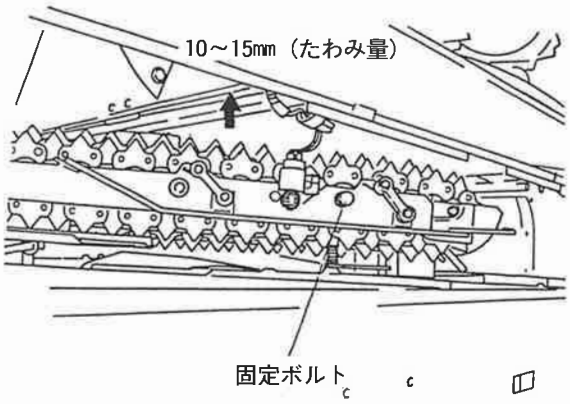
点検	スプリング長さが《130㎜以上》ありますか。
調整	《130㎜以下》のときは穴Bに掛け替えてください。





排ワラフィードチェン

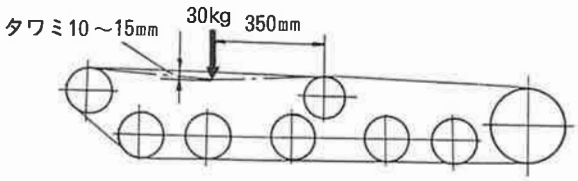
点検	排ワラフィードチェンの中央部を軽く引きタワミ量が《10～15㎜》になっていますか。
調整	固定ボルトを緩めると自動的にフィードチェンの張り調整ができます。調整後固定ボルトが緩まないよう締付けます。なお調整できなくなったときはチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

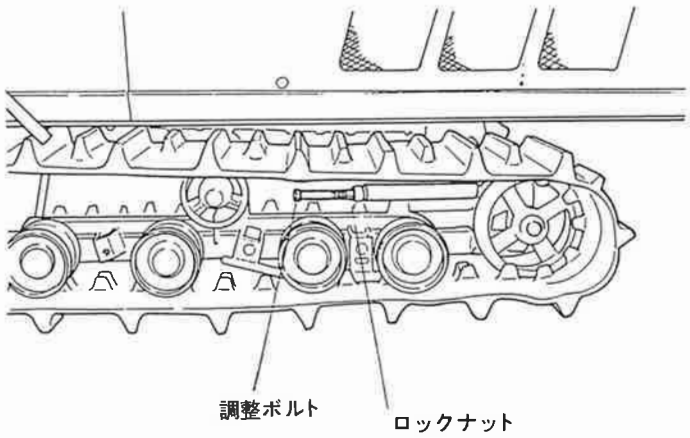


4 クローラの点検・調整

クローラ

点検	クローラ上部の図示位置を30kg程度で押して，タワミ量が《10～15㎜》になっていますか。
調整	ロックナットを緩めて，調整ボルトを締込んで張ります。





4 長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，つぎのことに注意をし格納してください。

1 機体の清掃と洗浄

❶ 泥・ワラ屑・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部に残ったこく粒やワラ屑などを掃除口よりきれいに取除きます。
（89ページ　脱こく各部の掃除および93ページ　グレンタンク部の掃除の項参照）

2 サビ止めと注油

❶ 刈刃は研磨したのち，全面にグリスを塗布し，サビ止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも十分注油をし，サビないようにします。

❸ 塗装がはげた個所は補修塗料を塗り，機体のサビやすい個所にはグリスかオイルを塗布します。

3 エンジンの手入れ

❶ コントロールレバーはいっぱいに戻しておきます。

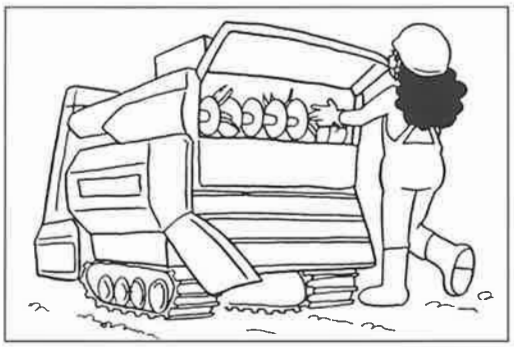
❷ **《新しい燃料》**を入れ，タンクの燃料を満タンにします。

❸ 冬期気温が０℃以下になるときは，エンジンの**《凍結割れ》**を防ぐため，冷却水を抜くか，不凍液を入れてください。
（84ページ参照）

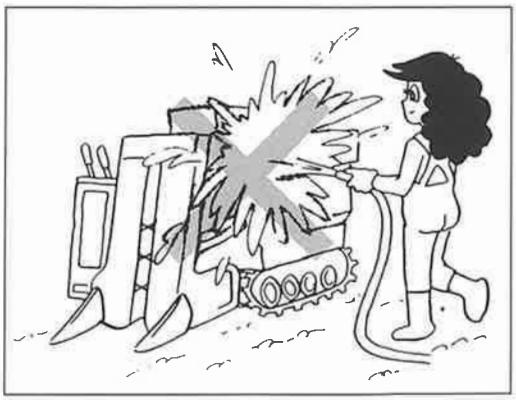
4 点検・整備

《定期点検整備表》の項を参考に**《格納時》**の項について点検・整備をします。
（77ページ参照）

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラ屑を取除くときは，エンジンを必ず停止してください。



◆エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。



5 格　納

機体の清掃・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

❶ スーパースライドクローラ仕様機の場合は，クローラ間隔を狭くした状態にしておきます。

❷ 機体水平制御仕様機の場合，機体を一番下げた状態にしておきます。

❸ 《クローラ》の下には板等を敷いておきます。

❹ 各レバーは《切》・《中立(N)》の位置にします。

❺ 《ナローガイド(左)》を折りたたみ，デバイダ先端に《バンパ》を取付けておきます。

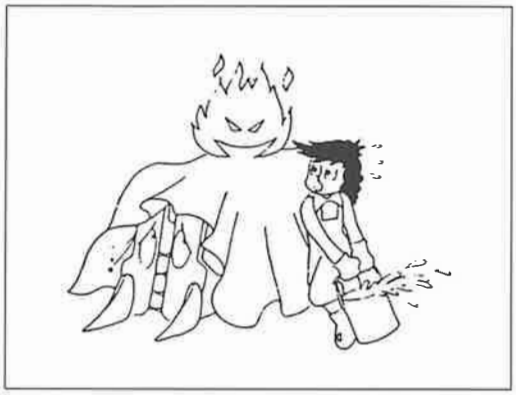
❻ バッテリは，12〜16ページの《電装関係を点検するときは》の項を参考に，2ケ月に1回補充電をします。

❼ 刈取部を下げて，スタータスイッチの《キー》を抜取ります。

❽ 《駐車ブレーキ》を掛けます。

❾ クローラに《ハドメ》をします。

◆エンジンが過熱しているときは，シートをかけてはいけません。



◆サビの発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのは，さけてください。

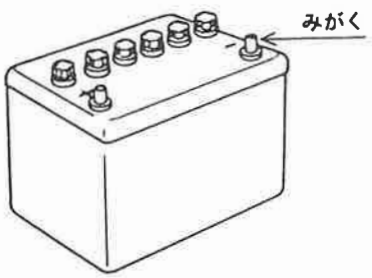
不調の発見と処置（トラブルシューチング）

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにしてください。
・原因がわからないときは，《**お買いあげ先**》にご相談のうえ，処置してください。
・そのときは，《**機械番号**》と《**エンジン番号**》をあわせてお知らせください。

◆掃除・点検・調整・整備は，必ずエンジンを停止してから行ってください。

1 エンジン部関係

セルモータが回らない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 クラッチペダルを踏込んでいない。	・ペダルを踏込みます。 ◆クラッチペダルを踏込まないとエンジンは始動しません。 	18・38
2 バッテリターミナルの緩み。 （接触不良）	・ターミナル部をよくみがき締付けます。 	12
3 ヒュージブルリンクが切れている。	・組配線の短絡個所を点検し，修正後，ヒュージブルリンクを交換します。	10

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
4 バッテリが放電している。	・バッテリを充電します。	12～15
5 《スタータ》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。 （再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11

セルモータは回るが始動しない

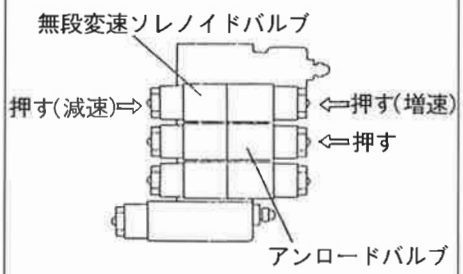
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 燃料タンクに燃料がない。	・燃料を補給します。 ディーゼル軽油……25 ℓ	29・30
2 燃料系統に空気が入っている。	・給油した後，エア抜きをします。	30
3 《ランプ・計器》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。 （再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11

エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる

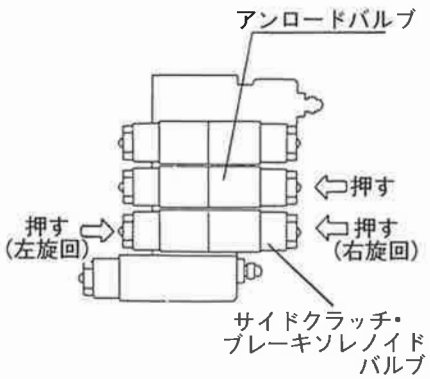
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 燃料系統に水・ゴミの混入。	・燃料系統の点検・清掃をします。 ・燃料フィルタを清掃します。	83
2 エアクリーナの目詰まり。	・清掃またはエアークリーナエレメントを交換します。	82
3 ラジエータ防じんフィルタの目詰まり。	・防じんフィルタを清掃します。	82・83
4 エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	・規格のオイルに交換します。	29・30 81
5 冷却水の不足。	・冷却水を補充します。	29・31 84・85
6 エンジンファンベルトの緩み。	・ファンベルトを調整します。	105
7 《ランプ・計器》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。 （再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11

2 走行・運転操作部関係

主変速レバーを操作しても走行または停止しない
主変速レバーを操作しても速度が変わらない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 副変速レバーが《中立(N)》位置になっている。	・条件に合わせ《低速(L)》または《高速(H)》位置にセットします。	22
2 《走行バルブ》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。(再発するときは，点検サービスを受けてください。)	10・11
3 オイル不足。	・規定量まで油圧作動油を補充します。(オイルタンク)	29・31
4 油圧バルブへのゴミかみ。	・エンジンを始動し，つぎの操作をするとゴミかみが解消する場合があります。 座席の後方にあるバルブユニットの，アンロードバルブを押しながら，無段変速ソレノイドバルブの《増速》および《減速》の手動押しボタンを数回押す。  	

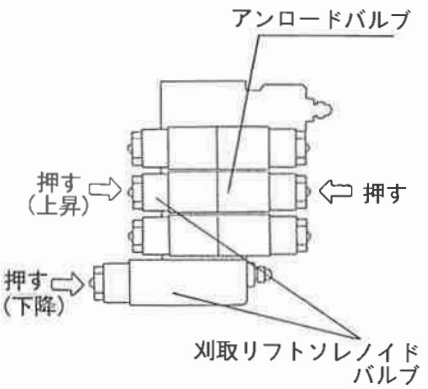
マルチステアリングレバーを操作してもまったく旋回しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《操向・傾斜》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。（再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11
2油圧バルブへのゴミかみ。	・エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキソレノイドバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動押しボタンを数回押すと，ゴミかみが解消する場合があります。（下図のバルブユニットは座席の後方にあります。）  ◆バルブを操作するときは，安全のため副変速レバーを必ず《中立（N）》位置にしてから行ってください。	

マルチステアリングレバーを操作しても急旋回ができない

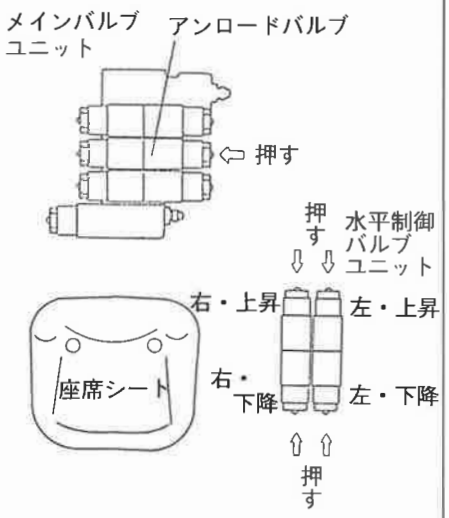
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
ブレーキの効きが悪い。	・レバー～ブレーキ可変リリーフバルブ間のワイヤ長さを調整します。	100

マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《リフト》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。 （再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11
2油圧バルブへのゴミかみ。	・エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，刈取リフトソレノイドバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動押しボタンを数回押すと，ゴミかみが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは座席の後方にあります。）  	

◆バルブを操作するときは，安全のため副変速レバーを必ず《中立（N）》位置にしてから行ってください。

傾斜手動レバーを操作しても作動しない　（機体水平制御仕様）

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《操向・傾斜》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。（再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11
2油圧バルブへのゴミかみ。	・エンジンを始動し，メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押します。ゴミかみが解消する場合があります。（メインバルブユニットは座席後方に，水平制御バルブユニットは座席左側にあります。）	

◆バルブを操作するときは，安全のため副変速レバーを必ず《中立（N）》位置にしてから行ってください。

3 電気・自動制御部関係

前照灯・ウインカ・ホーン等が点灯または作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《ランプ・計器》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。（再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11
2バッテリの放電。	・バッテリを充電します。	12～16

こぎ深さ自動制御が作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《こぎ深さ》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。（再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11
2刈取部のセンサにワラ屑が溜まっている。	・ワラ屑を取除きます。	

方向自動制御が作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《操向・傾斜》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。（再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11
2刈取部のセンサに草・泥・ワラ屑等が溜まっている。	・草・泥・ワラ屑等を取除きます。	

刈高さポジションコントロールが作動しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
《リフト》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。（再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11

機体水平自動制御が作動しない　（機体水平制御仕様）

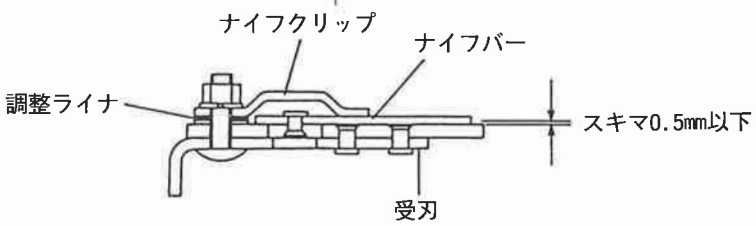
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1《操向・傾斜》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。 （再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11

4 刈取部関係

刈取部で《カタカタ音》がしてチェンが動かない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1搬送通路に詰まりがある。 （トルクリミッタ作動）	・つぎの操作手順で処置します。 ①刈取クラッチレバーを《切》にする。 ②エンジンを停止する。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除く。 ④エンジンを始動する。 ⑤刈取クラッチレバーを《入》にして確認する。 ◆デバイダが土中に突っ込んで株抜けしないよう注意してください。	56
2刈取クラッチワイヤの調整不良。 （ベルトがスリップしている）	・刈取クラッチワイヤの調整をします。	103

刈株の長さにムラがある

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 刈刃の注油不足。	・刈刃に十分注油します。	36・37
2 刈刃の調整不良。 （刈刃のスキマが広い）	・ナイフクリップ（4ケ）の角根丸頭ボルトのナットを締込んでスキマを調整します。  	
3 刈刃の摩耗。	・刈刃の研磨または交換します。	137
4 マルチステアリングレバーの操作不良。	・刈取り条にそって運転するときは，急激な操作はさける。	50～52

刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 搬送通路に雑草・ワラ屑・泥等が溜まっている。	・搬送通路の雑草・ワラ屑・泥等を取除きます。 ◆デバイダが土中に突っ込んで株抜けしないよう注意してください。	
2 《深こぎ》または《浅こぎ》となっている。	・適正こぎ深さで作業をします。	49

5 脱こく部関係

脱こくフィードチェン・排ワラフィードチェンが動かない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
安全装置（トリクリミッタ）が作動して《カタカタ音》がする。	・つぎの手順により操作します。 ①作業機クラッチレバーを《切》にする。 ②エンジンを停止する。 ③脱こく・排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ④排ワラフィードチェンの張り調整をする。 ⑤エンジンを始動する。 ⑥作業機クラッチレバーを《入》にして確認する。 ◆刈取り開始前に脱こく部のカラ運転をし，脱こく内部に溜まったワラ屑をきれいに排出してから作業を開始してください。	56

脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した

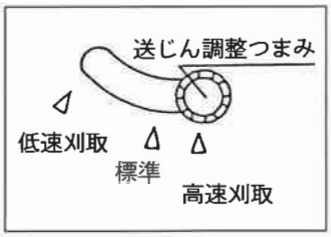
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
排ワラフィードチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動）	・つぎの手順により操作します。 ①作業機クラッチレバーを《切》にする。 ②脱こく・排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ③排ワラフイードチェンの張りを点検・調整する。 ④エンジンを始動する。 ⑤作業機クラッチレバーを《入》にして確認する。 ◆刈取り開始前に脱こく部のカラ運転をし，脱こく内部に溜まったワラ屑をきれいに排出してから作業を開始してください。	20・57

グレンタンク内にモミが出ない（脱こく部の詰まり）

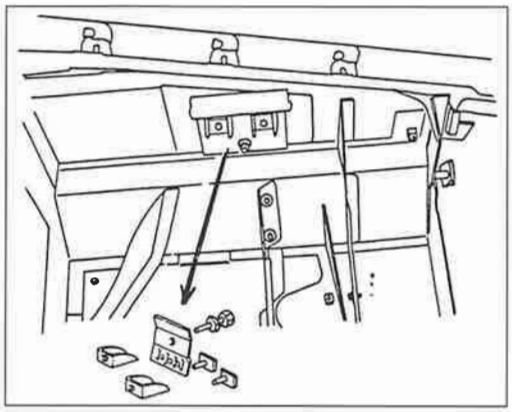
1詰まりの個所を点検し掃除をします。
・揚こく筒での詰まり……91ページ参照
・揺動流板に停滞……90ページ参照

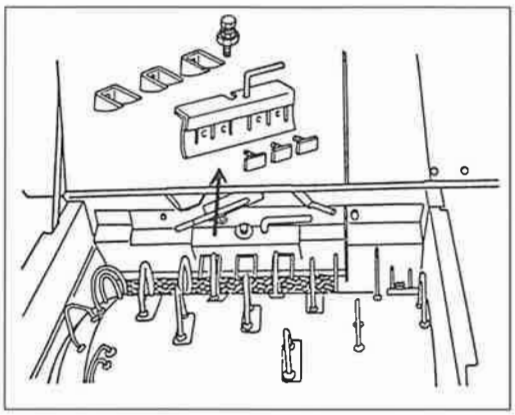
原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1こぎ胴回転が規定より低い。	・刈取り作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《稲・麦・種子》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	47
2ベルトがスリップしている。	・脱こく入力ベルトを張ります。 ・１番ラセンベルトを張ります。 ・選別ベルトを張ります。	102 107
3こぎ深さが《深こぎ》のため，こぎ室内のワラ屑の発生が多い。	・こぎ深さを《穂先マーク》に合わせます。	49
4作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	・作物がよく乾燥してから刈取ります。 ・受網の掃除。	43 89・90
5刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	・刈取り適期まで待って刈取ります。 ・作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	43 48・49
6スーパーワイドセレクタのセット位置が悪い。	・作物条件と刈取り速度により適正な位置にセットします。	25

能率が上らない（こぎ室内で《ゴトゴト音》がする）

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	・作物がよく乾燥してから刈取ります。 ・受網の掃除をします。	43 89・90
2こぎ深さが《深こぎ》のため，こぎ室内のワラ屑の発生が多い。	・こぎ深さを《穂先マーク》位置に合わせます。	49
3こぎ胴回転が規定より低い。	・刈取り作物にあったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《稲・麦・種子》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	47
4刈取り速度が速すぎる。	・主変速レバーで速度を下げます。	48・49
5送じんがスムーズでない。	・送じん調整つまみを高速刈取りにする。 	26

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
6 ワラ切鎌が切れない。	・ワラ切鎌の研磨または交換をする。	137

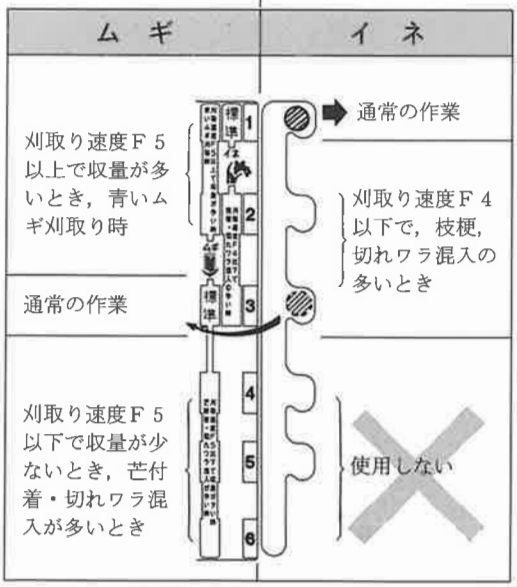




◆ワラ切鎌の中央にこぎ歯がくるように取付けてください。
◆ワラ切鎌の取付け方向を確認して確実に取付けてください。

モミの中に切れワラ等が混入する

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 スーパーワイドセレクタのセット位置が悪い。	・作物条件と刈取り速度により適正な位置にセットします。	25



三番ロスが多い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 こぎ深さが《深こぎ》のため，こぎ室内のワラ屑発生が多い。	・こぎ深さを《穂先マーク》位置に合わせます。	49
2 能率のあげすぎにより，揺動流板にワラ屑等が停滞気味。	・脱こく能力以上の高能率作業であり，主変速を１～２段下げて作業します。	48・49
3 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	・作物がよく乾燥してから刈取ります。 ・受網の掃除をします。	43 89・90
4 刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	・刈取り適期まで待って刈取ります。 ・作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	43 48・49
5 スーパーワイドセレクタのセット位置が悪い。	・作物条件と刈取り速度により適正な位置にセットします。	25

こぎ残しが多い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 こぎ深さが浅すぎる。	・こぎ深さを《穂先マーク》位置に合わせます。	49
2 こぎ胴の回転が低い。	・こぎ胴回転を規定回転に合わせて作業をします。	47
3 デバイダで作物を押し刈りしている。	・押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ・条合わせは，マルチステアリングレバーをこきざみに操作するように心掛けます。（レバーを強く操作すると，《ブレーキ》がきき，条を外れたり株元を押倒したりし，高刈りとなります。） ・雑草・ワラ屑の詰まりを除去します。 ・横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	50～52

脱ぷ米が多い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 スーパーワイドセレクタのセット位置が悪い。	・標準位置にセットします。	25
2 こぎ深さが《深こぎ》のためこぎ室内のワラ屑の発生が多い。	・こぎ深さを《穂先マーク》位置に合わせます。	49
3 刈取り速度が速すぎる。	・主変速レバーで速度を下げます。	48・49
4 送じんがスムーズでない。	・送じん調整つまみを《高速刈取》にセットします。	26
5 ワラ切鎌が切れない。	・ワラ切鎌の研磨または交換をします。	125・137
6 作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	・作物がよく乾燥してから刈取ります。 ・受網の掃除をします。	43 89・90

枝梗（しこう）付着が多い

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 こぎ胴の回転が低い。	・こぎ胴回転を規定回転に合わせて作業をします。	47
2 スーパーワイドセレクタのセット位置が悪い。	・作物条件と刈取り速度により適正な位置にセットします。	25
3 ワラ切鎌が切れない。	・ワラ切鎌の研磨または交換をします。	125・137
4 作物の収量が少ない。	・作業速度をあげ，できるだけ高能率で作業をします。	48・49

◆受網の枝梗網キット（網ピッチ12）がありますので御使用ください。

6 グレンタンク部関係

排出筒操作レバーを操作しても，旋回しない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 《グレン・アタッチ電源》ヒューズが切れている。	・ヒューズを交換します。（再発するときは，点検サービスを受けてください。）	10・11

こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 作業機クラッチが入っていない。	・作業機クラッチを入れます。	47
2 ベルトのスリップ。	・ベルトの張りを調整します。	104

7 ワラ処理部関係

カッタの切れ味が悪く巻きつきが発生し馬力をとる

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 刃の《摩耗》。	・刃を交換します。	95～98
2 排ワラの搬送姿勢が悪い。	・こぎ深さを《穂先マーク》位置に合わせます。 ・作業条件に合った副変速，刈取り変速に切替えます。	49 48
3 排ワラ量の増加。	・作業速度を適正にします。	48

カッタ部での詰まり

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 刃の《摩耗》。	・刃を交換します。	95～98
2 排ワラの搬送姿勢が悪い。	・こぎ深さを《穂先マーク》位置に合わせます。 ・作業条件に合った副変速，刈取り変速に切替えます。	49 48
3 排ワラ量の増加。	・作業速度を適正にします。	48
4 カッタ駆動ベルトの張りが適正でない。	・ベルトの張りを適正にします。	108

排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）

原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
1 排ワラフィードチェンの張り不良。	・排ワラフィードチェンの張り調整をします。	111
2 こぎ深さが適正でない。	・こぎ深さを《穂先マーク》位置に合わせます。	49

付　　表

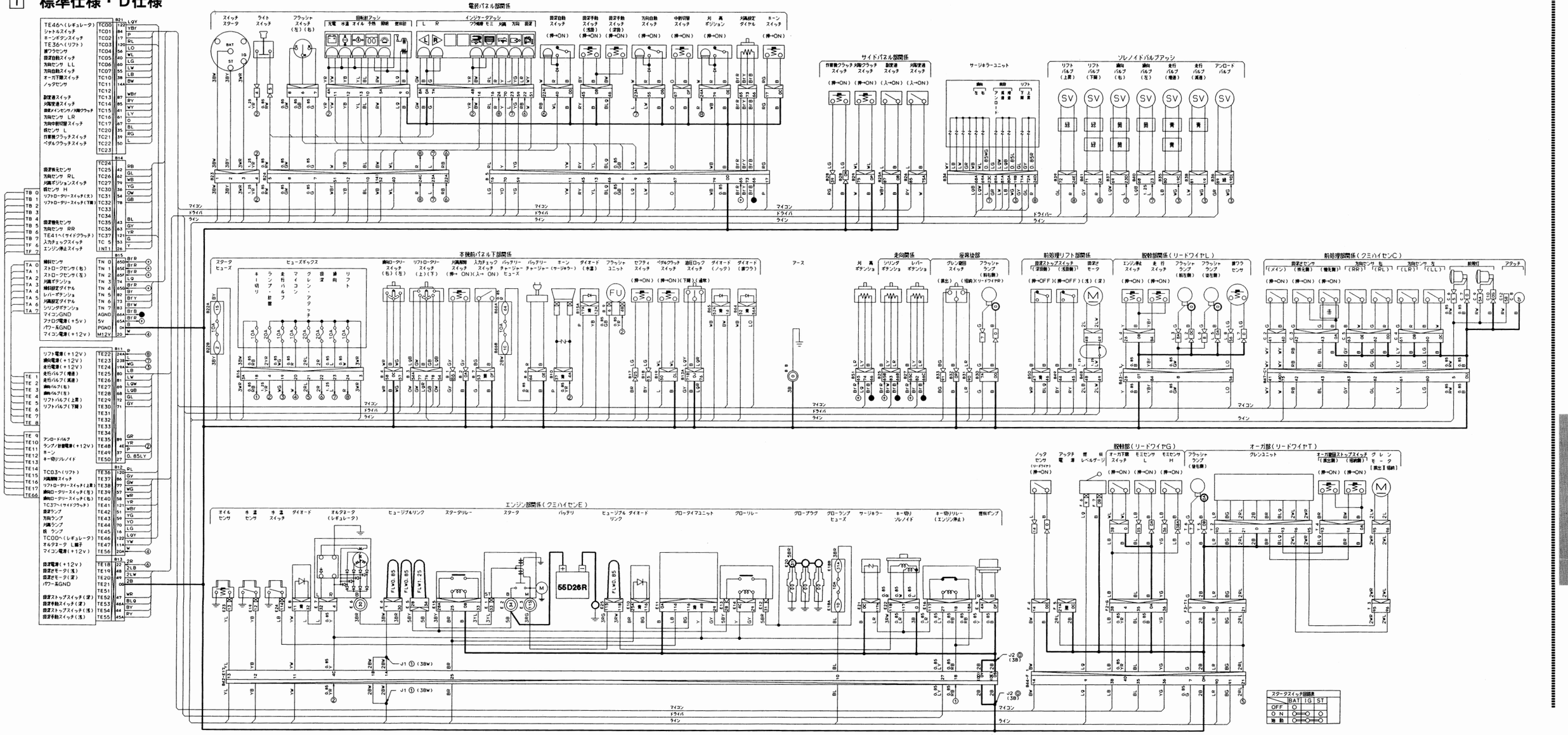
1 主要諸元

型式			26G型		
区分			26GAKC	26GLUYAKC	26DGUYAKC
機体寸法	全長（mm）		3645		
	全幅（mm）		1680		
	全高（mm）		1980		
重量（kg）			1850	1895	1940
エンジン	名称		S3L2		
	形式		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル		
	総排気量（cc）		1318		
	出力／回転速度（PS/rpm）		26／2700		
	燃料タンク容量		25		
	始動方式		セルスタータ式		
走行部	クローラ（幅×接地長）（mm）		380×1200	450×1200	
	クローラ中心距離（mm）		850		780～920
	変速方式		前進2段・後進2段（無段変速併用）		
刈取部	刈幅（mm）		1075	1075～1125	
	刈取条数（条）		3		
	こぎ深さ調節方式		電動式（こぎ深さ自動制御）		
脱こく部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式		
	第1こぎ胴	径×幅（mm）	φ410×520		
		回転速度（rpm）	470（稲・麦）　428（種子）		
	第2こぎ胴	径×幅（mm）	φ140×639		
もみ処理部	こく粒取外し方式		グレンタンク・オーガ排出		
	容量		560ℓ		

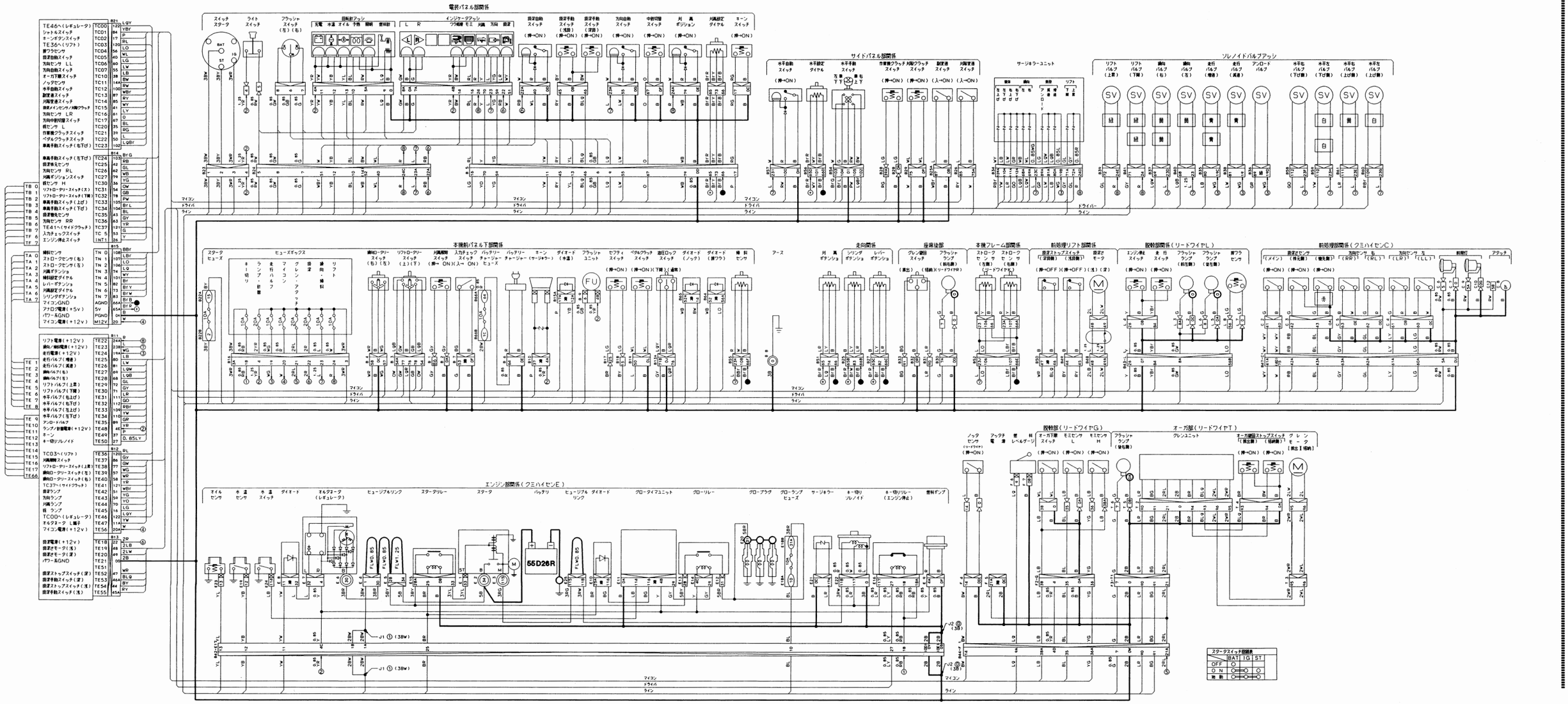
♣この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2 電気配線図

1 標準仕様・D仕様

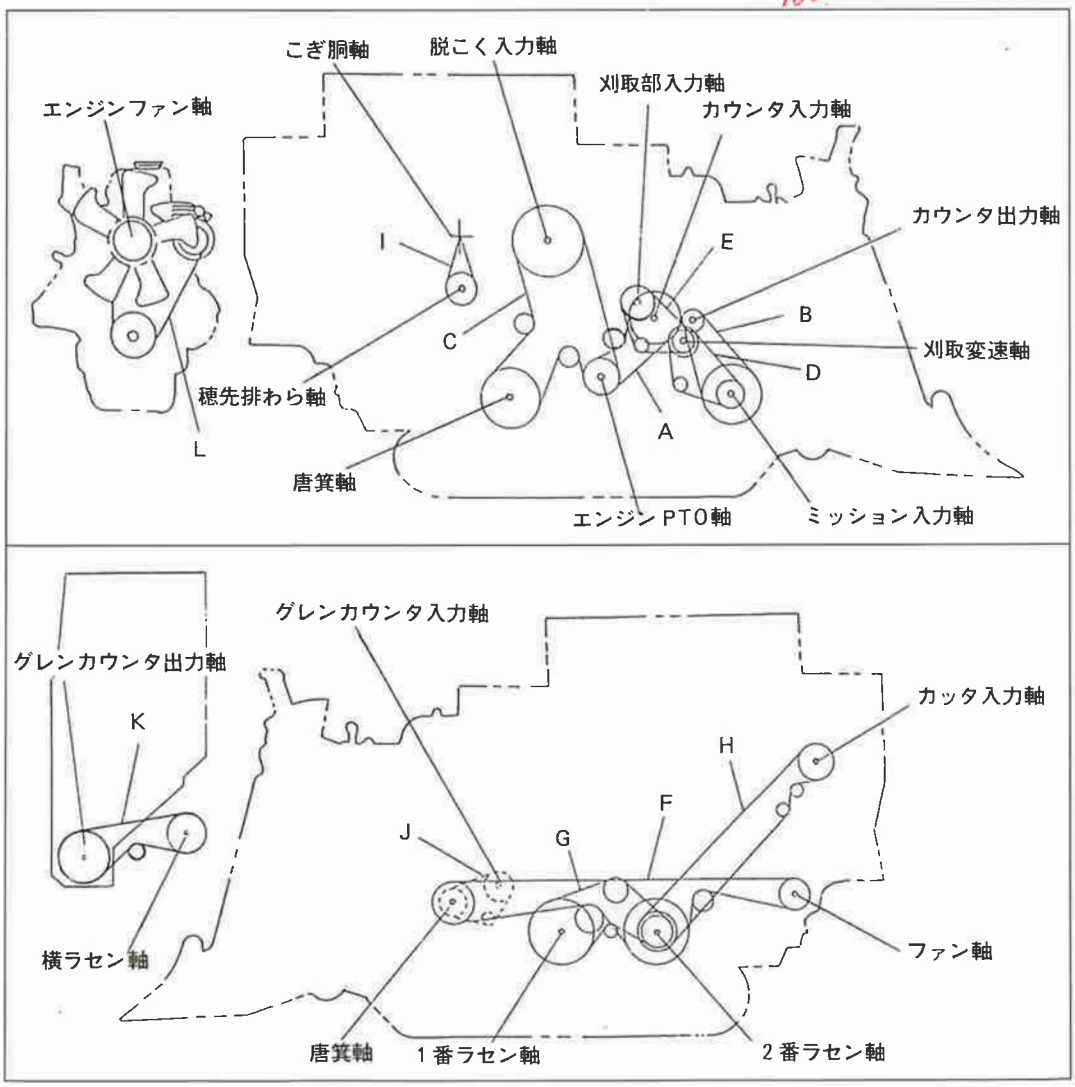


2 機体水平制御仕様


電装パネル部関係
本機前パネル下部関係
走行関係
座席後部
本機フレーム部関係
前処理リフト部関係
脱穀部関係（リードワイヤL）
前処理部関係（クミハイセンC）
サイドパネル部関係
サージキラーユニット
ソレノイドバルブアッシ
エンジン部関係（クミハイセンE）
脱穀部（リードワイヤG）
オーガ部（リードワイヤT）
マイコン
ドライバ
ライン
アース
55D26R
スターター関係スイッチ図
OFF
ON
始動

3 ベルト一覧表

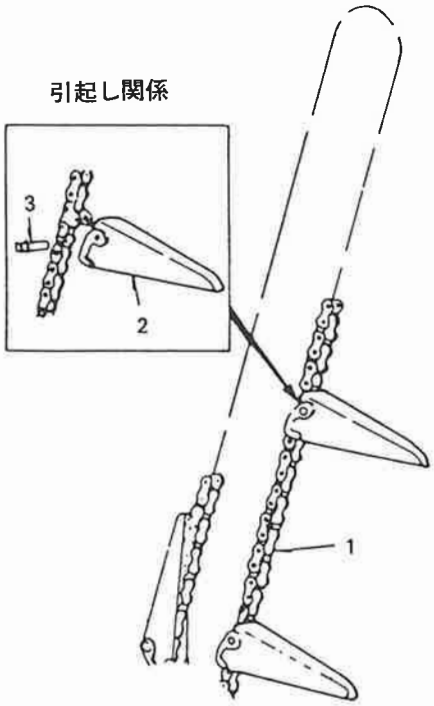
記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジンPTO軸～カウンタ出力軸	1	3523 0052 003	コグベルト	カウンタベルト
B	カウンタ出力軸～ミッション入力軸	1	3523 1745 002	コグベルト	変速ベルト
C	エンジンPTO軸～脱こく入力軸	1	3546 6147 000	LB−101	脱こく入力ベルト
D	ミッション出力軸～刈取変速軸	1	0852 1600 042	SB−42	刈取変速ベルト
E	刈取変速軸～刈取入力軸	1	0852 1600 039	SB−39	刈取ベルト
F	唐箕軸～ファン軸	1	0852 1300 099	LB−99	選別ベルト
G	2番ラセン軸～1番ラセン軸	1	3523 6631 000	SA−44	1番ラセン駆動ベルト
H	2番ラセン軸～カッタ入力軸	1	0852 1000 094	LB−94	カッタベルト
I	こぎ胴軸～穂先排ワラ軸	1	0850 0400 022	M−22	穂先ベルト
J	唐箕軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1500 036	SB−36	グレン入力ベルト
K	グレンカウンタ出力軸～横ラセン軸	1	0852 1500 057	SB−57	横ラセンベルト
L	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	MD08 8955	HM-480mm → 780	ファンベルト



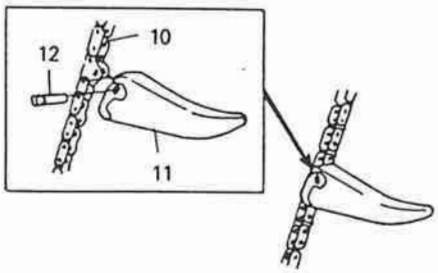
4 主な消耗部品一覧表

1 爪 関 係

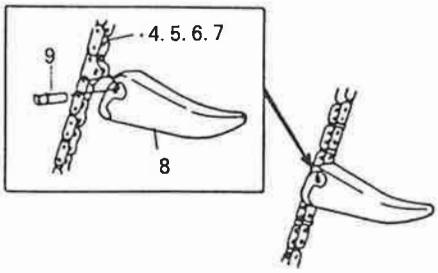
引起し関係



穂先搬送関係



掻込み搬送関係

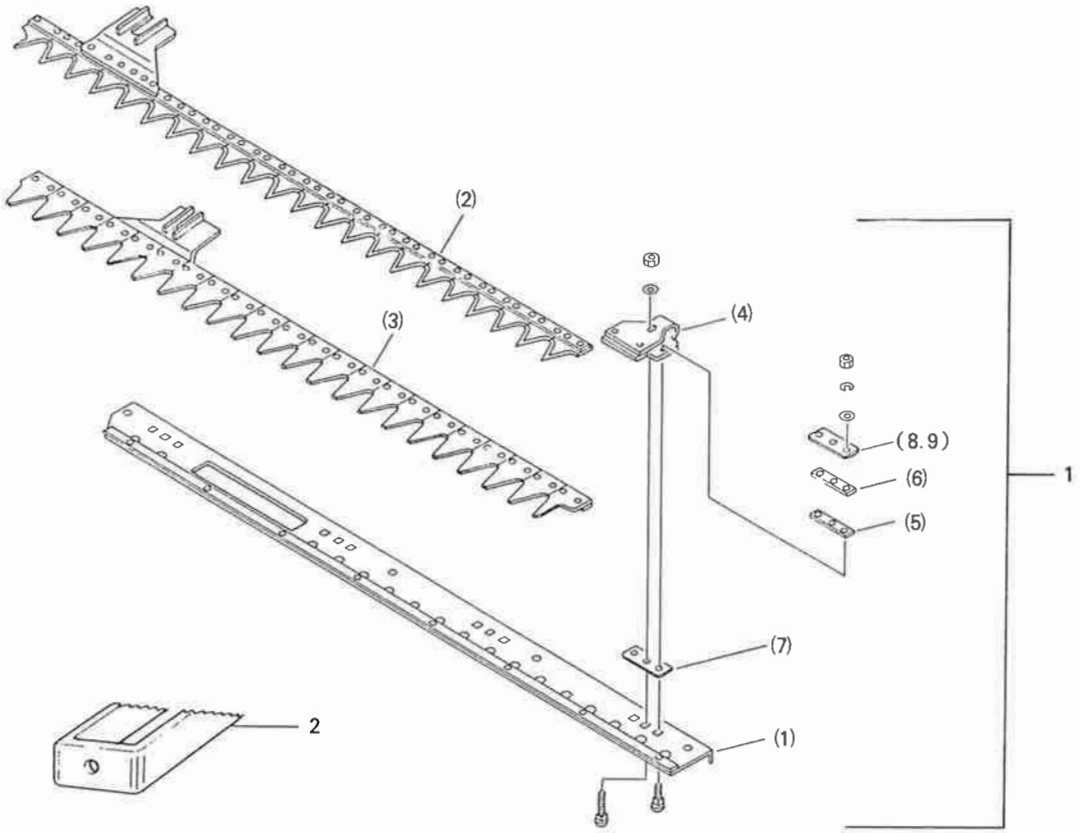


No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェーン（3本）	3523 4426 000	
2	ツメ（30本）	3602 4327 002	
3	ピン（30本）	3523 4428 000	
4	チェーン（1本）	3523 4778 000	右 下
5	チェーン（1本）	3523 4789 000	右 上
6	チェーン（1本）	3523 4716 000	左 下
7	チェーン（1本）	3523 4744 000	左 上
8	ツメ（25本）	3700 5321 010	
9	ピン（25本）	3523 4428 000	
10	チェーン（1本）	3523 5252 000	
11	ツメ（15本）	3704 5239 000	
12	ピン（15本）	3523 4428 000	

♣ご用命のときは，必ず《部品番号》をお知らせください。

♣爪を交換する場合は，99ページを参考にして行ってください。

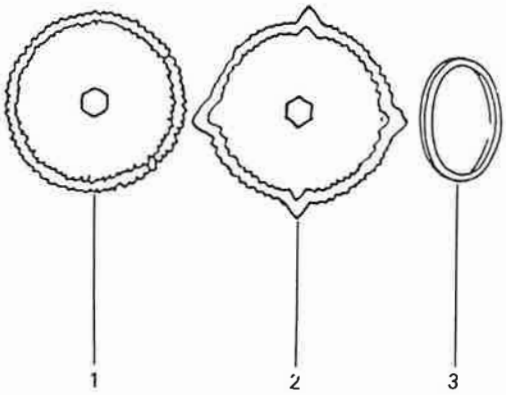
2 刈刃・カマ関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1	カリハアッセンブリ	3523 4352 000	
(1)	ウケハダイ	3523 4353 000	
(2)	ウエバアッシ	3523 4356 000	
(3)	シタバアッシ	3523 4361 000	
(4)	ナイフクリップ (4個)	3523 4365 000	
(5)	ライナA (4個)	3523 4366 000	
(6)	ライナB (4個)	3523 4366 100	
(7)	スペーサ (4個)	3523 4367 000	
(8)	スライドプレート (2個)	3523 4368 000	
(9)	スライドプレート (2個)	3523 4369 000	
2	ワラキリカマ (5個)	3735 7321 001	

♣ご用命のときは，必ず《部品番号》をお知らせください。

3 カッタ関係



No.	部品名称	個数		部品番号
		D26−15	D26−22	
1	ノコ刃	17	22	3602 8755 001
2	スターホイル刃	17	22	3800 0510 000
3	ラバーリングD	5	6	3938 3304 000

♣ご用命のときは，必ず《部品番号》をお知らせください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

5 潤滑油

使用オイル表

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1 エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル
全農	クミアイエンジンオイル（ディーゼル用）
三菱石油	ダイヤモンドHDS－3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

・その他は，一流メーカのオイルでAPIサービス分類CD級以上，SAE・10W－30のオイルをお使いください。

・エンジンオイルは温度条件に合わせてご使用ください。

気温℃	−10	0	10	20	30
エンジンオイル	マルチSTOU・10W－30				
	SAE20		SAE30		

2 油圧作動油（オイルタンク）

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル マルチGBオイル（80W）
三菱石油	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル ダイヤモンドファームギヤオイルB（80W）
日本石油	アントイルB（80W）

3 ギヤオイル

（使用区分は29ページを参照）

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル マルチGBオイル（80W）
三菱石油	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（＃140） ダイヤモンドスーパーHPギヤオイル（＃90）

《三菱農機（純正油）マルチオイルペア》

・マルチSTOU（ストー）オイルは，１種類でエンジンオイル，ギヤオイルとして，一年中ご使用いただける，オールシーズンタイプのオイルです。

・マルチGBオイルは，ギヤ及び湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（G）と湿式ブレーキ（B）専用オイルです。

マルチSTOU（ストー）オイル



マルチGBオイル



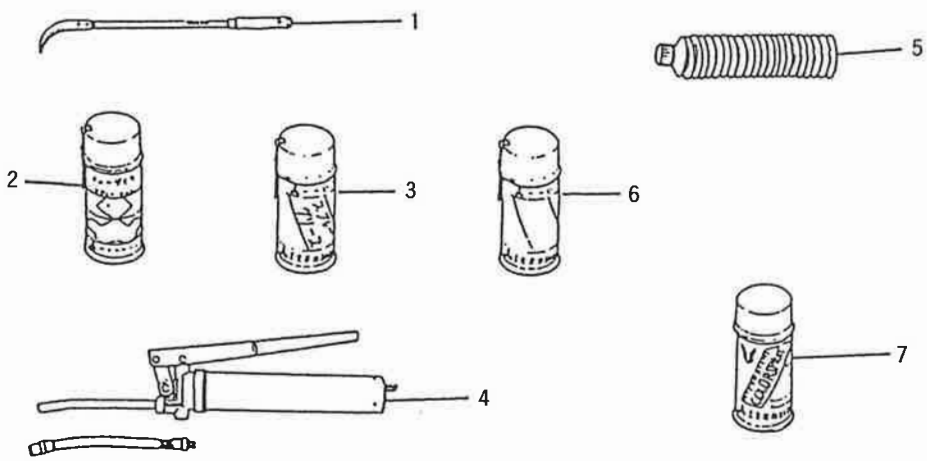
性状＼品名		マルチSTOUオイル	マルチGBオイル
比重 15／4℃		0.883	0.893
引火点 ℃		210	230
流動点 ℃		−37.5	−35.0
動粘度cSt	at 40℃	62.2	78.4
	at 100℃	10.8	9.8
粘度指数		168	104
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL−4	GL−4
ＳＡＥ粘度番号		10W−30	80W
荷姿		ドラム・20ℓ缶	20ℓ缶

♣お買い求めは，弊社《特約販売店》で取扱っていますのでご相談ください。

6 コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号	備　　考
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆・潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰替え用
6	ねずみよけスプレー	K1－420	
7	カラースプレー（赤）	0975 0000 270	補修用塗料
	〃　（白）	0975 0000 160	
	〃　（黒）	0975 0000 470	



♣ご用命のときは，必ず《商品番号》・《部品番号》をお知らせください。